

中  
御  
所  
遺  
跡

# 中御所遺跡

(一)南新井前橋線バイパス(2期工区)社会資本総合整備  
(活力・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

(一)  
南  
新  
井  
前  
橋  
線  
バ  
イ  
パ  
ス  
(  
2  
期  
工  
区  
)-  
社  
会  
資  
本  
総  
合  
整  
備  
(  
活  
力  
・  
重  
点  
)-  
事  
業  
に  
伴  
う  
埋  
蔵  
文  
化  
財  
発  
掘  
調  
査  
報  
告  
書



二〇二一

公  
群  
益  
財  
団  
法  
人  
群  
馬  
県  
埋  
蔵  
文  
化  
財  
調  
査  
事  
業  
団

2021

群 馬 県 渋 川 土 木 事 務 所  
公 益 財 団 法 人 群 馬 県 埋 蔵 文 化 財 調 査 事 業 団

# 中御所遺跡

(一)南新井前橋線バイパス(2期工区)社会資本総合整備  
(活力・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

群馬県渋川土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 序

南新井前橋線バイパス整備事業は、県道南新井前橋線の安全かつ円滑な自動車交通の確保と、駒寄スマートインターチェンジへの交通アクセスの向上を主な目的として、平成20年度より事業が進められてまいりました。本書は、平成28年度に行われた南新井前橋線バイパス整備事業の2期工区に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査の成果を報告するものであります。

本書で報告いたします中御所遺跡は古代から中世に至る集落遺跡として周知されております。今回の発掘調査でも、平安時代の竪穴建物8軒、中世の掘立柱建物4軒のほかにも竪穴状遺構10基、井戸4基など多くの遺構が確認されており、古代から中世に至る集落の一端が新たになりました。

これらの調査成果は、吉岡町を中心とした地域、ひいては群馬県における古代から近世に至る歴史を考えるうえでも重要な資料となるものと考えております。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県北群馬渋川振興局渋川土木事務所、群馬県教育委員会および吉岡町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 向田忠正



# 例 言

1. 本書は、平成28年度に平成28年度(一)南新井前橋線バイパス(2期工区)社会資本総合整備(活力・重点)事業に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査を行い、令和2年度に令和2年度補助公共道路改築事業(地方道・連携)(一)南新井前橋線(2期工区)に伴う中御所遺跡の埋蔵文化財整理事業として整理作業を行った、中御所遺跡の発掘調査報告書である。
2. 中御所遺跡は北群馬郡吉岡町陣場109B, 171-2B, 171-1B番地に所在する。
3. 事業主体 群馬県渋川土木事務所
4. 調査主体 公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 発掘調査の期間と体制

調査履行期間	平成28年12月1日～平成29年3月31日
調査期間	平成29年1月1日～平成29年3月31日
調査担当	石坂 聡、飛田野正佳
遺跡掘削工事請負	株式会社 測研
地上測量委託	技研コンサル株式会社
空中写真撮影委託	技研コンサル株式会社
6. 調査面積 1,978㎡
7. 整理作業履行期間 令和2年10月1日～令和3年3月31日  
整理期間 令和2年10月1日～令和3年3月31日
8. 本書の作成分担

編集	佐藤元彦
デジタル編集	齊田智彦
遺物観察	石製品：松村和男 金属製品：板垣泰之 古代遺物：神谷佳明 中近世遺物：矢口裕之
遺物写真撮影	石製品：松村和男 金属製品：板垣泰之 縄文土器：関口博幸 中近世遺物：矢口裕之
	その他：佐藤元彦
9. 発掘調査及び報告書作成には、群馬県渋川土木事務所、群馬県教育委員会、吉岡町教育委員会をはじめ、関係機関ならびに関係各位に多くのご協力、ご指導を賜った。
10. 出土遺物及び写真・図面等記録類の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターである。

# 凡 例

1. 本報告書(以下本書)に用いた遺構名称は、混乱を避けるため一部を除き発掘調査時の名称を踏襲した。ただし、編集に際し変更の生じたものを末尾に掲示した。

なお、当事業団では平成30年度より、文化庁文化財部記念物課編(2013)『発掘調査の手引き』に準拠して、従来の「竪穴住居」を「竪穴建物」と表記している。本書においては、これ以前に刊行された報告書記載の遺構名は、混乱を避けるため報告時の表記を踏襲している。

2. 本書に用いた座標・方位はすべて世界測地系、平面直角座標系第1X系による。

世界測地系による当所の所在は、北緯36度25分47.14秒、東経139度0分18.42秒であり、座標北と真北との偏差は+0度29分30.65秒、当所における磁北線はN-7.27°-Wである。

また、遺構図中の十字記号は世界測地系平面直角座標系第1X系に基づく基準点を示す。X値とY値の整数部末尾3桁を付記した。

3. 遺構の主軸方位は座標北を基準とした。カマドのある竪穴建物にあってはカマドのある壁と直交する軸を主軸とし、その傾きを度で示した。またこれ以外の遺構で形状の確認できる遺構においては長軸を主軸とし、その傾きを度で示し、形状の不明なものについては計測不能のため不明とした。

4. 遺構の標高は、原則として遺構断面図中に「L=○.○m」と表記した。計測値は主軸方向を縦とし、縦・横:面積の順に記した。主軸方向の不明な遺構については長:短:面積の順での記載を原則とした。

5. 全容が確認できない遺構については、検出部分の計測値を( )付きで表記した。

6. 遺構面積の算出に際しては、縮尺1:40の平面図を計測に用いた。

7. 本書の遺構図版縮尺は以下を基本とする。

竪穴建物 1:60。カマド 1:30。竪穴状遺構、井戸、土坑、ピット 1:40。

掘立柱建物、ピット列 1:80。

8. 本書の遺物図版縮尺は以下を原則とする。

土器 1:3。石製品 1:2。金属製品 1:2。

9. 本書で使用したトーンは以下のとおりである。

焼土  粘土  炭  硬化面 

10. 本書における遺構略称は以下のとおりである。

竪穴建物 建。竪穴状遺構 竪。掘立柱建物 掘。土坑 土。井戸 井。ピット P。

11. 本書における土層注記及び遺物観察表記載に用いた色彩表現は、農林水産省水産技術事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1996「新版標準土色帳」に基づく。

12. 本書で使用した地形図、地勢図は以下のとおりである。

国土地理院1:25,000地形図「伊香保」平成24年9月1日発行

国土地理院1:25,000地形図「渋川」平成14年10月1日発行

国土地理院1:25,000地形図「金井」平成21年5月1日発行

国土地理院1:25,000地形図「鯉沢」平成21年6月1日発行

国土地理院1:200,000地勢図「長野」平成23年6月1日発行

国土地理院1:200,000地勢図「宇都宮」平成24年5月1日発行

13. 同一遺跡の発掘調査報告書として、下記の報告書が刊行されている。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第14集、清里・陣場遺跡』

吉岡町教育委員会 2001『吉岡町文化財調査報告書第13集、中御所遺跡』

吉岡町教育委員会 2005『吉岡町文化財調査報告書第21集、中御所日遺跡』

調査時	掲載時	調査時	掲載時	調査時	掲載時
18号ビット	→ 1号ビット列P5	90号ビット	→ 2号掘立柱建物P7	145号ビット	→ 3・11号ビット列P1
19号ビット	→ 1号ビット列P4	93号ビット	→ 2号掘立柱建物P6	147号ビット	→ 3・11号ビット列P4
22号ビット	→ 1号ビット列P3	98号ビット	→ 5号掘立柱建物P3	148号ビット	→ 3号掘立柱建物P3
24号ビット	→ 7号ビット列P2	99号ビット	→ 2号ビット列P1	149号ビット	→ 3・11号ビット列P5
25号ビット	→ 1号ビット列P2	100号ビット	→ 2号ビット列P2	150号ビット	→ 5号掘立柱建物P8
27号ビット	→ 1号ビット列P1	102号ビット	→ 5号掘立柱建物P5	151号ビット	→ 3号掘立柱建物P4
37号ビット	→ 7号ビット列P1	104号ビット	→ 1号掘立柱建物P2	153号ビット	→ 1号掘立柱建物P4
38号ビット	→ 2号掘立柱建物P3	109号ビット	→ 5号掘立柱建物P10	156号ビット	→ 5号掘立柱建物P7
51号ビット	→ 7号ビット列P3	110号ビット	→ 1号掘立柱建物P3	160号ビット	→ 5号掘立柱建物P6
57号ビット	→ 2号掘立柱建物P2	113号ビット	→ 1号掘立柱建物P6	161号ビット	→ 3号掘立柱建物P5
65号ビット	→ 2号掘立柱建物P4	118号ビット	→ 1号掘立柱建物P5	163号ビット	→ 3号掘立柱建物P6
69号ビット	→ 8号ビット列P1	124号ビット	→ 5号掘立柱建物P1	165号ビット	→ 3号掘立柱建物P7
80号ビット	→ 8号ビット列P4	126号ビット	→ 1号掘立柱建物P1	168号ビット	→ 3号掘立柱建物P8
81号ビット	→ 8号ビット列P3	129号ビット	→ 5号掘立柱建物P2	171号ビット	→ 5号掘立柱建物P4
82号ビット	→ 2号ビット列P6	133号ビット	→ 5号掘立柱建物P9	177号ビット	→ 2号掘立柱建物P10
83号ビット	→ 8号ビット列P2	135号ビット	→ 1号掘立柱建物P7	178号ビット	→ 2号掘立柱建物P9
84号ビット	→ 2号ビット列P5	139号ビット	→ 3・11号ビット列P3	179号ビット	→ 2号掘立柱建物P8
85号ビット	→ 2号ビット列P4	140号ビット	→ 3号掘立柱建物P2	191号ビット	→ 2号掘立柱建物P1
86号ビット	→ 2号ビット列P3	143号ビット	→ 3・11号ビット列P2		
88号ビット	→ 2号掘立柱建物P5	144号ビット	→ 3号掘立柱建物P1		

# 目 次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第1章 調査経過と調査の方法	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	2
第2章 周辺の環境	
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	5
第3節 調査の概要と基本土層	10
1 調査の概要	10
2 基本土層	10
第3章 確認された遺構と遺物	
第1節 1面の遺構と遺物	14
第1項 1面の概要	14
第2項 1面の遺構	14
1 竪穴建物	14
2 掘立柱建物	23
3 竪穴状遺構	27
4 ビット列	37
5 溝	40
6 井戸	50
7 土坑	53
8 ビット	65

第2節 2面及び3面の遺構と遺物	73
第1項 2面及び3面の概要	73
第2項 2面の遺構	73
1 土坑	73
2 ビット	73
第3節 出土遺物	75
第4章 まとめ	92

抄録  
写真図版  
奥付

## 挿図目次

第1-1図	遺跡位置図	1	第3-25図	溝3	44
第1-2図	調査区位置図	2	第3-26図	溝4	46
第1-3図	調査区設定図	3	第3-27図	溝5	48
第2-1図	周辺の道跡	4	第3-28図	溝6	49
第2-2図	基本土層	11	第3-29図	井戸1	51
第2-3図	1面, 2面全体図	12	第3-30図	井戸2	52
第2-4図	3面全体図	13	第3-31図	井戸3	53
第3-1図	1号竪穴建物	15	第3-32図	土坑1	56
第3-2図	2・3号竪穴建物1	16	第3-33図	土坑2	58
第3-3図	2・3号竪穴建物2	17	第3-34図	土坑3	60
第3-4図	4号竪穴建物, 5号竪穴建物	19	第3-35図	土坑4	62
第3-5図	6号竪穴建物, 7号竪穴建物	20	第3-36図	土坑5	64
第3-6図	8号竪穴建物1	21	第3-37図	ビット1	67
第3-7図	8号竪穴建物2	22	第3-38図	ビット2	68
第3-8図	1号掘立柱建物	23	第3-39図	ビット3	69
第3-9図	2号掘立柱建物	24	第3-40図	ビット4	70
第3-10図	3号掘立柱建物	25	第3-41図	ビット5	71
第3-11図	5号掘立柱建物	26	第3-42図	ビット6	72
第3-12図	1号竪穴状遺構	27	第3-43図	ビット7	73
第3-13図	2号竪穴状遺構	29	第3-44図	2面上土坑, ビット	75
第3-14図	3号竪穴状遺構	30	第3-45図	出土遺物1	75
第3-15図	4号竪穴状遺構	31	第3-46図	出土遺物2	76
第3-16図	5号竪穴状遺構	32	第3-47図	出土遺物3	77
第3-17図	6号竪穴状遺構	33	第3-48図	出土遺物4	78
第3-18図	7号竪穴状遺構, 9号竪穴状遺構	34	第3-49図	出土遺物5	79
第3-19図	8号竪穴状遺構	35	第3-50図	出土遺物6	80
第3-20図	10号竪穴状遺構	36	第3-51図	出土遺物7	81
第3-21図	ビット列1	37	第3-52図	出土遺物8	82
第3-22図	ビット列2	38	第3-53図	出土遺物9	83
第3-23図	溝1	41	第4-1図	相対位置図	92
第3-24図	溝2	42	第4-2図	7号竪穴建物と10号住居	93

## 表目次

第2-1表	周辺道跡一覧	6	第3-11表	3・11号ビット列計測表	39
第3-1表	1号掘立柱建物柱間計測表	23	第3-12表	7号ビット列計測表	40
第3-2表	1号掘立柱建物ビット計測表	23	第3-13表	8号ビット列計測表	40
第3-3表	2号掘立柱建物柱間計測表	24	第3-14表	ビット計測表	65
第3-4表	2号掘立柱建物ビット計測表	24	第3-15表	遺物観察表	84
第3-5表	3号掘立柱建物柱間計測表	25	第3-16表	未掘載灰種陶器集計	89
第3-6表	3号掘立柱建物ビット計測表	25	第3-17表	剥片集計表	89
第3-7表	5号掘立柱建物柱間計測表	26	第3-18表	未掘載遺物(中近世)	90
第3-8表	5号掘立柱建物ビット計測表	26	第3-19表	未掘載遺物(古代)	91
第3-9表	1号ビット列計測表	37	第4-1表	市道18-007号線沿いの竪穴建物	93
第3-10表	2号ビット列計測表	39			

# 写真目次

Pl. 1	6 10号竪穴状遺構P7 (北から)
1 中御所遺跡平成28年度調査区(上空より)	7 10号竪穴状遺構P8 (北から)
2 調査区1面東半(上空より)	Pl. 9
Pl. 2	1 調査区1面中央(上空より)
1 1号竪穴建物(西から)	2 調査区1面西端(上空より)
2 1号竪穴建物掘り方(西から)	Pl.10
3 1号竪穴建物カマド(西から)	1 1号溝(南から)
4 1号竪穴建物貯蔵穴(西から)	2 1号溝土層断面(南から)
5 1号竪穴建物貯蔵穴土層断面(西から)	3 2号溝(北から)
6 1号竪穴建物P1 (西から)	4 2号溝土層断面(南から)
7 2号竪穴建物(西から)	5 4号溝(北西から)
8 2号竪穴建物カマド(南から)	6 3号溝(南から)
Pl. 3	Pl.11
1 3号竪穴建物(北から)	1 4号溝北側土層断面(東から)
2 3号竪穴建物遺物出土状況(北から)	2 4号溝南側土層断面(北から)
3 3号竪穴建物カマド土層断面(北から)	3 4号溝南側(北から)
4 3号竪穴建物カマド掘り方(北から)	4 4号溝北端(北から)
5 5号竪穴建物(西から)	5 5号溝(南から)
6 5号竪穴建物カマド(西から)	6 6号溝(北から)
7 6号竪穴建物(東から)	7 7号溝(東から)
8 6号竪穴建物遺物出土状況(東から)	8 7号溝土層断面(南から)
Pl. 4	Pl.12
1 7号竪穴建物(東から)	1 7～9号溝南側(東から)
2 7号竪穴建物遺物出土状況(東から)	2 7～9号溝南側(西から)
3 8号竪穴建物(西から)	3 7～9号溝土層断面(南から)
4 8号竪穴建物遺物出土状況(西から)	4 7～9号溝北側(北から)
5 8号竪穴建物掘り方(西から)	5 8号溝土層断面(南から)
6 8号竪穴建物カマド(西から)	6 8・9号溝土層断面(南から)
7 8号竪穴建物カマド石組み下部(西から)	7 9号溝土層断面(北から)
8 8号竪穴建物カマド構築状況(南西から)	8 10～13号溝(北から)
Pl. 5	Pl.13
1 8号竪穴建物カマド構築状況(北西から)	1 10号溝土層断面(南から)
2 8号竪穴建物カマドの埴(南西から)	2 11～13号溝(北から)
3 1号竪穴状遺構(南から)	3 11号溝土層断面(南から)
4 2号竪穴状遺構(北から)	4 12号溝土層断面(南から)
5 3号竪穴状遺構(東から)	5 13号溝土層断面(南から)
6 3号竪穴状遺構遺物出土状況(東から)	6 10～16号溝(北から)
7 3号竪穴状遺構掘り方(東から)	7 14号溝(北から)
8 3号竪穴状遺構焼上(西から)	8 14号溝南端土層断面(北から)
Pl. 6	Pl.14
1 3号竪穴状遺構P3土層断面(南から)	1 14・21号溝土層断面(北から)
2 3号竪穴状遺構床下土坑土層断面(南から)	2 14号溝土層断面(南から)
3 4号竪穴状遺構(北から)	3 15・16号溝(北から)
4 4号竪穴状遺構土層断面(南から)	4 15・16号溝土層断面(北から)
5 5号竪穴状遺構(南から)	5 17・18号溝(西から)
6 5号竪穴状遺構掘り方(北から)	6 17・18号溝(南から)
7 6号竪穴状遺構(東から)	7 17号溝南側土層断面(東から)
8 6号竪穴状遺構土層断面(南から)	8 17号溝北端土層断面(南から)
Pl. 7	Pl.15
1 7号竪穴状遺構(東から)	1 17・18号溝土層断面(南から)
2 7号竪穴状遺構遺物取上状況(南から)	2 19・22号溝(北から)
3 8号竪穴状遺構(北から)	3 19号溝土層断面(南から)
4 8号竪穴状遺構遺物取上状況(南から)	4 22号溝土層断面(北から)
5 9号竪穴状遺構(西から)	5 20号溝(北から)
6 10号竪穴状遺構(北から)	6 20号溝土層断面(北から)
7 10号竪穴状遺構出入口部(北から)	7 17・21号溝(北東から)
8 10号竪穴状遺構P1 (北から)	8 21号溝(西から)
Pl. 8	Pl.16
1 10号竪穴状遺構P2 (北から)	1 21号溝土層断面(南から)
2 10号竪穴状遺構P3 (北から)	2 1号井戸(南から)
3 10号竪穴状遺構P4 (北から)	3 1号井戸(西から)
4 10号竪穴状遺構P5 (北から)	4 1号井戸下部(西から)
5 10号竪穴状遺構P6 (北から)	5 1号井戸土層断面(南から)

- 6 2号井戸(南から)
- 7 2号井戸(東から)
- 8 2号井戸上層断面(北から)

PL.17

- 1 3号井戸(西から)
- 2 3号井戸上層断面(東から)
- 3 4号井戸(北から)
- 4 4号井戸上層断面(南から)
- 5 1号土坑(南から)
- 6 2号土坑(北から)
- 7 2号土坑上層断面(南から)
- 8 3号土坑(南から)

PL.18

- 1 3号土坑上層断面(南から)
- 2 4号土坑(南から)
- 3 4号土坑上層断面(南から)
- 4 5号土坑(南から)
- 5 5号土坑上層断面(南から)
- 6 6号土坑(西から)
- 7 6号土坑上層断面(南から)
- 8 7号土坑上層断面(南から)

PL.19

- 1 8号土坑(南から)
- 2 8号土坑上層断面(北から)
- 3 9号土坑(東から)
- 4 9号土坑上層断面(西から)
- 5 10号土坑(南から)
- 6 10号土坑上層断面(南から)
- 7 11号土坑(南から)
- 8 11号土坑上層断面(南から)

PL.20

- 1 12～18号土坑(東から)
- 2 12・13・18号土坑(北から)
- 3 12・13・18号土坑上層断面(南から)
- 4 15～17号土坑(西から)
- 5 16・17号土坑上層断面(西から)
- 6 14号土坑(南から)
- 7 19号土坑(南から)
- 8 19号土坑上層断面(南から)

PL.21

- 1 21号土坑(南から)
- 2 21号土坑上層断面(南から)
- 3 22号土坑(南から)
- 4 22号土坑上層断面(南から)
- 5 25号土坑(北から)
- 6 25号土坑上層断面(北から)
- 7 28号土坑(北から)
- 8 28号土坑上層断面(南から)

PL.22

- 1 29号土坑(南から)
- 2 29号土坑上層断面(南から)
- 3 30号土坑(南から)
- 4 31号土坑(東から)
- 5 31号土坑上層断面(東から)
- 6 32号土坑(東から)
- 7 32号土坑上層断面(東から)
- 8 34号土坑上層断面(南から)

PL.23

- 1 36号土坑(東から)
- 2 37号土坑(南から)
- 3 38号土坑(南から)
- 4 39号土坑(東から)
- 5 40号土坑(南から)
- 6 40号土坑遺物出土状況(南から)
- 7 41号土坑(南から)

PL.24

- 1 1号ピット(北から)
- 2 40号ピット(南から)
- 3 52号ピット(南から)
- 4 56号ピット(南から)
- 5 58号ピット(南から)
- 6 61号ピット(南から)
- 7 67号ピット(南から)
- 8 71号ピット(南から)
- 9 75号ピット(南から)
- 10 87号ピット(南から)
- 11 105号ピット(南から)
- 12 127号ピット(南から)
- 13 203号ピット(南から)
- 14 204号ピット(南から)
- 15 205号ピット(南から)
- 16 206号ピット(南から)
- 17 207号ピット(南から)
- 18 208号ピット(南から)

PL.25

出土遺物 1

PL.26

出土遺物 2

PL.27

出土遺物 3

PL.28

出土遺物 4



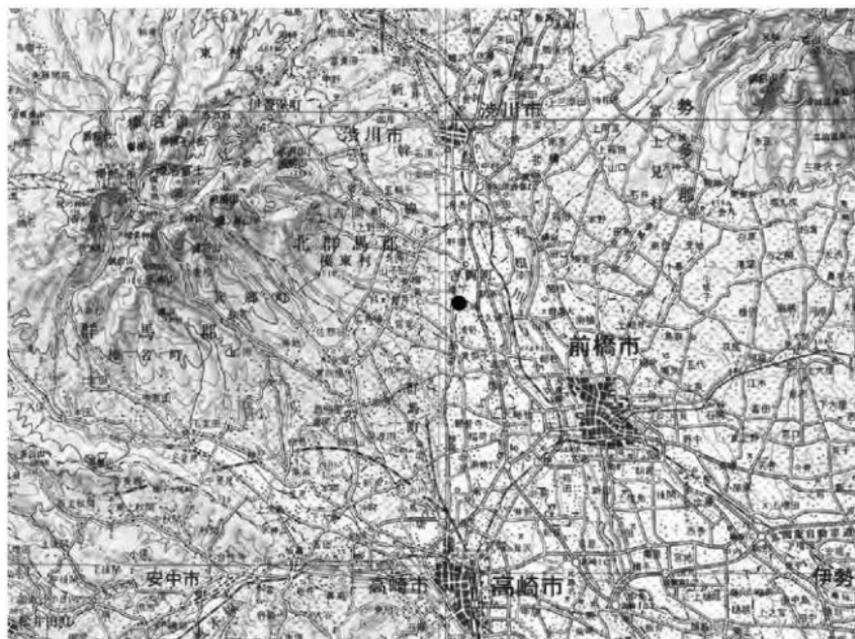
## 第1章 調査経過と調査の方法

### 第1節 調査に至る経緯

本書は、平成28年度(一)南新井前橋線バイパス(2期工区)社会資本総合整備(活力・重点)事業に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査の調査成果を報告するものである。県道南新井前橋線(以下本路線)は群馬県北群馬郡榑東村を起点とし、同郡古岡町を経由して前橋市に至る延長約12.7kmの幹線道路である。本路線は間越自動車道、一般国道17号上武道路、県道高崎渋川線バイパス等の主要幹線道路を東西に結ぶ幹線道路として産業、経済、観光、社会、文化及び生活における重要な機能を担っている。路線内には群馬県道路構造条例に定められた車線幅員を満たしていない区間があるなど、生活道路としての危険

性が指摘されるほか、渋滞により幹線道路としての機能が発揮されないなどの現状が指摘されていた。こうした状況を改善し、安全かつ円滑な自動車交通の確保と駒寄スマートインターチェンジへの交通アクセスの向上を主な目的として、南新井前橋線バイパスが整備されることとなった。この北群馬郡榑東村大字新井字糺子地内から同郡古岡町大字大久保字片貝地内までの延長2,804m区間のバイパス整備事業の2期工区(延長1.1km)が本発掘調査の起因事業である。なお本書の報告範囲は上記2期工区のうち古岡町地内を対象とする。

事業地周辺は、既知の埋蔵文化財包蔵地(市町村遺跡番号：0138)となっていることから、平成27年度に群馬県教育委員会文化財保護課(以下保護課)による試掘確認調査が行われることとなった。平成28年1月25日から26



(国土地理院 20 万分の 1 地勢図「長野」「宇都宮」を編集、加工)

第1-1図 遺跡位置図

日にかけて保護課によって実施された調査により、竪穴建物、土坑、溝などの古代及び中世と想定される遺構が検出され、本調査が必要と判断された。この試掘確認調査の結果を踏まえて、群馬県渋川土木事務所と保護課による調整が行われ、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下事業団)により、平成28年度事業として、平成29年1月1日～平成29年3月31日を調査期間として発掘調査を行うこととなった。なお、調査の過程で調査地点の追加が行われた。

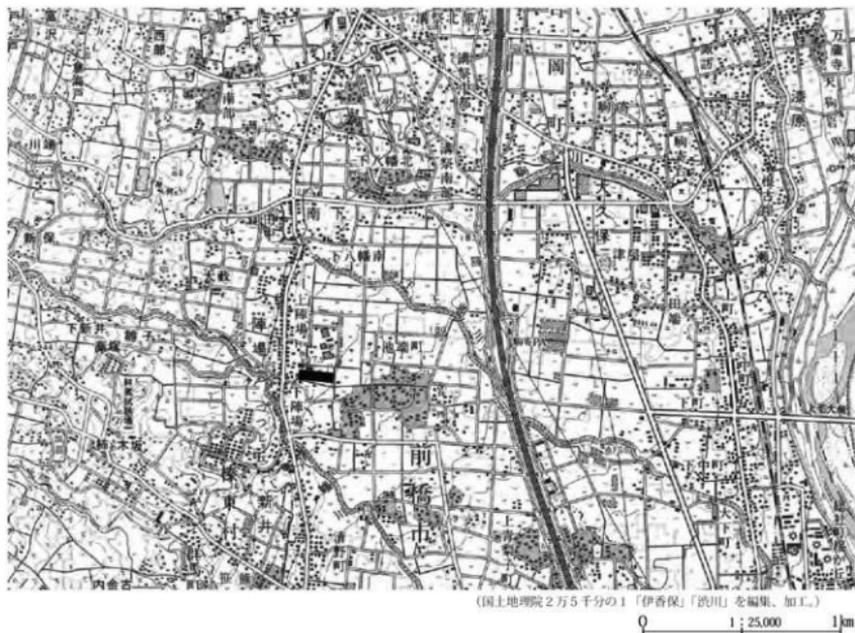
## 第2節 調査の方法と経過

発掘調査は平成29年1月1日～平成29年3月31日に実施された。前年度の試掘確認調査の結果から、本遺跡は表土を40～60cmほど掘削すると、古墳時代(4世紀)の浅間山噴火に伴う軽石(As-C)を含んだ黒色土が堆積していることが確認されているため、遺構確認面を設定し、調査を実施した。各調査地点での遺構確認面設定は、第1

面は中世と平安時代の遺構を、第2面は縄文時代中期から後期の遺構を対象とした。

発掘調査にあたっては、表土掘削には掘削機を用い、その後にジョレンを用いた発掘作業員による遺構確認作業、調査担当者による遺構確定を基本とした。表土掘削の済んだ場所から遺構確認、遺構確定に着手し、表土掘削作業と遺構確定作業とを並行させながら調査を進め、調査期間の短縮と調査精度の向上に努めた。遺構確定後、遺構調査として発掘作業員による各遺構の掘削、さらに調査担当者による埋没土の観察を行い、遺構実測、遺構写真撮影などを行った。同様に第2面目の検出に際しては、掘削機を用いて掘削したのち、ジョレンを用いた人手による遺構確認を行った。第2面目の調査終了後、グリッドを設定し、発掘作業員により南北2条のトレンチ掘削作業を行い、遺物、遺構の有無を確認した。

第1面調査では、遺跡の全景撮影のため、ラジコンヘリコプターによる空中撮影業務を民間測量会社に委託した。検出した遺構の平面および土層断面等の測量および



第1-2図 調査区位置図

図化は測量業者への業務委託で実施した。測量縮尺は1/20と1/40を基準とし、全体図等においては1/300を用いた。記録写真撮影には1790万画素の一眼レフ・デジタルカメラと6×7判の一眼レフ・フィルムカメラを用いることとし、調査担当者が撮影に当たった。

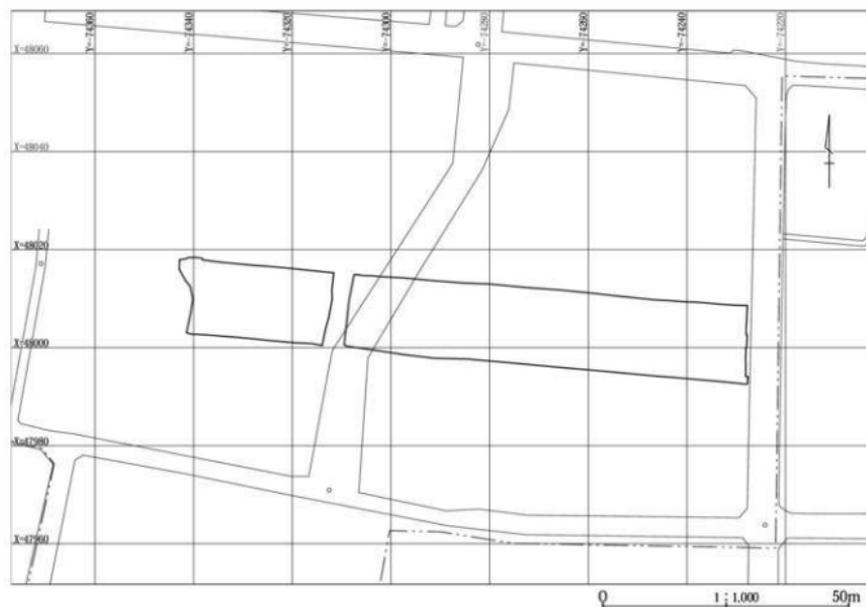
以下に調査日誌の抄録を記載し調査経過とする。

平成29年1月は、調査区の作業環境を整えつつ、表土掘削に着手し、並行して遺構確認を開始した。調査は調査区東端側から着手したが、1月16日には1号竪穴建物、1～4号土坑、1号溝の実測と写真撮影を行った。以後、遺構確認、掘削、遺構精査、実測、写真撮影の工程を繰り返し調査を進めた。

平成29年2月は、竪穴建物の精査を進める傍ら、調査区中央東寄りのピット群や井戸の調査に着手した。2月8日に調査区西半の溝群の掘削を開始し、2月10日に第1面の空中写真撮影を行った。2月13日より第2面の掘削を開始した。第2面の遺構確認を行いつつ、2月16日には第3面の掘削に着手した。2月24日に調査区西端に

位置する8号竪穴建物のカマドを精査し、遺構全景および詳細写真の撮影を行った。

平成29年3月は、前月に引き続き第2面のグリッド調査を行い、礫層下まで調査を進めた。3月17日に第3面の全景写真撮影を行い、調査終了とした。3月21日より埋め戻し作業を開始し、撤収準備を始めた。3月27日に現場事務所を撤去し調査を完了した。



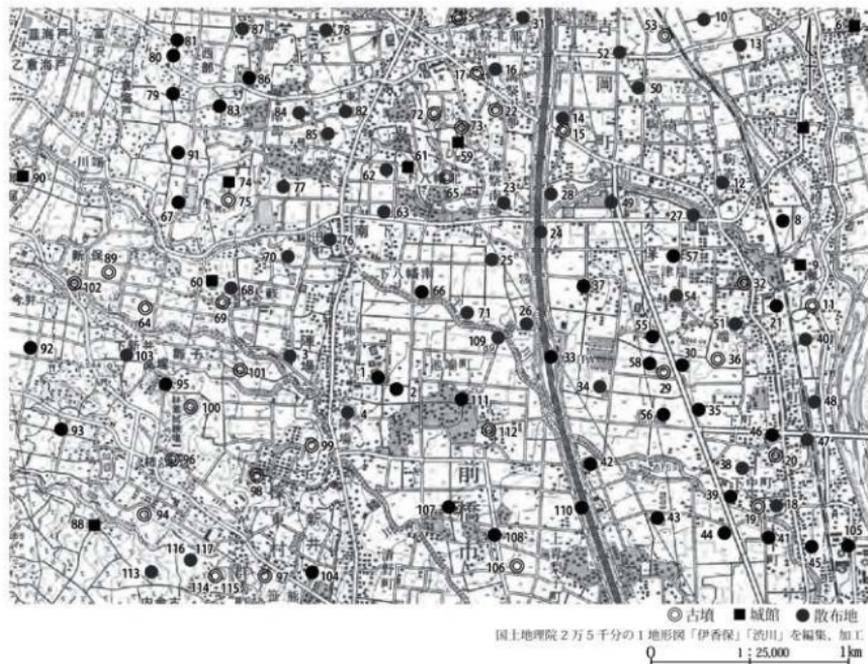
第1-3図 調査区設定図

## 第2章 周辺の環境

### 第1節 地理的環境

中御所遺跡(以下本遺跡)は、群馬県北群馬郡吉岡町陣場に所在する。吉岡町は東に赤城山、西に榛名山を望み、群馬県のほぼ中央、榛名山南東麓の利根川右岸に位置する。本遺跡の所在する陣場地区は、利根川右岸から榛名山頂にむけて南東から北西に細長く延びる吉岡町の西南端、町域の南辺中央や東寄り位置する。吉岡町と、隣接する前橋市、北群馬郡榑東村とが境を接する場所である。本遺跡の西には群馬県道25号高崎洗川線が、東には関越自動車道が南北に走り、本遺跡から東に1kmほどの地点には関越自動車道駒寄インターチェンジが開設されている。また関越自動車道の更に東ではあるが上越線が位置するなど、交通の要衝となっている。

遺跡の所在する陣場地区は榛名山麓斜面から前橋台地面への移行部に位置し、標高は約190mほどである。陣場地区周辺の地形は相馬山付近を給源とする陣場岩屑なだれ堆積物とその後に河川堆積物が作りだした扇状地(相馬ヶ原扇状地)となっており、比高数m~10mの流れ山地形なども存在する。また陣場地区を含め吉岡町周辺の標高200~300m付近は、かつて榛名山の伏流水が湧出していたとの伝承も残る地域とされる。なお本遺跡周辺はその南北を榛名山中を源流とし利根川に注ぐ牛頭川と八幡川に挟まれた台地上に立地するが、牛頭川は陣場地区の上流で南東の流れを一時北東にかえ、陣場地区の北側を回り込むようにして流れを南東に戻している。



第2-1図 周辺の遺跡

## 第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する吉岡町周辺の地理的環境・歴史的環境については末尾に付した参考資料に詳しいので、本節では遺跡周辺の主な遺跡分布図(第2-1図)と一覧表(第2-1表)を掲載し、当地域の概要を記載する。

### 旧石器時代

本遺跡の立地する相馬ヶ原扇状地上の遺跡からは、旧石器についての報告はなされていない。

### 縄文時代

長谷津遺跡(95)から草創期の石器や早期の土器片が検出されているように、当該時期の遺物は検出されているが、他遺跡を含めこの時期の遺構は報告されていない。遺構が検出されるのは前期からであり、十日市遺跡(67)や環状石斧の出土した七日市遺跡(33)から前期の集落が報告されている。中期になると清里・長久保遺跡(43)、長久保大畑遺跡(44)、沼南遺跡(39)、十二前遺跡(93)などから集落が検出されており、中でも十二前遺跡は加曽利E3式期の大集落とされる。後期から晩期にかけては、配石墓群が検出された下新井遺跡(92)が存在し、石棒や土製耳飾、木菰土偶などが出土している。また図外の遺跡ではあるが、多量の岩版や土製耳飾が出土した棟東村茅野遺跡など、当時の心的世界への手掛かりとなる史料が得られている。十二前遺跡や長谷津遺跡からも後晩期の良好な史料が出土するなど、榛名山東南麓は中期から晩期にかけて隆盛を迎えたとされる。

### 弥生時代

当期の遺跡はそれほど多くはないが、清里・庚申塚遺跡(108)からは環濠集落が報告されている。長久保大畑遺跡から溝が検出されているほか、乙溝祭遺跡(16)、前橋市0112遺跡(107)などでは土器片が確認されている。水利に適した利根川流域の低地部に生活の拠点が移動したとされる。

### 古墳時代

当期になると遺跡の数が急増する。その多くは小型の円墳であるが、吉岡町では上野田、小倉、南下、大久保の各地に古墳が集中する。周辺地域を含め、6世紀後半の構築とされる高塚古墳(100)、大藪城古墳(74)、6世紀末とされる柿木坂古墳(96)、7世紀後半の構築とされ

る八角墳の三津屋古墳(32)や7世紀初頭から末にかけて構築された長久保古墳群(99)など、6世紀後半から7世紀末にかけて多くの古墳が築造されている。中御前遺跡(1)からはHr-FAに覆われた道が検出されており長久保古墳群との関連も指摘されている。また、この時期の集落と考えられている遺跡としては、上ノ原遺跡(8)、清里・長久保遺跡、宮前遺跡(24)、金竹西遺跡(35)、女塚遺跡(37)、熊野遺跡(55)、片貝遺跡(56)、本宿遺跡(57)、長谷津遺跡、前橋市0107遺跡(111)があげられる。このほか長谷津遺跡では畑、善徳遺跡(41)では水田につながると予想される水路が検出されている。

### 奈良平安時代

藤原宮跡出土の「上毛野国車評桃井里大貳帖」本筋に明らかのように、国郡里制や郷里制が施行される時代背景の中、大規模な集落が形成されたと考えられている。宮遺跡(28)、七日市遺跡、清里・陣場遺跡(2)、金竹西遺跡、熊野遺跡、御堀遺跡(90)、倉海戸遺跡(91)などがそうした遺跡である。中でも御堀遺跡は桃井城(90)とも重複する遺跡であり、後代に桃井氏の拠点へと育ってゆく場所と考えられている。また桃井城の南東に位置する清里・陣場遺跡からは多量の灰釉陶器や緑釉陶器、海老碗、丸柄のほか鉄製関連遺物も出土しており、有力者層の存在が予想されている。

### 中近世

鎌倉時代になると棟東村山子田付近を中核として桃井荘が整備され、桃井氏の拠点として発展したと考えられている。この拠点防衛を担った遺構が御堀遺跡の桃井城と大藪遺跡の桃井城とされる。御堀遺跡の桃井城は桃井西城、大藪遺跡の桃井城は桃井東城とも呼ばれ別城一郭の備えとされる。15世紀に端を発し、16世紀後半の関東全域が戦場と化す時流によるものか、交通の要衝でもある陣場地区の周辺には漆原城(7)、瀬来城(9)、大林山城(59)、上八幡の砦(60)、桃井東城、桃井西城の6城が存在している。また本遺跡周辺には長堀屋敷(6)、桃井館(61)、金井屋敷(88)の3館の存在も伝えられている。なかでも桃井館は御堀遺跡と共に、桃井氏の居館であったと想定されている。

16世紀後半には武田氏の領域であった当地は、織田領、北条領と変遷し、天正18(1590)年の豊臣秀吉による小田原征伐以降は徳川氏の領域となり江戸時代を迎える

## 第2章 周辺の環境

こととなる。現在も残る大字は、概ね16世紀後半以降に成立した大久保村や漆原村などの村名に由来するとされるが、陣場のように昭和になって大字となった土地も存在する。

### 参考資料

吉岡村誌編纂室1980「村の風土、原始社会、封建社会」『吉岡村誌』吉岡町教育委員会pp.3-304

飯森康広1988「第3章 地理的環境と歴史的環境」『冷水村東道跡・西国分新田道跡・金古北十三町道跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.9-19

藤野巧2005「Ⅱ 道跡の位置と周辺の道跡」『中御所Ⅱ道跡』吉岡町教育委員会pp.1-3

須田正久2012「第2章 地理的環境と歴史的環境」『長谷津道跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.6-11

須田正久2013「第2章 地理的環境と歴史的環境」『十日市道跡・住道跡・千代間南道跡・千代間北道跡・舞台道跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.6-12

第2-1表 周辺道跡一覧

道跡名	所在地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備考	資料
1 中御所道跡	北群馬郡吉岡町陣場中御所			○		○	○		集落	平安集落、古墳道。	5,40,41
2 清里・陣場道跡	北群馬郡吉岡町陣場、前橋市池端町	○				○			集落	平安集落、中世井戸、製鉄関連遺物、海老簀、鈴帯。	5
3 西原道跡	北群馬郡吉岡町陣場西原					○			散布地		
4 南御所道跡	北群馬郡吉岡町陣場南御所					○			散布地		
5 滝沢古墳	北群馬郡吉岡町下野田宮下			○					古墳		29
6 長塩原敷	北群馬郡吉岡町漆原十二廻						○		城館		2,51
7 漆原城	北群馬郡吉岡町漆原ノ原敷						○		城館		2,51
8 上ノ原道跡	北群馬郡吉岡町漆原上ノ原	○	○	○	○				散布地、集落	古墳～平安集落。	28
9 瀬来道跡・瀬来城	北群馬郡吉岡町漆原瀬来	○	○				○		集落、城館		2,51
10 赤岩道跡	北群馬郡吉岡町漆原赤岩				○	○			散布地		
11 川原田古墳	北群馬郡吉岡町漆原川原田			○					古墳		
12 茶ノ木道跡	北群馬郡吉岡町漆原茶ノ木	○				○			散布地		
13 並木道跡	北群馬郡吉岡町漆原平原			○		○			散布地		
14 十石塚道跡	北群馬郡吉岡町大久保（十石塚）	○				○			散布地		
15 十石塚古墳	北群馬郡吉岡町大久保（十石塚）			○					古墳	円墳。	
16 乙満祭道跡	北群馬郡吉岡町大久保乙満祭		○						散布地		
17 穴墓跡古墳	北群馬郡吉岡町大久保乙満祭			○					古墳		
18 下中町道跡	北群馬郡吉岡町大久保下中町	○				○			散布地		
19 沼古墳	北群馬郡吉岡町大久保下中町			○					古墳		
20 下町古墳	北群馬郡吉岡町大久保下町			○					古墳		
21 久保田道跡	北群馬郡吉岡町大久保久保田			○	○				散布地、集落、古墳	平成3年吉岡町教委調査(久保田古墳、久保田道跡)。	
22 宮後古墳	北群馬郡吉岡町大久保宮後			○					古墳		
23 宮西道跡	北群馬郡吉岡町大久保宮西			○	○	○			散布地、集落	奈良平安集落。	49
24 宮前道跡	北群馬郡吉岡町大久保宮前	○	○	○	○				散布地、集落	古墳～平安集落。	50
25 高縄道跡	北群馬郡吉岡町大久保宮前	○	○	○	○				散布地		
26 新保分道跡	北群馬郡吉岡町大久保宮前				○	○			散布地		

道跡名	所在地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備考	資料
27 宮田道跡	北群馬郡吉岡町大久保宮田	○			○	○			散布地		
28 宮道跡	北群馬郡吉岡町大久保宮東	○		○	○	○			散布地、集落		3,29
29 源平山古墳	北群馬郡吉岡町大久保熊野			○					古墳	山崎寺円墳。	
30 十二道跡	北群馬郡吉岡町大久保熊野			○	○	○			散布地、集落	熊野・辺玉道跡、熊野1遺跡。	36
31 甲溝祭道跡	北群馬郡吉岡町大久保甲溝祭			○		○			散布地		
32 三津屋古墳	北群馬郡吉岡町大久保三津屋			○					古墳	7世紀後半山崎寺式八角形墳。	46,47
33 七日市道跡	北群馬郡吉岡町大久保七日市	○			○	○	○	○	散布地、集落	縄文前期後半集落、環状石斧、古墳～平安集落。	29,42
34 七日市東道跡	北群馬郡吉岡町大久保七日市					○			散布地		
35 金竹西道跡	北群馬郡吉岡町大久保十二	○		○	○	○			散布地、集落	古墳・平安集落、刺書紡錘車、榊輪。	33
36 十二古墳	北群馬郡吉岡町大久保十二			○					古墳		
37 女塚道跡	北群馬郡吉岡町大久保女塚				○	○			散布地、集落	奈良～平安集落。	29
38 沼道跡	北群馬郡吉岡町大久保沼	○		○		○			散布地		
39 沼南道跡	北群馬郡吉岡町大久保沼	○		○		○	○		散布地、集落	縄文中期中葉集落、前期中期上墳、平安集落。	10
40 川原田不動北道跡	北群馬郡吉岡町大久保上町	○			○	○			散布地		
41 善徳道跡	北群馬郡吉岡町大久保善徳		○			○			散布地、集落、水田	縄文土坑、Hr-FA下水路、平安集落、As-B下水田。	38
42 長久保道跡	北群馬郡吉岡町大久保善徳					○			散布地		6,45
43 清里・長久保道跡	北群馬郡吉岡町大久保善徳、前橋市池端町	○		○		○			散布地、集落、古墳	縄文中期集落、古墳、古墳畑、平安集落。	6,45
44 長久保大畑道跡	北群馬郡吉岡町大久保								集落	縄文集石、配石、列石、古墳、平安集落、中世集落。	8,39
45 大下道跡	北群馬郡吉岡町大久保大下	○			○	○			散布地、集落	縄文土坑、古墳溝、奈良集落、平安道。	30
46 中町道跡	北群馬郡吉岡町大久保中町				○	○		○	散布地、集落		34
47 大泉寺東道跡	北群馬郡吉岡町大久保中町				○	○			散布地		
48 上町道跡	北群馬郡吉岡町大久保中町	○		○	○	○			散布地		
49 中島道跡	北群馬郡吉岡町大久保中島	○							散布地		
50 須梨子道跡	北群馬郡吉岡町大久保長坂	○		○	○	○			散布地		
51 田端道跡	北群馬郡吉岡町大久保田端	○			○	○			散布地		
52 久保平道跡	北群馬郡吉岡町大久保東原	○		○	○	○			散布地		
53 東原01～4号古墳	北群馬郡吉岡町大久保東原			○					古墳		
54 不動久保道跡	北群馬郡吉岡町大久保不動久保					○			散布地		
55 熊野道跡	北群馬郡吉岡町大久保不動久保	○		○	○	○			散布地、集落	五穀ヶ台、十三菩薩、古墳、奈良・平安集落。	35,36
56 片貝道跡	北群馬郡吉岡町大久保片貝	○		○	○	○			散布地、集落	奈良・平安集落。	32
57 本宿道跡	北群馬郡吉岡町大久保辺玉	○		○	○	○			散布地、集落、古墳	古墳集落、才卜力山古墳。	44

## 第2章 周辺の環境

	道跡名	所在地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備考	資料
58	熊野Ⅳ道跡	北群馬郡吉岡町大久保熊野			○	○	○			散布地、集落、古墳	H25年吉岡町教委試験調査。	
59	大森山城	北群馬郡吉岡町南下大森						○		城館		2,51
60	上八幡の砦	北群馬郡吉岡町南下大森、上八幡						○		城館		2
61	桃井館	北群馬郡吉岡町南下下八幡						○		城館		2,51
62	下八幡Ⅰ道跡	北群馬郡吉岡町南下下八幡				○	○	○		散布地		
63	下八幡Ⅱ道跡	北群馬郡吉岡町南下下八幡				○	○	○		散布地	桃井塚。	
64	丸山01～2号古墳	北群馬郡吉岡町南下丸山			○					古墳		
65	南下古墳群	北群馬郡吉岡町南下宮代			○					古墳	円墳。明治村50、54、南下A～E、丸山1、2、上八幡1～4、大森1～3号墳、大森八幡古墳、宮代古墳。	48
66	下八幡南道跡	北群馬郡吉岡町南下三芝				○	○			散布地、集落	奈良平安集落。	37
67	十日市道跡	北群馬郡吉岡町南下十日市	○				○			集落	縄文前期集落、奈良平安集落、中世掘立、墓。十日市地区平安多し。大森地区縄文多し。	7
68	上八幡道跡	北群馬郡吉岡町南下上八幡					○			散布地		
69	上八幡01～4号古墳	北群馬郡吉岡町南下上八幡			○					古墳		
70	小蓋道跡	北群馬郡吉岡町南下上八幡				○	○			散布地		
71	川子道跡	北群馬郡吉岡町南下川子			○	○	○			散布地		
72	大森02号古墳	北群馬郡吉岡町南下大森			○					古墳		
73	大森03号古墳	北群馬郡吉岡町南下大森			○					古墳		
74	大森道跡	北群馬郡吉岡町南下大森	○		○			○		散布地、古墳、城館	中世城館。大森城・桃井城・桃井東城。大森道跡、大森城山古墳・大森城古墳(前方後円墳)。	2,31,51
75	大森八幡古墳	北群馬郡吉岡町南下大森			○					古墳		
76	長山道跡	北群馬郡吉岡町南下長山					○			散布地、集落	平安集落。平成7年吉岡町教委調査。	
77	南下木戸道跡	北群馬郡吉岡町南下木戸				○	○			散布地		
78	北発地回道跡	北群馬郡吉岡町北下久保	○							散布地		
79	住道跡	北群馬郡吉岡町北下住					○	○		集落	平安集落、中世掘立、土坑、墓。	7
80	千代開南道跡	北群馬郡吉岡町北下千代開					○	○		散布地、集落	平安集落、中世上坑。	7
81	千代開北道跡	北群馬郡吉岡町北下千代開					○	○		散布地、集落	平安集落、中世上坑。	7
82	北下東原道跡	北群馬郡吉岡町北下東原				○	○			散布地		
83	畑中・住道跡	北群馬郡吉岡町北下畑中					○			散布地、集落	平安集落。	43
84	畑中東道跡	北群馬郡吉岡町北下畑中	○				○			散布地		
85	北下藤塚道跡	北群馬郡吉岡町北下藤塚	○				○			散布地		
86	諏訪台道跡	北群馬郡吉岡町北下麻草原	○				○			散布地、社寺	諏訪廃寺。	
87	東原田道跡	北群馬郡吉岡町北下麻草原	○				○			散布地		
88	金井屋敷	北群馬郡種東村広馬場						○		城館		2
89	庚中塚古墳	北群馬郡種東村山子田			○					古墳	円墳。上毛古墳誌覧桃井村101号墳。	

道跡名	所在地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備考	資料
90 御駕道跡	北群馬郡榑東村山子田				○	○	○		集落, 城館	御駕城・桃井城・桃井西城, 中世城郭。	2, 12
91 倉海戸道跡	北群馬郡榑東村山子田倉海戸					○			集落	平安集落。	13
92 下新井道跡	北群馬郡榑東村新井	○				○			集落	縄文後期・晩期集落、墓域, 耳飾、石杖、木炭土偶、配石墓・石棺墓、散石遺構。	11, 15
93 十二前道跡	北群馬郡榑東村新井	○							集落	新井十二前道跡, 縄文中期集落。	14
94 立駐古墳群	北群馬郡榑東村新井			○					古墳	円墳, 上毛古墳総覧桃井村14号墳。	
95 長谷津道跡	北群馬郡榑東村新井	○		○	○		○	○	集落	縄文中期一後期集落、古墳集落、畑、奈良集落、中近世集落。	9
96 柿木坂古墳群	北群馬郡榑東村新井			○					古墳	山崎せ式円墳, 上毛古墳総覧桃井村38号墳。	9
97 いなり山古墳	北群馬郡榑東村新井			○					古墳	前方後円墳, 判塚古墳群, 上毛古墳総覧桃井村3号墳。	
98 北原古墳群	北群馬郡榑東村新井			○					古墳	円墳, 上毛古墳総覧23-25, 66, 70, 71, 140号墳。	
99 長久保古墳群	北群馬郡榑東村新井								古墳	前方後円墳2基、円墳20基。	18
100 高塚古墳	北群馬郡榑東村新井			○					古墳	前方後円墳, 県指定, 昭和34・35年群馬大学調査。	16
101 籠子古墳群	北群馬郡榑東村新井			○					古墳	円墳, 榑東村39号墳。	17
102 今井古墳群	北群馬郡榑東村新井			○					古墳	円墳, 上毛古墳総覧桃井村126号墳。	
103 笠塚道跡	北群馬郡榑東村新井笠塚	○			○	○			散布地	縄文中期。	
104 判塚道跡	北群馬郡榑東村新井判塚					○			散布地		
105 前橋市0138道跡	前橋市総社町榑野桜ヶ丘団地	○	○	○	○	○	○		集落	総社桜ヶ丘道跡, 総社桜ヶ丘道跡, 西久保道跡?	19, 22, 23, 24
106 前橋市0886道跡	前橋市上青梨子町			○					古墳	庚申塚1, 2号墳	6
107 前橋市0112道跡	前橋市上青梨子町	○	○	○	○	○	○	○	散布地, 集落, その他	田19, 20, 22前橋市教委試掘, 中島道跡, 二彩陶器, 巡方・鉋・鏡, 緑輪, 刻字瓦, 刻書土器。	4, 20, 21, 25, 26, 27
108 清里・庚申塚道跡	前橋市池端町, 上青梨子町	○	○	○		○			集落, 古墳	弥生中期後半環濠集落、古墳, 平安時代集落, 清里道跡群庚申塚道跡, 庚申塚古墳。	4
109 前橋市0108道跡	前橋市池端町				○	○	○		散布地		
110 前橋市0830道跡	前橋市池端町			○					古墳	清里5, 8, 10号墳。	1, 6
111 前橋市0107道跡	前橋市池端町	○			○	○	○		集落	古墳後期集落、平安集落、中近世井戸、土坑、溝。	
112 前橋市0885道跡	前橋市池端町屋敷小路			○					古墳	清里3号墳。	1
113 奈良平安No1道跡	高崎市金古町内金古				○	○			散布地		
114 古墳No30道跡	高崎市金古町内金古			○					散布地		
115 内金古古墳	高崎市金古町内金古			○					古墳	横穴式石室、円墳。	
116 縄文No1道跡	高崎市金古町内金古	○							散布地		
117 内林道跡	高崎市金古町内林	○							散布地		

## 文献リスト

- 1 群馬県 1938 『上毛古墳総覧』
- 2 群馬県教育委員会 1988 『群馬県の中世城跡』
- 3 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989 『有馬道跡1・大久保道跡』
- 4 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982 『清里・庚申塚道跡』
- 5 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982 『清里・陣場道跡』
- 6 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986 『清里・長久保道跡』
- 7 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013 『十日市道跡・住道跡・千代田南道跡・千代田北道跡・舞台道跡』
- 8 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000 『長久保大畑道跡・新田入口道跡』
- 9 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012 『長谷津道跡』
- 10 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『沼南道跡』
- 11 榛東村教育委員会 1985 『新井第Ⅱ地区道跡群発掘調査概報』
- 12 榛東村教育委員会 1985 『御飯道跡発掘調査報告書』
- 13 榛東村教育委員会 1984 『倉海戸道跡発掘調査概報』
- 14 榛東村教育委員会 1999 『十二前道跡概報』
- 15 榛東村教育委員会 2008 『下新井道跡』
- 16 榛東村教育委員会 1988 『榛東村誌』
- 17 榛東村教育委員会 1985 『榛東村39号墳(鎌子道跡)発掘調査報告書』
- 18 長久保古墳群調査団 1986 『長久保古墳群発掘調査略報 Ⅰ』昭和51年12月4日 至、昭和53年5月30日』
- 19 前橋市教育委員会 1986 『総社ヶ丘ノ道跡』
- 20 前橋市教育委員会 1980 『富田道跡群-西大室道跡群-清里南部道跡群』
- 21 前橋市教育委員会 1981 『中島道跡発掘調査概報』
- 22 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1993 『西久保道跡埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 23 前橋市教育委員会 1994 『平成4年度市内道跡発掘調査報告書』
- 24 前橋市教育委員会 1999 『平成9年度市内道跡発掘調査報告書』
- 25 前橋市教育委員会 2009 『平成19年度市内道跡発掘調査報告書』
- 26 前橋市教育委員会 2010 『平成20年度市内道跡発掘調査報告書』
- 27 前橋市教育委員会 2012 『平成22年度市内道跡発掘調査報告書』
- 28 吉岡町教育委員会 2011 『上ノ原Ⅰ・Ⅱ道跡』
- 29 吉岡町教育委員会 1986 『大久保A道跡区・Ⅱ区、七日市道跡、滝沢古墳、女塚道跡』
- 30 吉岡町教育委員会 1993 『大下道跡発掘調査報告書』
- 31 吉岡町教育委員会 2012 『大敷道跡』
- 32 吉岡町教育委員会 2001 『片貝Ⅱ道跡』
- 33 吉岡町教育委員会 1994 『金竹西道跡』
- 34 吉岡町教育委員会 1996 『金竹西道跡、中町道跡』
- 35 吉岡町教育委員会 2010 『熊野Ⅱ道跡』
- 36 吉岡町教育委員会 1995 『熊野・辺玉道跡』
- 37 吉岡町道跡調査会 2002 『下八幡南道跡』
- 38 吉岡町教育委員会 2004 『善徳道跡』
- 39 吉岡町教育委員会 2006 『長久保大畑Ⅲ道跡』
- 40 吉岡町教育委員会 2005 『中御所道跡』
- 41 吉岡町教育委員会 2001 『中御所Ⅱ道跡』
- 42 吉岡町教育委員会 2017 『七日市道跡』
- 43 吉岡町教育委員会 2000 『畑中道跡』
- 44 吉岡町教育委員会 1991 『本宿道跡発掘調査報告書』
- 45 吉岡町教育委員会 2003 『本宿道跡』
- 46 吉岡町教育委員会 1993 『三津屋古墳』
- 47 吉岡町教育委員会 1996 『三津屋古墳、八角形墳の調査』
- 48 吉岡町教育委員会 2010 『南下古墳群』
- 49 吉岡町教育委員会 2012 『宮西道跡』
- 50 吉岡町教育委員会 2007 『宮前Ⅱ道跡』
- 51 吉岡町教育委員会 1980 『宮前村誌』

## 第3節 調査の概要と基本土層

## 1 調査の概要

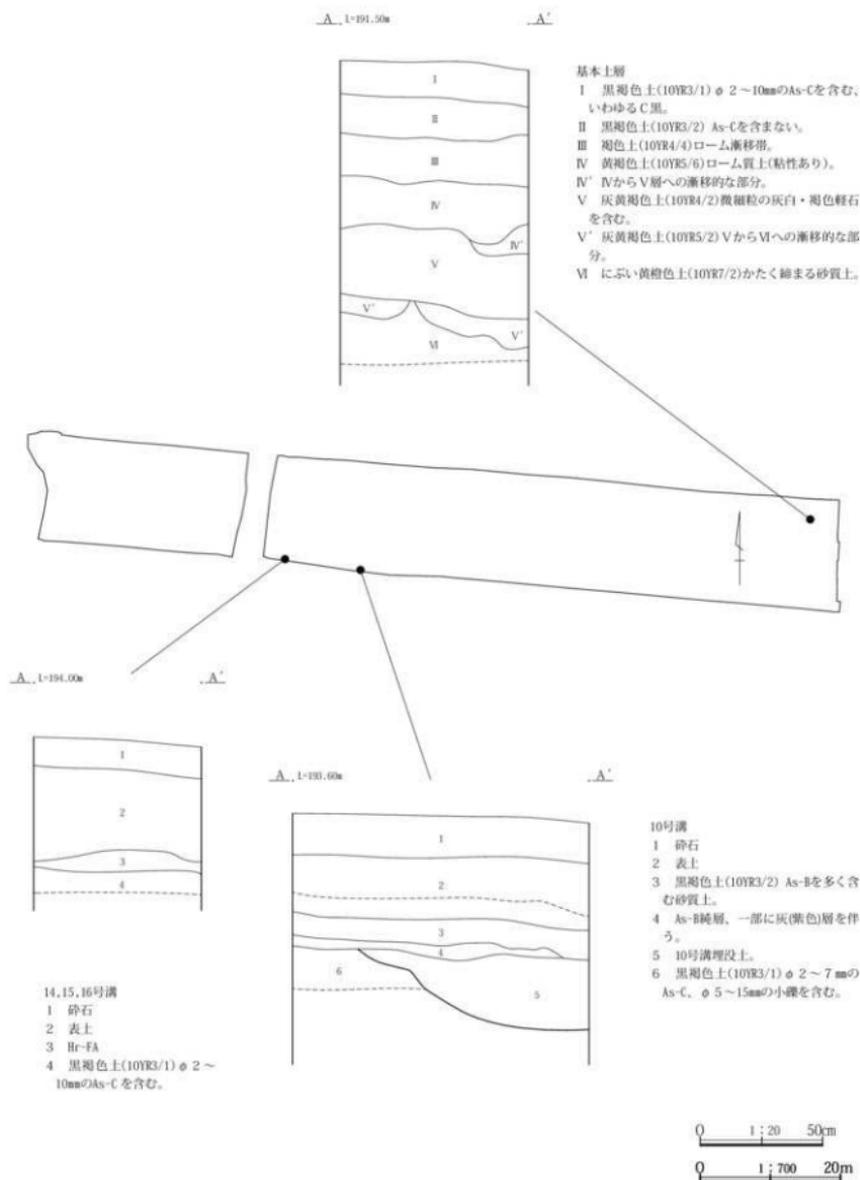
中御所道跡は、西に位置する榛名山の東麓斜面と前橋台地との移行部に存在し、西高東低の緩やかな傾斜地に立地する。これまでに3回の発掘調査が行われている。昭和54年に事業団により道跡東南部(清里・陣場道跡)、ついで吉岡町教育委員会により平成6年に道跡北辺東寄り地点(中御所道跡)、平成16年に道跡東辺南寄り地点(中御所Ⅱ道跡)の発掘調査が行われ、古墳時代の道や平安時代から中世の集落が確認されている。今回の調査は、平成16年の発掘調査地の南が調査対象地点である。

発掘調査は3面の遺構面を想定して実施された。中世と平安時代の遺構が期待された、As-Cを含む黒色土(以下C黒)を地山とする1面からは、竪穴建物8棟、掘立柱建物4棟、竪穴状遺構10基、ビット列6条、溝22条、井戸4基、土坑38基、ビット144基が検出されている。2面としたC黒層の下面からは、土坑1基とビット6基が検出されている。なお2面の下位は、旧河道と考えられた砂礫層の下までトレンチによる遺構確認を行ったが遺構、遺物共に検出されていない。

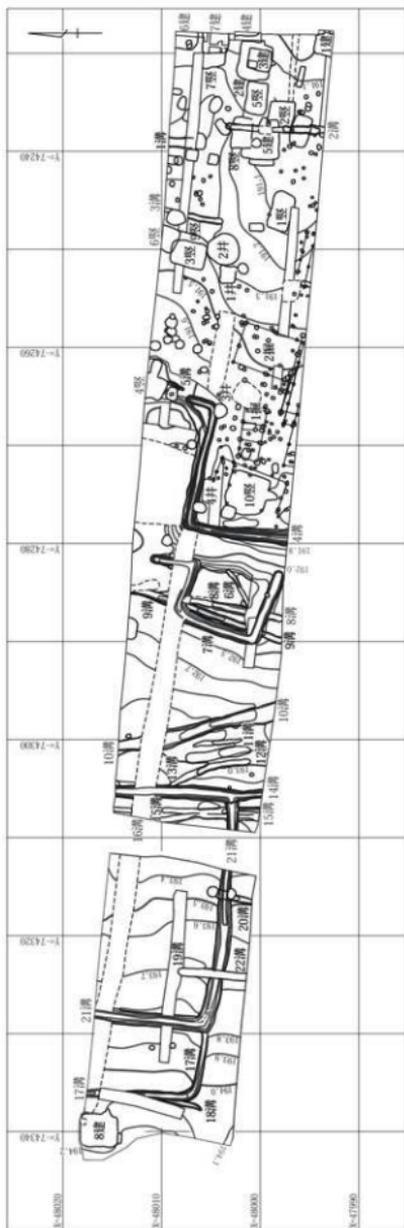
## 2 基本土層

中御所道跡ではこれまで3回の発掘調査が行われ、模式的には砂質土層、ローム層、黒褐色土層、C黒層、Hr-FA、褐色土層の順に堆積することが確認されており、今回の調査区においても概ね同様である。なおこの層序はあくまでも概要であり、また地点により堆積状況は相違している。

調査区周辺は過去に土地改良事業が実施された地域のため、表土の直下からC黒が検出される地点が多数を占めており、基本土層とした調査区東北端寄りの地点もそのひとつである。しかしながらこの地点より榛名山寄りの、調査区南辺中央西寄りの地点からはC黒の直上からAs-Bの純層が確認されており、更にそこから西へ9mほど離れた地点ではAs-Bは検出されなかったが、C黒の直上からHr-FAが検出されている。元よりHr-FAやAs-Bが調査区全面を覆い堆積していたとは想定されないが、調査区の多くの地点のC黒層が後代の掘削の影響下にあると推察される。

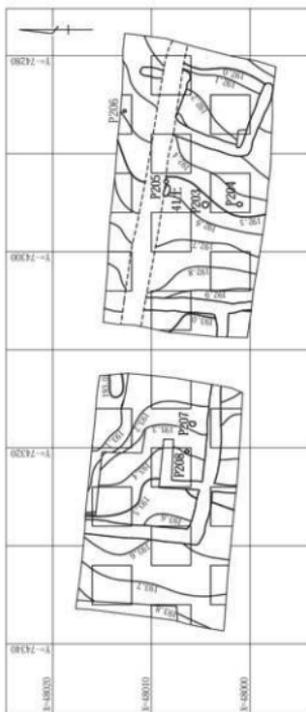


第2-2図 基本土層

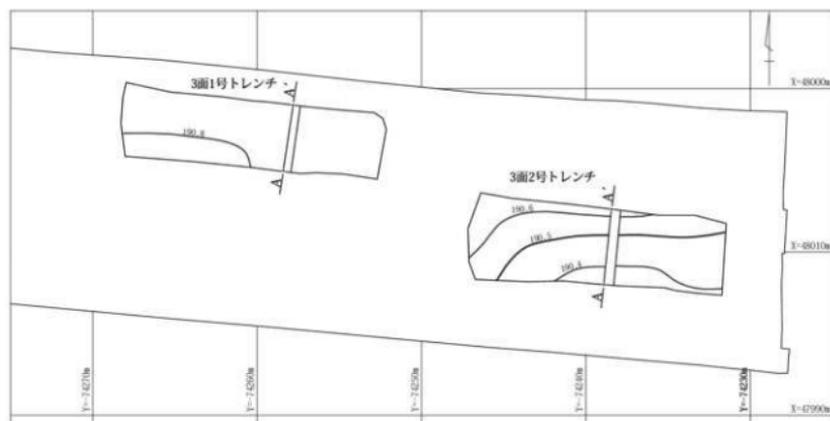


1面

2面



第2-3図 1面、2面全体図



3面2号トレンチ

A-A, L=191.80m



3面1号トレンチ

A-A, L=191.00m



## 3面トレンチ

1 黒色上(10YR2/1)  $\phi$ 0.5~1mmの白色粒子を含む。微量の灰白色粒子( $\phi$ 3~4mm)、や褐色粒子が認められる。かたくしまる。褐色土ブロックが斑文状に混入。

1A 1に近似、1より白色粒子の混入少なく、やや灰色味がかかる色調。

1B 1Aに近似、1Aより白色粒子の混入多い。

2 にぶい黄褐色上(10YR6/4)  $\phi$ 1~2mmの灰白・褐色粒子を含む。灰黄褐色土ブロックが斑点状に構成される。(1層より軟質)

3 灰黄褐色上(10YR4/2)  $\phi$ 1mmの灰白色・褐色粒子を少量含む。にぶい黄褐色土ブロックが斑文状に混入、かたくしまる。

3A 3に近似にぶい黄褐色土ブロックの混入すくなく、灰白・褐色粒子の混入多い。

4 灰黄褐色上(10YR4/2)  $\phi$ 0.5~1mmの灰白・褐色軽石を含む。微量の黄褐色粒子( $\phi$ 5mm)混入、かたくしまる。

4A 4に近似灰白・褐色粒子の混入がやや少ない。

4B 4に近似、灰黄褐色上(10YR4/2)  $\phi$ 5~10mmの小礫が混入。灰白・褐色軽石を含む。微量の黄褐色粒子( $\phi$ 5mm)混入、かたくしまる。

5 灰黄褐色上(10YR4/2)  $\phi$ 1mmの灰白色・褐色粒子を少量含む。灰黄褐色上土ブロックが斑文状に混入、かたくしまる。

6 5に近似、ブロックの混入多い。

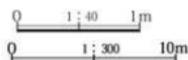
7 1と3の中間層。

8 灰黄褐色上(10YR6/2)微量の白色粒子( $\phi$ 1mm)を含む。固くしまる。粘性あり。

9 1と8の中間層。

10 1に近似するが黒味が強い。

11 1と10の中間層。



第2-4図 3面全体図

## 第3章 確認された遺構と遺物

### 第1節 1面の遺構と遺物

#### 第1項 1面の概要

平安時代から中世にかけての遺構が確認された1面からは、竪穴建物8棟、掘立柱建物4棟、竪穴状遺構10基、ピット列6条、溝22条、井戸4基、土坑38基、ピット144基が検出されている。東西に細長い調査区は、その東西で遺構の出土傾向が相違している。山側である調査区西半には主に溝が分布し、その他の遺構は調査区東半に集中している。また調査区東半においても遺構分布には偏りが存在し、竪穴建物は調査区東端に集中し、掘立柱建物とピット列は調査区中央寄りの南辺沿いに集中している。

竪穴建物は調査区東端から集中して検出されたが、この建物群から離れた調査区西端から1棟(8号竪穴建物)が出土している。本調査区以西からは遺構が存在していない事が事前の試掘確認調査により確認されており、この1棟は至近の建物群からは意図して距離を置いた立地が選択されていると推察される。

溝は調査区の中央から西端にかけて分布するが、鉤の手状に屈曲する溝が、調査区中央部に2条、調査区西半に2条存在し、他の溝は概ね等高線に平行する南北に延びるものであり、上述の2組の鉤の手状の溝の間に多くが存在する。なお、前述した掘立柱建物とピット列は、この2組の溝のうちの東側に位置する溝を西限とするように分布している。

#### 第2項 1面の遺構

##### 1 竪穴建物

本調査区からは8棟の竪穴建物が検出されている。調査区北西端から検出された1棟を除き、残り7棟はいずれも調査区東端に集中している。8棟のうち3棟は部分的な検出のため判然としないが、4棟は東壁にカマドを持ち、1棟のみが南壁にカマドを有する、平安時代の遺構と思われる建物である。

(1) 1号竪穴建物(第3-1, 45図, PL. 2, 25)

**位置** X=47992~47995, Y=-74227~-74231, 調査区東南端に位置する。

**形状等** 南辺が調査区外に至り全体は確認されていないが、概ね平面形は台形状をなすと推測される。カマドは東辺中央付近に位置すると推測される。カマド脇に貯蔵穴が位置し、確認された3辺は壁溝を伴う。遺構北西隅からピット1基が検出されている。

**規模** (2.54)×(1.83)×(0.29)m

**主軸方位(度)** N-100-E

**埋没土** 壁溝やピットから、崩落土と思われる軽石を含まない黒褐色土が確認されているが、床面自体はAs-Cを微量含む黒褐色土に覆われている。

**カマド** 東壁中央付近に位置し、(0.49)×0.59m、主軸方位(度)N-94-Eを測る。壁線付近を残し、多くは攪乱され詳細が失われ、微量の焼土粒を含む埋没土が確認されるのみであり、燃焼部やカマド袖の状況は不明である。  
**掘り方** 貼床が確認されている。また遺構南半に掘り込み2か所が存在する。

**重複** なし。

**遺物** 床面から磨石(2)、埋没土から須恵器椀(1)が検出されたほか、図化には至らなかったが、土師器(10片、21g)、須恵器(4片、21g)、灰軸陶器(3片、6g)、羽釜(1片、13g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。遺構南半から(0.49)×0.38×0.15mの上面平坦な石材が検出されているが、石材と床面の間から埋没土が検出されているように見受けられるため、遺構に伴うとの断定は見合わせた。

(2) 2・3号竪穴建物

2号竪穴建物の痕跡を利用したと推察される3号竪穴建物は、2号竪穴建物のなかにすっぽりと取まる位置関係にあり、床面は共通する部分があるなどし、両者の分離は難しく、一連の遺構として記載する。

a 2号竪穴建物(第3-2, 3, 46図, PL. 2)

**位置** X=47998~48003, Y=-74228~-74233, 調査区東

端に位置する。

**形状等** 西半は丸みを帯びるが平面形は概ね方形を呈する。壁溝や貯蔵穴は確認されていない。西辺沿いの床面に硬化した一面が確認されている。

**規模** 4.25×3.30×(0.17)m、12.28㎡

**主軸方位(度)** N-100-E

**埋没土** As-Cを微量含む黒褐色土に覆われる。

**カマド** 東辺南寄りに位置し、(0.80)×0.61m、N-102-Eを測る。残存は良好といえず、炭化物の灰層は確認されているが、燃焼部は確認されていない。なおカマド袖は確認されていないが、カマド両脇から焼土が検出されている。

**掘り方** 下位からは小礫を含む暗褐色土、上位からはAs-Cを少量含む黒褐色土が検出されている。遺構中央部北西寄りの地点から床下ピットが検出されている。

**重複** 3号竪穴建物の下位に位置する。

**遺物** 床面から羽釜(4)、須恵器甕(3)、埋没土から須

恵器杯(5)、龍泉窯系青磁碗(102)、鉄鍋(103)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(138片、529g)、須恵器(51片、615g)、灰釉陶器(1片、3g)、羽釜(1片、39g)が出土している。

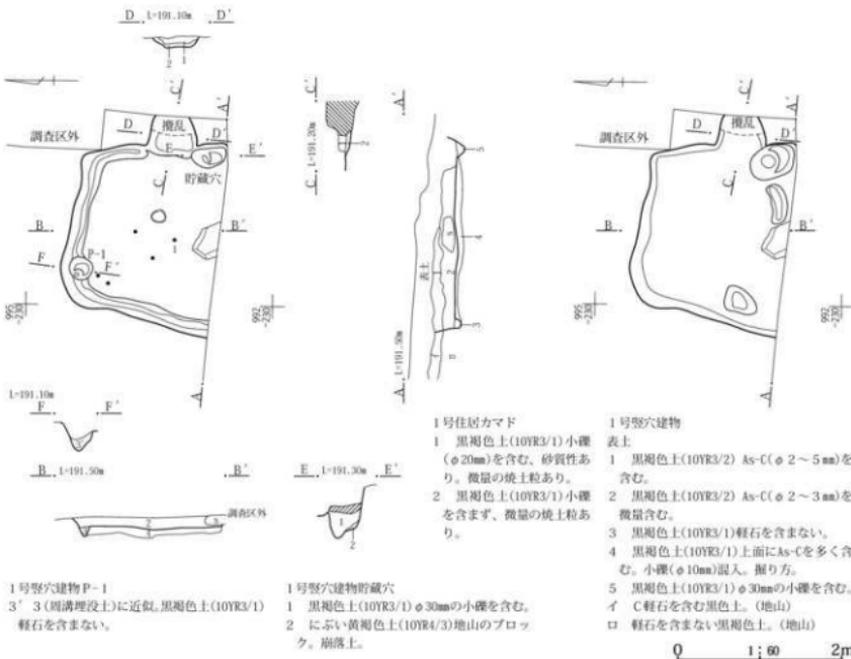
**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。3号竪穴建物に先行する。なお、出土した龍泉窯系青磁碗と鉄鍋は遺構確認面からの検出と考えられ、隣接する5号竪穴状遺構の遺物が後代の攪乱により混入したと推察される。

b 3号竪穴建物(第3-2, 3, 46図, Pl. 3, 25)

**位置** X=47998~48002、Y=-74229~-74232、調査区東端に位置する。

**形状等** 南辺中央寄りにカマドを有し、平面形は概ね方形を呈する。壁溝や貯蔵穴は確認されていない。東辺中央付近の床から焼土が確認され、西辺南寄りの床面からは粘土が確認されている。

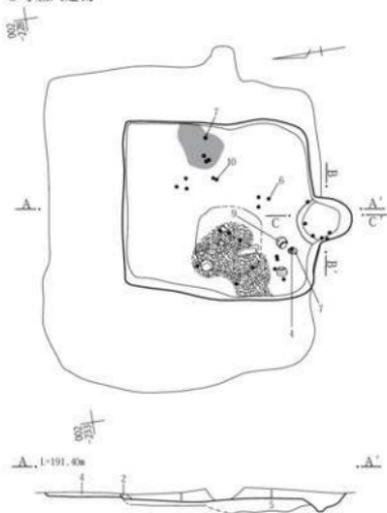
**規模** 2.79×2.24×(0.18)m、5.04㎡



第3-1図 1号竪穴建物

### 第3章 確認された遺構と遺物

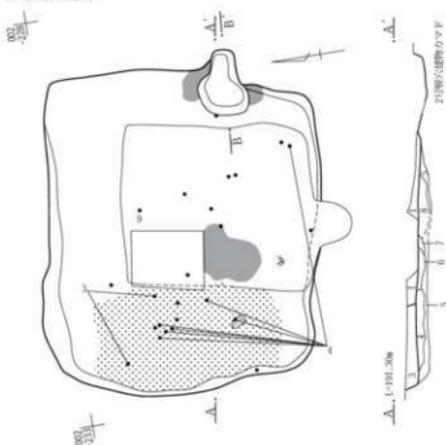
#### 3号竪穴建物



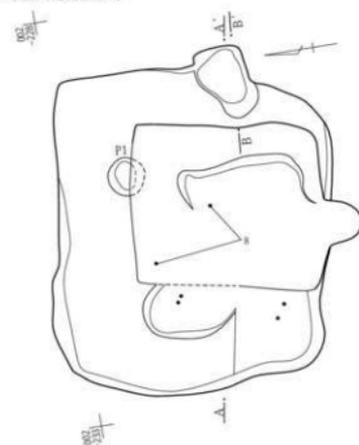
#### 3号竪穴建物

- 1 暗褐色土(10YR3/3)φ2~10mmのAs-Cを含む。3号竪穴建物埋没上。一部床面上に炭化物のうすい層が認められる。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)軽石を含まない地山の上。3号竪穴建物崩落上。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)φ2~5mmのAs-Cを少量含む。2号竪穴建物埋没上。
- 5 暗褐色土(10YR3/3)地山の上。φ30mmの小礫含む。2号竪穴建物掘り方。

#### 2号竪穴建物



#### 2・3号竪穴建物掘り方



#### 2号竪穴建物

- 1 暗褐色土(10YR3/3)φ2~10mmのAs-Cを含む。3号竪穴建物埋没上。一部床面上に炭化物のうすい層が認められる。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)φ2~5mmのAs-Cを微量含む。2号竪穴建物埋没上。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)φ2~5mmのAs-Cを少量含む。2号竪穴建物掘り方。

- 5 暗褐色土(10YR3/3)地山の上。φ30mmの小礫含む。2号竪穴建物掘り方。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)黒色灰を主体とし灰黄褐色粘土ブロックが混入。
- 7 焼上ブロック
- 8 4に近似。炭化物の混入多し。3号竪穴建物掘り方?。

0 1:60 2m

第3-2図 2・3号竪穴建物1

**主軸方位(度)** N-168-W

**埋没土** As-Cを含む暗褐色土に覆われる。遺構中央付近から土坑と思われる掘り込みが確認されている。

**カマド** 南辺やや西寄りに位置し、0.66×0.57m、主軸方位(度)N-167-Wを測る。灰層は確認されていないが、カマド中央付近から焼土ブロックが検出されている。

**掘り方** 遺構中央部西寄りの床下から焼土ブロックと粘土ブロックが検出されている。

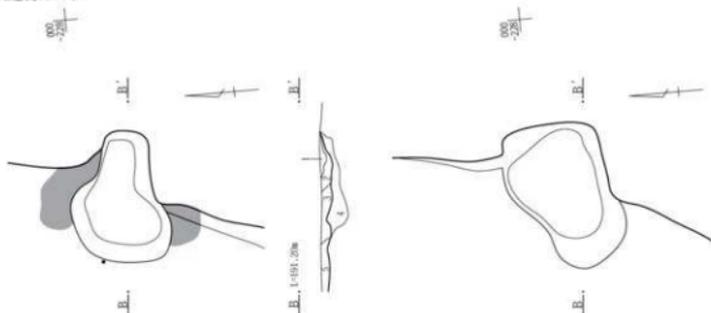
**重複** 2号竪穴建物の上位に位置する。

**遺物** 床面から須恵器椀(6, 7)、床下から須恵器杯(8)、土師器甕(9)、埋没土から灰軸陶器椀(10)が検出されたほか、図化には至らなかったが土師器(55片、

464g)、須恵器(19片、236g)、灰軸陶器(3片、22g)、羽釜(3片、86g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。先行する2号竪穴建物の痕跡を利用し、その北側と東西を埋め立て、先行する遺構の床面を活かしながら一回り小振りの遺構を構築したものと推察される。そのため、床下から確認された粘土ブロックと焼土ブロック及び床下から出土した遺物についてはその帰属を判別しがたい。また遺構東辺沿いから確認された焼土についても、先行する2号竪穴建物に伴う可能性が認められると記述するにとどめる。

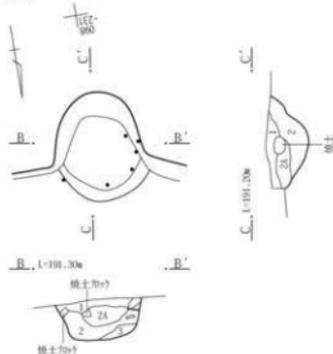
### 2号竪穴建物カマド



#### 2号竪穴建物カマド

- 1 濃い黄褐色土(10YR5/4)赤褐色焼土粒子が多く混入。
- 2 黒色土(10YR2/1)炭化物の混入。
- 3 濃い黄褐色土(10YR4/3)炭化物粒・焼土粒子が多く含まれる。
- 4 濃い黄褐色土(10YR5/4)少量の焼土粒子が含まれる。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C(φ 2~5mm)、炭化物を含む。

### 3号竪穴建物カマド



#### 3号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土(10YR3/3)φ 2mmAs-C、焼土粒子含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1に近似、焼土粒子が多い。
- 2A 2に炭化物粒子が含まれる。
- 3 濃い黄褐色土(10YR4/3)地山の土。

0 1:30 1m

第3-3図 2・3号竪穴建物

### 第3章 確認された遺構と遺物

#### (3) 4号竪穴建物(第3-4図)

**位置** X=48000~48003, Y=-74227~74229, 調査区東部に位置する。

**形状等** 遺構西辺の南半が確認されたにとどまり、詳細は不明である。壁溝や掘り方は確認されていない。

**規模** (0.42)×(2.45)×(0.16)m

**主軸方位(度)** N-2-W

**埋没土** 確認されていない。

**カマド** 不明。

**掘り方** なし。

**重複** なし。

**遺物** 図化には至らなかったが、土師器(5片、10g)、須恵器(11片、51g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代に比定される。

#### (4) 5号竪穴建物(第3-4,46図, PL. 3, 25)

**位置** X=47998~48002, Y=-74236~74241, 調査区東部に位置する。

**形状等** 東辺の両端が未確認ではあるが、平面形は概ね方形を呈すると推測される。カマドは東辺のやや南寄りに位置し、壁溝や貯蔵穴は確認されていない。遺構中央やや北寄りから床下土坑1基が確認されている。

**規模** 4.34×3.83m

**主軸方位(度)** N-91-E

**埋没土** 調査時点でカマドからの流れ込みと判断された、焼土粒、炭化物粒、As-Cを含む黒褐色土が確認されている。

**カマド** 遺構東辺の南寄りに位置し、(0.91)×1.23m、主軸方位(度)N-88-Eを測る。灰層と焼土ブロックの混土層が確認されたが、燃焼部は確認されていない。カマド袖の南側基部は確認されているが、北側は未確認である。なお北側の袖が存在したと予測される地点の下位から、焼土面が確認されており、再構築の痕跡ないしは改修前の遺構と推測される。

**掘り方** φ30mm前後の円礫の混入した暗褐色の地山の土で埋められており、床下土坑1基の他に、5か所の掘り込みが確認されている。

**重複** 調査時点で土坑または竪穴状遺構とされる遺構が下位に位置する。上位には2号竪穴状遺構、8号竪穴状

遺構、2号溝が位置する。

**遺物** カマドから須恵器椀(11)、灰軸陶器椀(12)、灰軸陶器壺(13)が出土しているほか、図化には至らなかったが、須恵器(10片、303g)、灰軸陶器(1片、17g)、羽釜(1片、32g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀第3四半期)に比定される。遺構番号の付与されなかった遺構より新しく、2号竪穴状遺構、8号竪穴状遺構、2号溝に先行する。

#### (5) 6号竪穴建物(第3-5,46図, PL. 3, 25)

**位置** X=48006~48009, Y=-74227~74230, 調査区東北端に位置する。

**形状等** 南辺と西辺が確認されたにとどまり、詳細は不明である。壁溝、カマド、貯蔵穴は確認されていない。遺構南辺沿いの床面から、微細な炭化物が多く残る一面が検出されている。

**規模** (1.84)×(2.28)×(0.17)m

**主軸方位(度)** N-93-E

**埋没土** As-Cを含む暗褐色土に覆われる。

**カマド** 不明。

**掘り方** なし。

**重複** なし。

**遺物** 床面から灰軸陶器椀(14)、須恵器椀(15)、埋没土から須恵器椀(16)が出土しているほか、図化には至らなかったが、須恵器(7片、69g)、灰軸陶器(2片、14g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。

#### (6) 7号竪穴建物(第3-5,47図, PL.4)

**位置** X=48003~48006, Y=-74227~74230, 調査区東端に位置する。

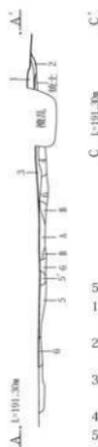
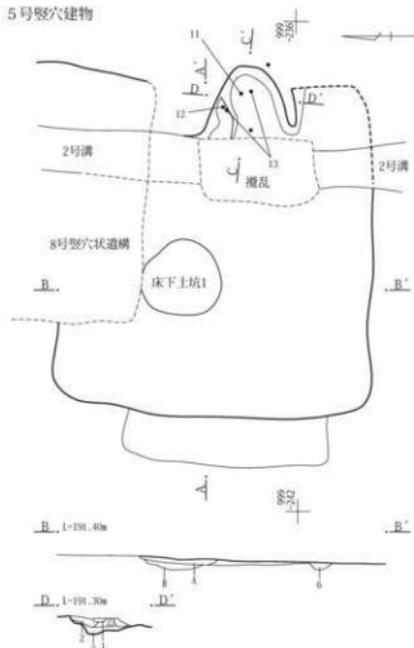
**形状等** 東辺が調査区外に至り未確認であるが、平面形は概ね方形を呈すると推察される。カマド、壁溝、貯蔵穴は確認されていない。遺構西辺寄りの南北に位置する3地点から焼土が確認されている。

**規模** (2.09)×2.69×(0.16) m

**主軸方位(度)** N-91-W

**埋没土** As-C、炭化物、焼土粒子を含む黒褐色土に覆わ

5号竪穴建物



5号竪穴建物カマド

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)焼土粒子を含む灰褐色灰層。
- 2 にふい黄褐色土(10YR7/2)灰を多く含む、小礫(φ 5mm)焼土粒子まじりの層。
- 2A 灰及び焼土ブロックの混土層。
- 3 褐色土(10YR4/1)焼土粒、灰を少量含む。

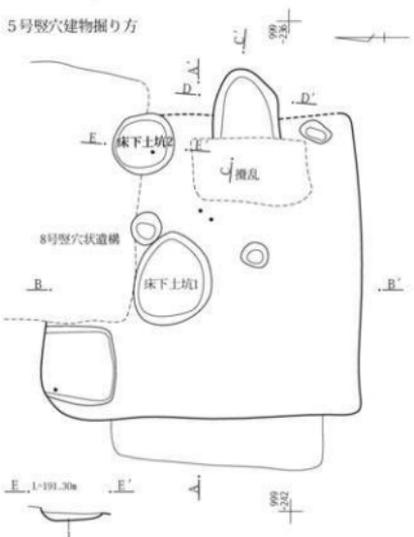
5号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/2)焼土粒、炭化物粒、As-C (φ 2mm)を含む。
  - 2 黒褐色土(10YR3/2)に近似するが、焼土粒の混入が少ない。
  - 3 に近似するが焼土粒・炭化物粒少なく、焼土ブロックの混入が認められる。
  - 4 3に鉄分の凝集が認められる層。
  - 5 黒褐色土(10YR3/1)φ 10~30mmの小礫を含む。
  - 5' 5に灰黄褐色土ブロックが混入。
  - 6 暗褐色土(10YR3/3)地山の土(φ 30mm前後の円礫混入)。
- A 灰黄褐色粘土。  
B 暗褐色土(10YR3/3)φ 5mm前後の小礫を含む。

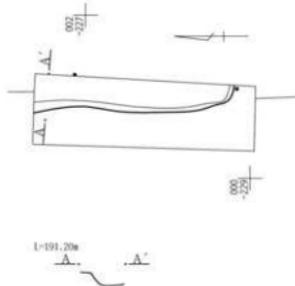
床下土坑2

- 1 黒褐色土(10YR3/1)φ 2~7mmのAs-Cを含む。

5号竪穴建物掘り方



4号竪穴建物



第3-4図 4号竪穴建物、5号竪穴建物

0 1:60 2m

れる。

**カマド** 確認されていない。

**掘り方** なし。

**重複** なし。

**遺物** 床面から土師器甕(17)、羽釜(18)、床下から須恵器甕(19)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(31片、181g)、須恵器(16片、92g)、灰軸陶器(2片、6g)、羽釜(2片、55g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。

(7) 8号竪穴建物(第3-6, 7, 47~49図, Pl. 4, 5, 25, 26)

**位置** X=48014~48019, Y=-74337~-74342, 調査区北西端に位置する。

**形状等** 平面形は隅丸方形を呈し、カマドは東辺の南端近くに位置する。壁溝は全周せず、貯蔵穴はカマド脇の南東隅に位置する。

**規模** 4.12×3.79×0.60m、12.66㎡

**主軸方位(度)** N-92-E

**埋没土** 軽石をほぼ含まない黒褐色土に覆われるが、北

辺沿いは微量のAs-Cと小礫を含む黒褐色土に覆われる。

**カマド** 東辺南隅近くに位置し、1.24×0.88m、主軸方位(度)N-104-Eを測る。焼土面は確認されていないが、灰層とカマドを構成したと思われる石材と羽釜片が多数残存する。またカマド北壁と建物東壁とが交差する地点から、半ばほどまで垂直に埋め込まれたブロック状の土製品が検出されている。

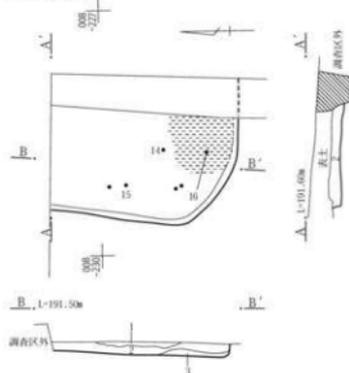
**掘り方** φ30~80mmの円礫を含む黒褐色の地山の土により床面が築かれている。また遺構中央部に灰黄褐色の粘土に覆われた床下土坑1基が存在する。

**重複** なし。

**遺物** 床面から須恵器椀(20, 21)、椀形鍛治滓(22, 23)など、カマドから須恵器椀(24, 25)、羽釜(26~35)、ブロック状の土製品(36)、埋没土から灰軸陶器皿(38)、灰軸陶器椀(39, 40)、羽釜(37, 41)、羽口(42)、鉄滓(43)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(2片、32g)、須恵器(22片、171g)、灰軸陶器(3片、45g)、羽釜(119片、2818g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀第1四半期)に比定される。

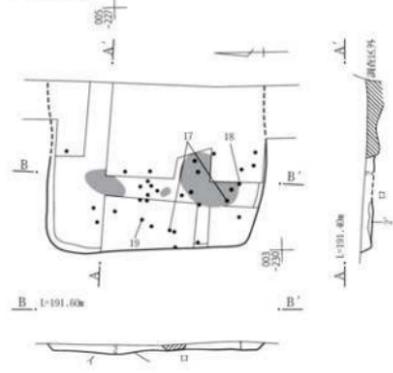
6号竪穴建物



6号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/2)φ2~4mmのAs-C含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)1よりAs-Cが少ない。
- 3 2に炭化物が多く混入したもの。

7号竪穴建物

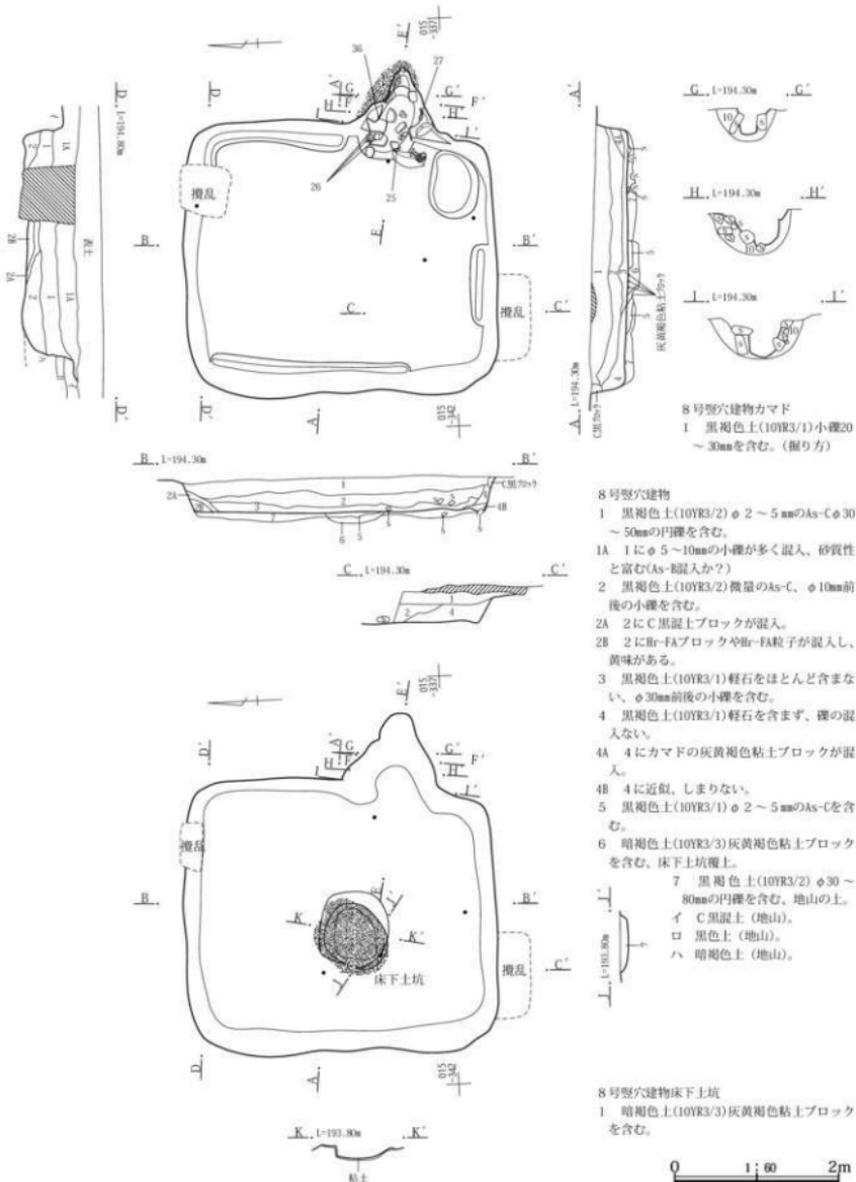


7号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/1)φ2~10mmのAs-C、炭化物、焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1に近似。
- 2' 2に近似、わずかに1より黒味が強い。
- イ にぶい黄褐色土(10YR5/4)
- ロ 黒褐色土(10YR3/2)軽石なし。

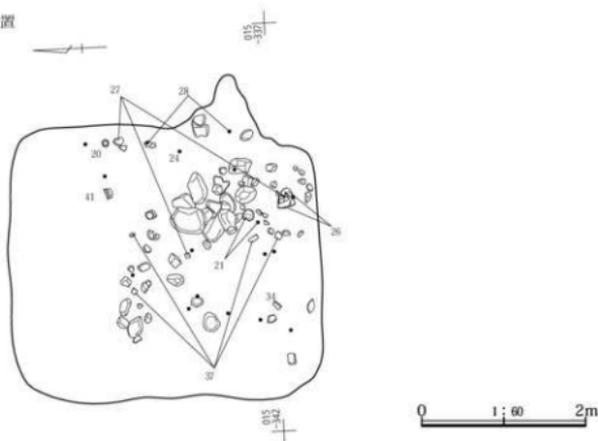
0 1:60 2m

第3-5図 6号竪穴建物、7号竪穴建物

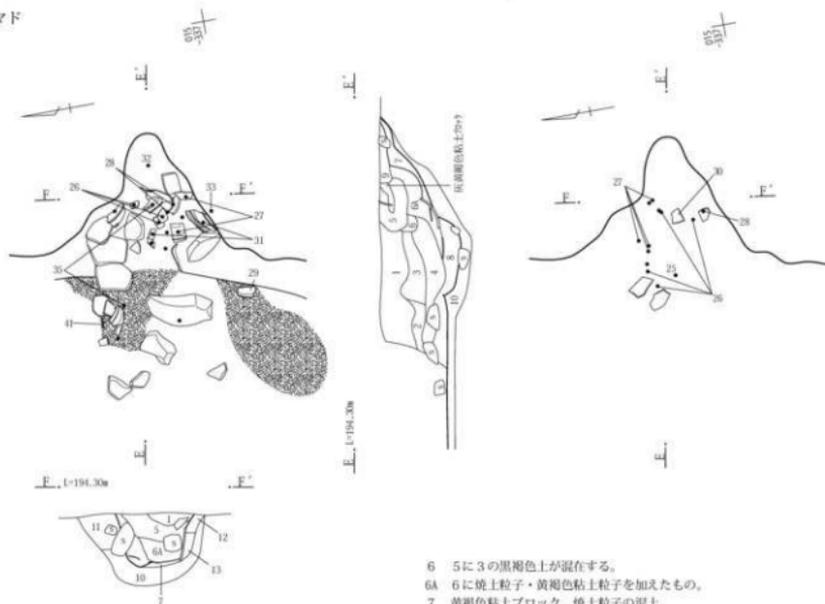


第3-6図 8号竪穴建物 1

遺物出土位置



カマド



8号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/3)φ2~5mmのAs-C、φ10mmの小礫を含む。下部に灰黄褐色粘土ブロックあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)軽石なく粘土粒子の混入多い。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C、φ10mmの小礫混入。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)軽石、小礫なし。下部面に焼土粒子を含む。
- 5 濃い黄褐色土(10YR6/4)に濃い黄褐色の粘土ブロック主体。
- 6 5に3の黒褐色土が混在する。
- 6A 6に焼土粒子・黄褐色粘土粒子を加えたもの。
- 7 黄褐色粘土ブロック。焼土粒子の混入。
- 8 黒褐色土(10YR3/1)黒色灰、灰色粒子を多く含む灰層。
- 9 暗褐色土(10YR3/3)φ5mmのAs-C、焼土粒・炭化物粒子を含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/1)小礫20~30mmを含む。(掘り方)
- 11 暗褐色土(10YR3/2)φ5mmのAs-Cを含む。(掘り方)
- 12 黄褐色粘土ブロック。
- 13 黒色土(10YR2/2)黒色灰を主体とする、しまりない。

第3-7図 8号竪穴建物2

## 2 掘立柱建物

本調査区からは南北棟2棟、東西棟2棟の都合4棟の掘立柱建物が確認されている。いずれも調査区中央東寄りの南辺沿いの一画から検出されている。このうち帰属時期を確認できた2棟はいずれも中世以降の遺構である。なお後述のピット列として掲載する遺構の中に、調査時点において掘立柱建物を構成する可能性が指摘されている遺構も含まれており、後掲(3章1節2項4)する。

(1) 1号掘立柱建物(第3-8図, PL. 1)

**位置** X=47999~48003, Y=-74266~-74273、調査区中央東寄りに位置する。

**形状等** ピット6基が検出されている。

**規模** 桁行5.36m、梁行2.16m。

**桁行方位(度)** N-80-W

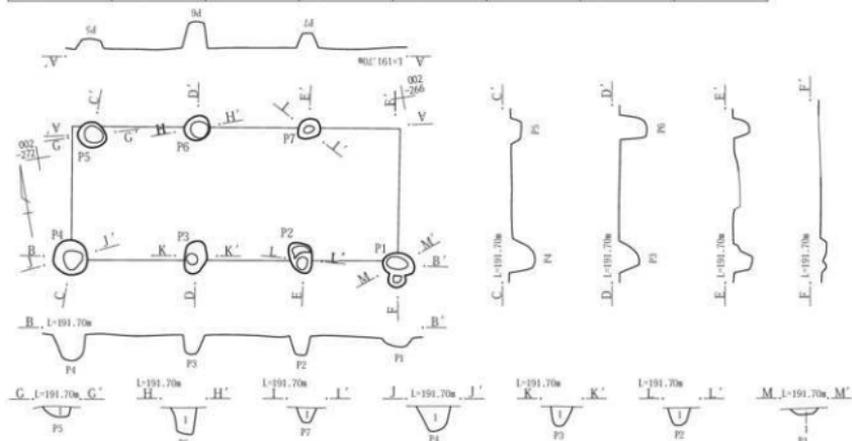
**本体構造** 桁行柱間平均1.75m、梁行柱間平均2.13m、東西棟1間×3間の掘立柱建物が確認された。

第3-1表 1号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間		桁行柱間		桁行柱間		桁行
	P5	P6	P6	P7	P7	P1	
梁行柱間	2.08	2.11	2.11	2.20	2.20	2.27	
梁間	2.08	2.11	2.11	2.20	2.20	2.27	5.27

第3-2表 1号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
位置	X=47999 Y=-74266	X=74999 Y=-74267 Y=-74268	X=47999 ~48000 Y=-74269	X=48000 Y=74271 Y=-74272	X=48002 Y=74270 Y=-74271	X=48001 ~48002 Y=74269	X=48001 Y=-74267
規模(m) 長	0.58	0.56	0.55	0.60	0.49	0.45	0.40
短	0.51	0.40	0.35	0.57	0.42	0.38	0.33
深	0.11	0.28	0.29	0.46	0.16	0.43	0.26
平面形状	短円形	長円形	長円形	短円形	短円形	短円形	短円形
主軸方位(度)	N-12-E	N-22-W	N-28-E	N-28-W	N-69-W	N-53-E	N-64-E
旧名称	126号ピット	104号ピット	110号ピット	153号ピット	118号ピット	113号ピット	135号ピット



- P5  
1 暗褐色土(10YR3/3)As-Cを少量含む。礫が混入している。
- P6  
1 暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含み1cm程度の礫が少量混入。
- P7  
1 暗褐色土(10YR3/3)As-Bが混入する。下部で確層の礫が混入。

- P3  
1 暗褐色土(10YR3/3)As-Cと炭化物を含む。
- P2  
1 暗褐色土(10YR3/3)褐色土がブロック状に混入、3cm程度の礫も入る。
- P1,4  
1 暗褐色土(10YR3/3)As-Cと明黄色色のブロック混入。

0 1:80 2m

第3-8図 1号掘立柱建物

**埋没土** ビットの埋没土はAs-Cを含む暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

**備考** 調査時の名称は、P1:126号ビット、P2:104号ビット、P3:110号ビット、P4:153号ビット、P5:118号ビット、P6:113号ビット、P7:135号ビット。

**形状等** ビット10基が検出されている。

**規模** 桁行5.65m、梁行4.23m。

**桁行方位(度)** N-14-E

**本体構造** 桁行柱間平均1.89m、梁行柱間平均2.03m、南北棟2間×3間の掘立柱建物が確認された。

**埋没土** ビットの埋没土はAs-Cを含む暗褐色土。

(2) 2号掘立柱建物(第3-9,49図、Pl. 1,26)

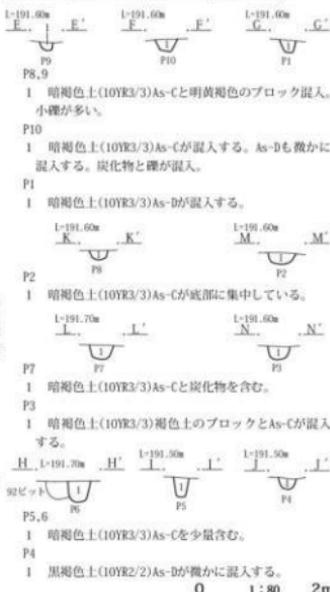
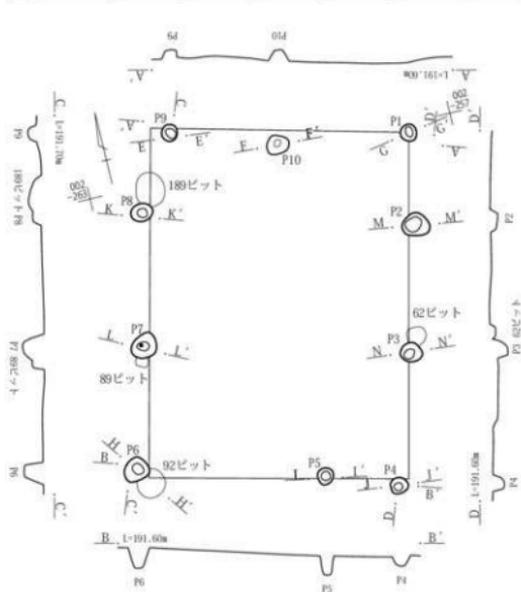
**位置** X=47996~48003、Y=-74257~74264、調査区中央東寄りに位置する。

第3-3表 2号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間		桁行柱間		桁行柱間		桁行
	P6	2.00	P7	2.18	P8	1.40	P9
梁行柱間	3.05		4.31		4.42		1.74
	P5						P10
梁行柱間	1.20						2.14
	P4	2.16	P3	2.11	P2	1.51	P1
梁間	4.24		4.31		4.42		3.86

第3-4表 2号掘立柱建物ビット計測表

ビット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
位置	X=48001 Y=-74257	X=48000 Y=-74257 ~74258	X=47998 Y=-74258	X=47996 Y=-74259	X=47996 Y=-74260	X=47997 Y=-74263	X=47999 Y=-74262	X=48001 Y=-74262	X=48002 Y=-74261	X=48002 Y=-74259
規模(m)長	0.29	0.46	0.35	0.30	0.28	0.42	0.46	0.37	0.28	0.38
短	0.28	0.38	0.32	0.28	0.27	0.36	0.39	0.30	0.27	0.32
深	0.21	0.15	0.21	0.19	0.32	0.33	0.22	0.17	0.15	0.19
平面形状	偏円形	偏丸三角形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	長円形	偏円形	不整形
主軸方位(度)	N-22-W	N-78-W	N-65-W	N-78-W	N-21-E	N-57-E	N-34-E	N-88-E	N-2-W	N-79-E
旧名称	191P	57P	38P	65P	88P	90P	90P	178P	178P	177P



第3-9図 2号掘立柱建物

**重複** 62号ビット、89号ビット、92号ビット、189号ビット。

**遺物** P7の底面近くから鉄釘(44)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。重複する4基のビットは本遺構の改修に関わる可能性がある。

**備考** 調査時の名称は、P1:191号ビット、P2:57号ビット、P3:38号ビット、P4:65号ビット、P5:88号ビット、P6:93号ビット、P7:90号ビット、P8:179号ビット、P9:号178ビット、P10:177号ビット。

第3-5表 3号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間	桁行柱間	桁行柱間	桁行柱間	桁行
梁行柱間	P8 - 2.00				
梁行柱間	1.46				
梁行柱間	P7				P1
梁行柱間	1.64				1.75
梁間	P6 - 1.72	P5 - 2.24	P4 - 1.69	P3 - 1.31	P2 - 6.82
梁間	3.09				

(3)3号掘立柱建物

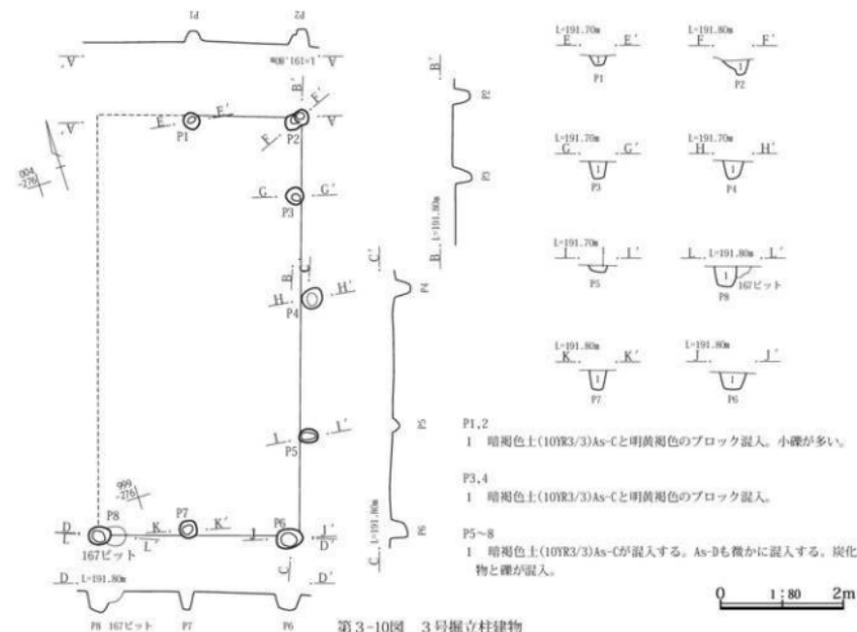
(第3-10図、PL.1)

**位置** X=47997~48005、Y=74271~74277、調査区中央東寄りに位置する。

**形状等** コの字状に並ぶ8基のビットが確認されている。

第3-6表 3号掘立柱建物ビット計測表

ビット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
位置	X=48004 Y=74273	X=48003 Y=74271	X=48002 Y=74271 ~74272	X=48000 Y=74272	X=47998 Y=74272 ~74273	X=47997 Y=74273 ~74274	X=47998 Y=74275 ~47998	X=47998 Y=74276
規模 (m) 長	0.29	0.41	0.30	0.37	0.32	0.44	0.30	0.37
短	0.26	0.26	0.29	0.31	0.23	0.32	0.30	0.29
深	0.17	0.28	0.28	0.28	0.10	0.29	0.29	0.36
平面形状	偏門形	矩形	矩形	偏門形	長門形	偏門形	偏門形	長門形
主軸方位 (度)	N-1-W	N-72-E	N-66-W	N-51-E	N-76-W	N-77-W	N-25-W	N-84-E
旧名称	144号ビット	140号ビット	148号ビット	151号ビット	161号ビット	163号ビット	165号ビット	168号ビット



**規模** 桁行6.86m、梁行3.30m、南北棟2間×4間の掘立柱建物。

**桁行方位(度)** N-18-E

**本体構造** 桁行柱間平均1.74m、梁行柱間平均1.62m

**埋没土** ビットの埋没土は、As-Cの混入する暗褐色土。

**重複** 167号ビット。

**遺物** 図化には至らなかったが、P6から中世在地系皿(1点、6g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。167号ビットはP8に関連して設けられたと推測される。本遺構が立地する旧地形は西高東低の傾斜地であり、また下位には平安時代の遺構が存在することもあって、P1とP8を結ぶ区間に存在したビットが検出されなかったと仮定したが、西に開いたコの字状のビット

列の可能性も残る。

**備考** 調査時の名称は、3号ビット列と4号ビット列。

P1: 144号ビット、P2: 140号ビット、P3: 148号ビット、  
P4: 151号ビット、P5: 161号ビット、P6: 163号ビット、  
P7: 165号ビット、P8: 168号ビット。

(4)5号掘立柱建物(第3-11図、PL.1)

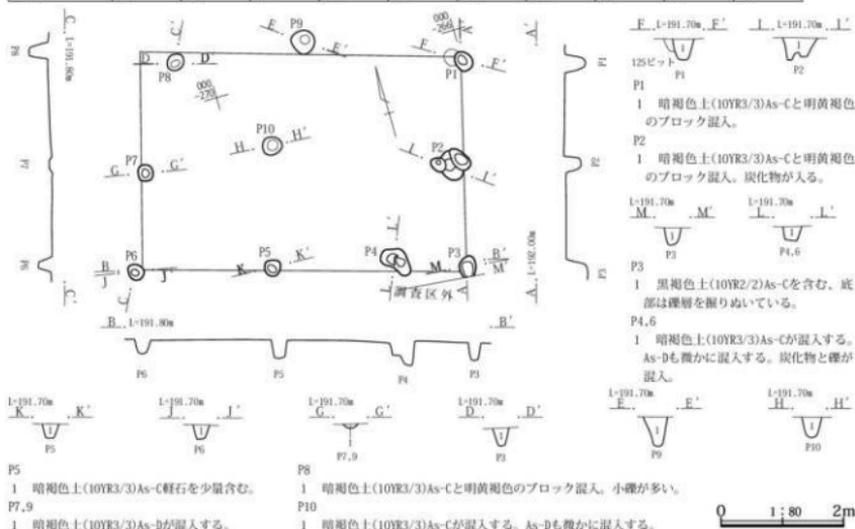
**位置** X=47996~48002、Y=-74265~-74273、調査区中

第3-7表 5号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間		桁行柱間		桁行柱間		桁行
	P8	P9	P9	P10	P10	P11	
梁行柱間	1.85	1.78					1.61
桁行柱間	1.63	2.01					1.76
梁間	3.47	3.75					3.38

第3-8表 5号掘立柱建物ビット計測表

ビット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
位置	X=47999 Y=-74265	X=47997 Y=-74266	X=47996 Y=-74266	X=47996 Y=-74267	X=47996 Y=-74269	X=47997 Y=-74271	X=47999 Y=-74271	X=48000 Y=-74270	X=48000 Y=-74268	X=47998 Y=-74269
規模(m)	長 0.33 短 0.27 深 0.34	0.67 0.52 0.35	(0.35) 0.27 0.27	0.56 0.32 0.40	0.29 0.28 0.23	0.28 0.25 0.23	0.27 0.24 0.06	0.30 0.26 0.3	0.40 0.39 0.46	0.33 0.30 0.68
平面形状	長門形	不整形	長門形	不整形	偏門形	偏門形	偏丸方形	長門形	偏門形	偏門形
主軸方位(度)	N-30-W	N-75-W	N-14-E	N-41-W	N-58-E	N-44-W	N-12-E	N-56-E	N-22-W	N-80-E
旧名称	124P	129P	98P	171P	102P	160P	156P	133P	109P	



第3-11図 5号掘立柱建物

中央寄りに位置する。

**形状等** ビット10基が検出されている。

**規模** 桁行5.24m、梁行3.52m。

**桁行方位(度)** N-72-W

**本体構造** 桁行柱間平均1.92m、梁行柱間平均1.77m、東西棟2間×3間の掘立柱建物が確認された。

**埋没土** ビットの埋没土はAs-Cを含む暗褐色土。

**重複** 125号ビット。

**遺物** 図化には至らなかったが、P4から中世在地系内耳鍋(1点12g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。桁行方向の柱間を比較すると、2m台2間と1m台1間に区分される。本遺構は2間×2間の本体部(身舎)の東辺を1間拡張(下屋)して2間×3間としたものと推察される。

**備考** 調査時の名称は、5号ビット列Bと10号ビット列。P1:124号ビット、P2:129号ビット、P3:98号ビット、P4:171号ビット、P5:102号ビット、P6:160号ビット、P7:156号ビット、P8:150号ビット、P9:133号ビット、P10:109号ビット。

### 3 竪穴状遺構

本調査区からは10基の竪穴状遺構が検出されているが、いずれも調査区東半からの検出であり、西半からは出土していない。なお、平面方形の遺構本体の一边に突出部を有する遺構が2基検出されている。遺構の多くは平安時代の遺構と思われるが、中世に帰属する遺構が2基含まれている。

(1) 1号竪穴状遺構(第3-12図、PL.5)

**位置** X=47996~48000、Y=-74244~-74249、調査区東部に位置する。

**形状等** 平面形は隅丸長方形を呈する。

**規模** 3.89×2.25×(0.18)m、8.24㎡

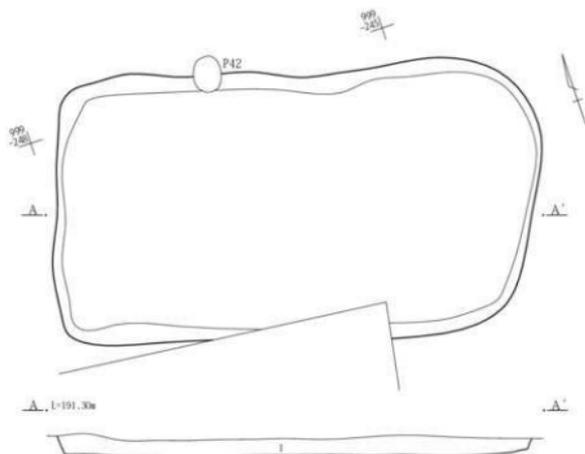
**主軸方位(度)** N-70-W

**埋没土** As-C、小礫、褐色土ブロックを含む黒褐色土。

**掘り方** なし。

**重複** 上位に42号ビットが位置する。

**遺物** 図化には至らなかったが、土師器(2片、3g)、須恵器(1片、10g)、灰陶陶器(1片、4g)が出土している。



1号竪穴状遺構

1. 黒褐色土(10YK3/2)φ2~4mmのAs-Cを少量含み、小礫(φ10mm)、φ20mmの褐色土ブロックを含む。砂質性あり。  
φ20mmの褐色土ブロック含む。

0 1:40 1m

第3-12図 1号竪穴状遺構

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。42号ピットに先行する。

(2) 2号竪穴状遺構(第3-13,49図, PL. 5, 26)

**位置** X=47996~48000, Y=74234~74238, 調査区東部に位置する。

**形状等** 西辺が2号溝と重複するため、3辺が確認されたにとどまるが、平面形は平行四辺形を呈すると推測される。

**規模** (2.77)×2.60×(0.19)m, (6.54)㎡

**主軸方位(度)** N-80-W

**埋没土** As-Cを含む砂質土。

**掘り方** φ10~20mmの円礫を含む、灰黄褐色の地山の土により床面が築かれている。

**重複** 上位に2号溝、下位に5号竪穴建物位置する。

**遺物** 埋没土から灰軸陶器皿(45)、羽釜(46)、治平元寶(47)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(34片、106g)、須恵器(16片、233g)、灰軸陶器(1片、11g)、羽釜(1片、64g)、黒色土器(1片、7g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)以降に比定される。出土した羽釜は5号竪穴建物から検出された遺物と接合関係にあり、灰軸皿と羽釜については5号竪穴建物の遺物である可能性がある。2号溝に先行し、5号竪穴建物より新しい。

(3) 3号竪穴状遺構(第3-14,50図, PL. 5, 6, 26)

**位置** X=48005~48010, Y=74249~74253, 調査区東部北辺寄りに位置する。

**形状等** 平面形は隅丸長方形を呈し、壁に沿い溝が全周する。南東隅を除く角地3か所にピットが存在する。

**規模** 3.65×2.63×(0.22)m, 8.80㎡

**主軸方位(度)** N-15-E

**埋没土** As-C、小礫の混入した、砂質性のある黒褐色土。崩落土と思われる最下層の埋没土の上面など3地点から焼土が検出されている。また南辺寄りの最下層の埋没土の上面から灰黄褐色粘土の堆積が検出されている。

**掘り方** かい黄褐色土がブロック状に混入した、にぶい黄褐色土により床面が築かれている。遺構南半から床下土坑1基と掘り込み2か所が確認されている。

**重複** 下位に6号竪穴状遺構と9号竪穴状遺構が位置する。

**遺物** 床面から須恵器椀(48)、埋没土から須恵器椀(49)が出土したほか、図化には至らなかったが、土師器(55片、504g)、須恵器(19片、236g)、灰軸陶器(3片、22g)、羽釜(3片、86g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。6号竪穴状遺構、9号竪穴状遺構よりも新しい。

(4) 4号竪穴状遺構(第3-15,50図, PL. 6)

**位置** X=48009~48012, Y=74261~74266, 調査区中央東寄りの北辺に位置する。

**形状等** 北半が調査区外に及ぶため全体は不明であるが、平面形は凸字状を呈すると推測される。遺構の立地する地点の旧地形は西側が高く東側が低い傾斜地となっているため、西側の方が深く掘り込まれている。

**規模** (4.15)×(2.34)×1.35m

**主軸方位(度)** N-108-E

**埋没土** As-Cを含まない暗褐色土。

**掘り方** なし。

**重複** 5号溝。

**遺物** 埋没土から須恵器椀(50)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(5片、10g)、須恵器(11片、51g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)以降に比定される。5号溝より新しい。

**備考** 本遺構より一回り小振りであるが、吉岡町教育委員会により平成16年に実施された隣接地での発掘調査で、類似の遺構(8号土坑)が検出され、中世の地下式土坑として報告されている。

(5) 5号竪穴状遺構(第3-16,50図, PL. 6, 26)

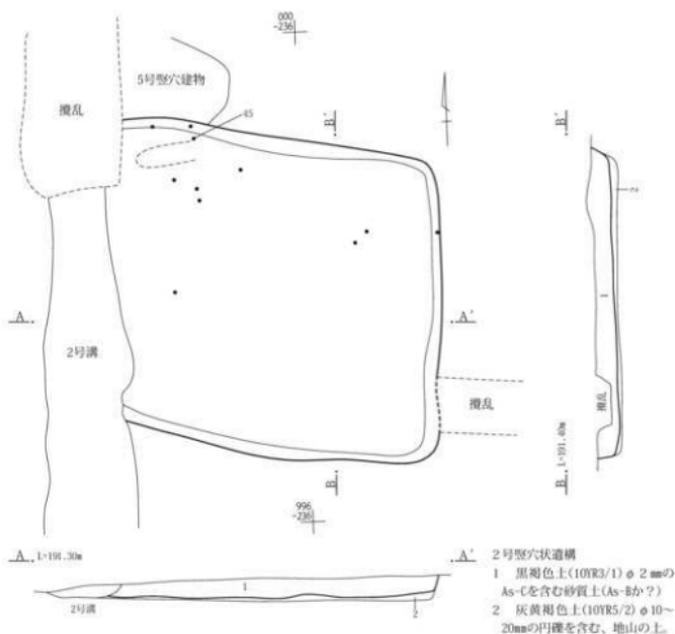
**位置** X=47999~48002, Y=74232~74237, 調査区東部に位置する。

**形状等** 平面形は概ね隅丸長方形を呈する。北辺中央寄りの地点から焼土が検出されている。

**規模** 3.32×2.25m×(0.28), 6.76㎡

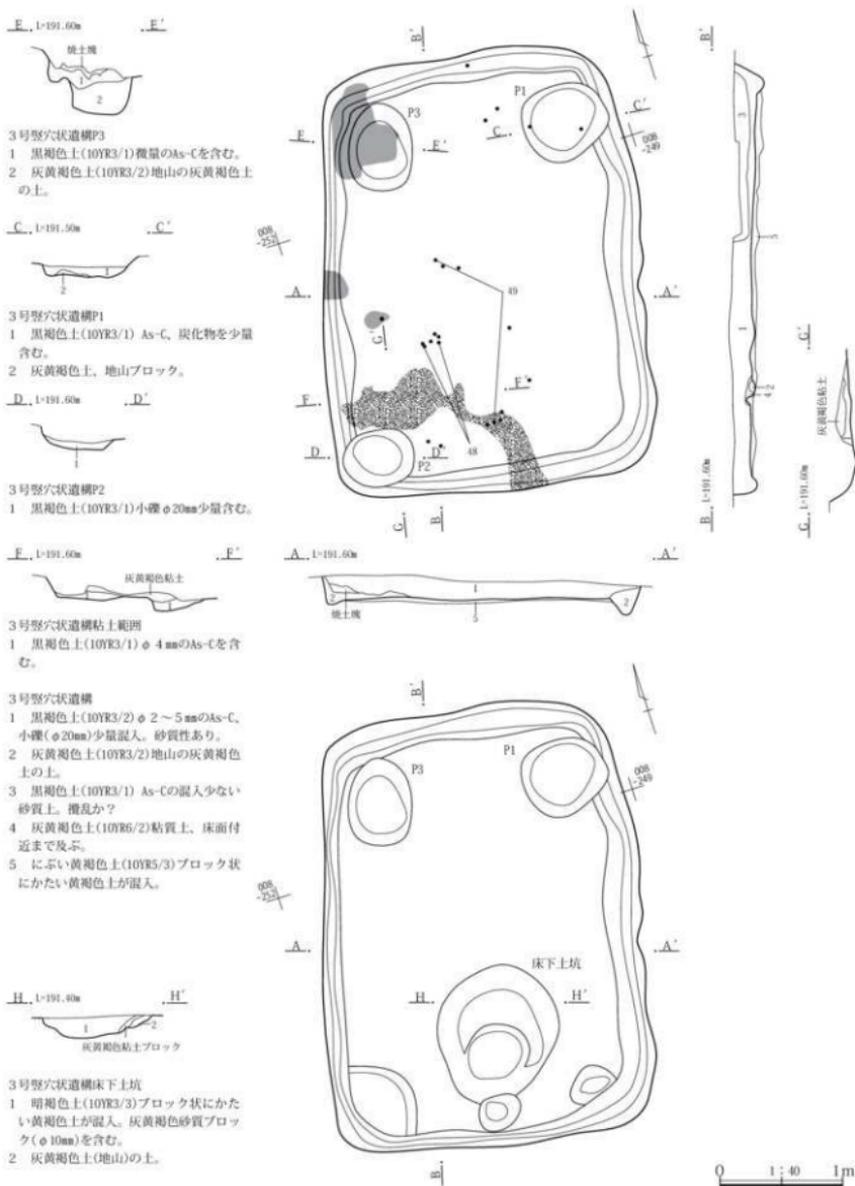
**主軸方位(度)** N-82-W

**埋没土** 軽石をほとんど含まず、小礫を含む暗褐色土に



第3-13図 2号壁穴状遺構

### 第3章 確認された遺構と遺物



#### 3号竪穴状遺構P3

- 1 黒褐色土(10YR3/1)微量のAs-Cを含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR3/2)地山の灰黄褐色土の上。

#### 3号竪穴状遺構P1

- 1 黒褐色土(10YR3/1) As-C、炭化物を少量含む。
- 2 灰黄褐色土、地山ブロック。

#### 3号竪穴状遺構P2

- 1 黒褐色土(10YR3/1)小礫φ20mm少量含む。

#### 3号竪穴状遺構粘土範囲

- 1 黒褐色土(10YR3/1)φ4mmのAs-Cを含む。

#### 3号竪穴状遺構

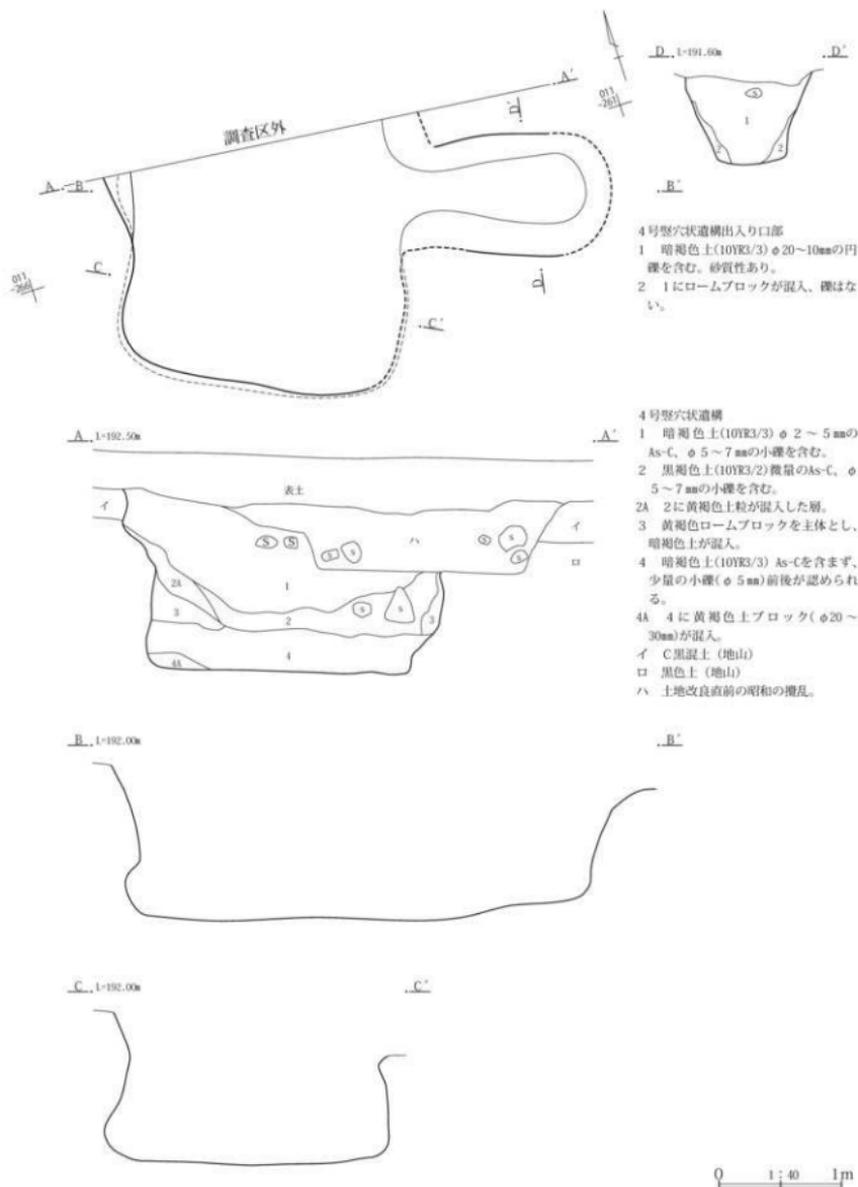
- 1 黒褐色土(10YR3/2)φ2~5mmのAs-C、小礫(φ20mm)少量混入。砂質性あり。
- 2 灰黄褐色土(10YR3/2)地山の灰黄褐色土の上。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) As-Cの混入少ない砂質土。攪乱か?
- 4 灰黄褐色土(10YR6/2)粘質土、床面付近まで及ぶ。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/3)ブロック状にかたい黄褐色土が混入。

#### 3号竪穴状遺構床下土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)ブロック状にかたい黄褐色土が混入。灰黄褐色砂質ブロック(φ10mm)を含む。
- 2 灰黄褐色土(地山)の上。

第3-14図 3号竪穴状遺構

第1節 1面の遺構と遺物



4号型穴状遺構出入り口部

- 1 暗褐色土(10YR3/3)φ20~10mmの小礫を含む。砂質性あり。
- 2 1にロームブロックが混入、礫はない。

4号型穴状遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3)φ2~5mmのAs-C、φ5~7mmの小礫を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C、φ5~7mmの小礫を含む。
- 2A 2に黄褐色土粒が混入した層。
- 3 黄褐色ロームブロックを主体とし、暗褐色土が混入。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含まず、少量の小礫(φ5mm)前後が認められる。
- 4A 4に黄褐色土ブロック(φ20~30mm)が混入。
- イ C黒混土(地山)
- ロ 黒色土(地山)
- ハ 土地改良直前の昭和の攪乱。

第3-15図 4号型穴状遺構

一面覆われている。

**掘り方** 円礫を含むにぶい黄褐色の地山の土と小円礫を含み砂質性のある褐灰色土により床面が築かれている。

**重複** なし。

**遺物** 埋没土から龍泉窯系磁器碗(51~53)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(10片、65g)、須恵器(3片、15g)、灰釉陶器(3片、22g)、中世国産焼締陶器(2点、130g)、近世国産磁器(2点、5g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

(6) 6号竪穴状遺構(第3-17図、PL. 6)

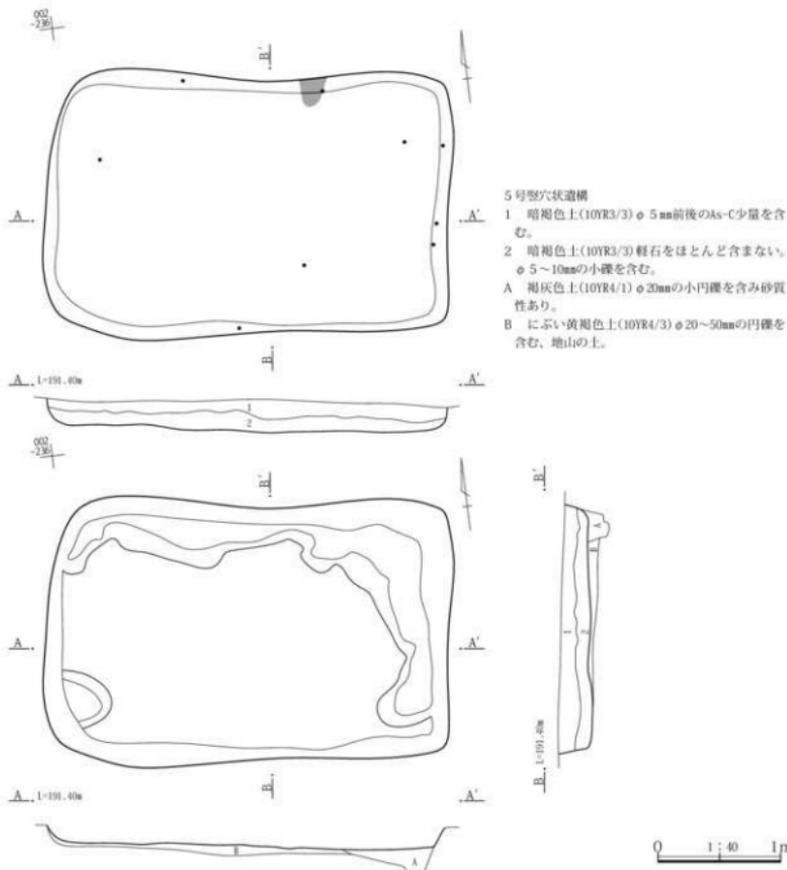
**位置** X=48008~48011、Y=74247~74251、調査区東部の北辺に位置する。

**形状等** 北辺が調査区外に及び不明であるが、平面形は概ね隅丸方形を呈すると推察される。

**規模** 2.51×(2.00)×(0.55)m、(3.92)m<sup>2</sup>

**主軸方位(度)** N-65-W

**埋没土** 少量のAs-Cを含む砂質性の暗褐色土に黄褐色土が混入した、にぶい黄褐色土の上に少量のAs-Cを含む暗褐色土が堆積している。



第3-16図 5号竪穴状遺構

掘り方 なし。

重複 上位に3号竪穴建物、下位に9号竪穴建物が位置する。

遺物 図化には至らなかったが、須恵器(10片、60g)、灰軸陶器(1片、13g)、羽釜(2片、27g)のほか中世国産焼締陶器(1点、175g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

(7)7号竪穴状遺構(第3-18,50図, PL. 7, 26)

位置 X=48003~48006, Y=-74229~-74232, 調査区東端に位置する。

形状等 南辺と西辺が確認されたのみであり、詳細は不明である。

規模 (2.41)×(1.60)×(0.24)m

主軸方位(度) N-3-W

埋没土 As-Cを含み、少量の炭化物が混入する黒褐色土に覆われる。

掘り方 なし。

重複 7号竪穴建物の下位に位置する。

遺物 床面から土師器杯(54)、須恵器杯(55)、須恵器碗(56)、床下から須恵器杯(57)、須恵器碗(58)が出土したほか、図化には至らなかったが、土師器(49片、322g)、

須恵器(15片、137g)、灰軸陶器(3片、18g)、羽釜(13片、205g)、釘状の不明鉄製品(1点、2g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(9世紀後半)に比定される。7号竪穴建物を先行する。

(8)8号竪穴状遺構(第3-19,50図, PL. 7)

位置 X=48000~48003, Y=-74236~-74240, 調査区東部に位置する。

形状等 南辺が確認されていないが、平面形は概ね長方形を呈すると推測される。

規模 3.33×(1.90)×(0.19)m, (6.33)m<sup>2</sup>

主軸方位(度) N-84-W

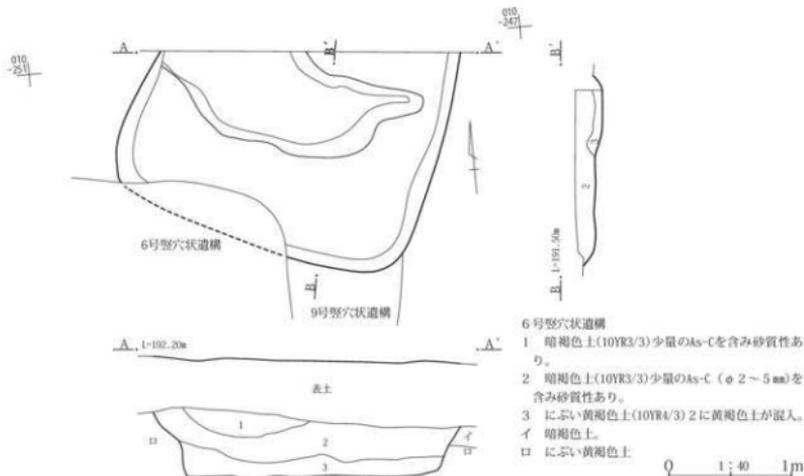
埋没土 As-Cを含む黒褐色土が確認されている。

掘り方 灰黄褐色土ブロックが上面に混入し床面を構成している。

重複 上位に2号溝、下位に5号竪穴建物が位置する。

遺物 床面から須恵器杯(59)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(7片、61g)、須恵器(6片、30g)、灰軸陶器(4片、16g)、羽釜(4片、71g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀後半)に比定される。5号竪穴建物より新しく、2号溝に先行する。



第3-17図 6号竪穴状遺構

### 第3章 確認された遺構と遺物

#### (9) 9号竪穴状遺構(第3-18, 50図, PL. 7, 27)

**位置** X=48005~48009, Y=-74248~-74250, 調査区東部に位置する。

**形状等** 東辺とされる一画が確認されるのみであり、詳細は不明である。

**規模** (3.14)×(1.13)×(0.09)m

**主軸方位(度)** N-23-E

**埋没土** 少量のAs-Cを含み砂質性のある暗褐色土。

**掘り方** なし。

**重複** 3号竪穴状遺構、6号竪穴状遺構、2号井戸の下位に位置する。

**遺物** 底面から灰釉陶器碗(60)、羽釜(61)が出土したほか、図化には至らなかったが、土師器(7片、71g)、灰釉陶器(2片、9g)、羽釜(5片、67g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。3号竪穴状遺構、6号竪穴状遺構、2号井戸に先行する。図化した羽釜は3号竪穴状遺構から検出された破片と接合関係にあり、3号竪穴状遺構に帰属する可能性がある。

#### (10) 10号竪穴状遺構(第3-20, 50図, PL. 7, 8, 27)

**位置** X=47998~48004, Y=-74272~-74278, 調査区中央東寄りに位置する。

**形状等** 西辺が丸みを帯びるが、平面形は凸字状を呈する。突出部は斜路となっており出入り口と推測される。外周沿いにピット5基が確認されている。

**規模** 5.20×4.30×(0.50)m, (16.80) m<sup>2</sup>

**主軸方位(度)** N-15-E

**埋没土** 砂質性のあるローム質の黄褐色土。

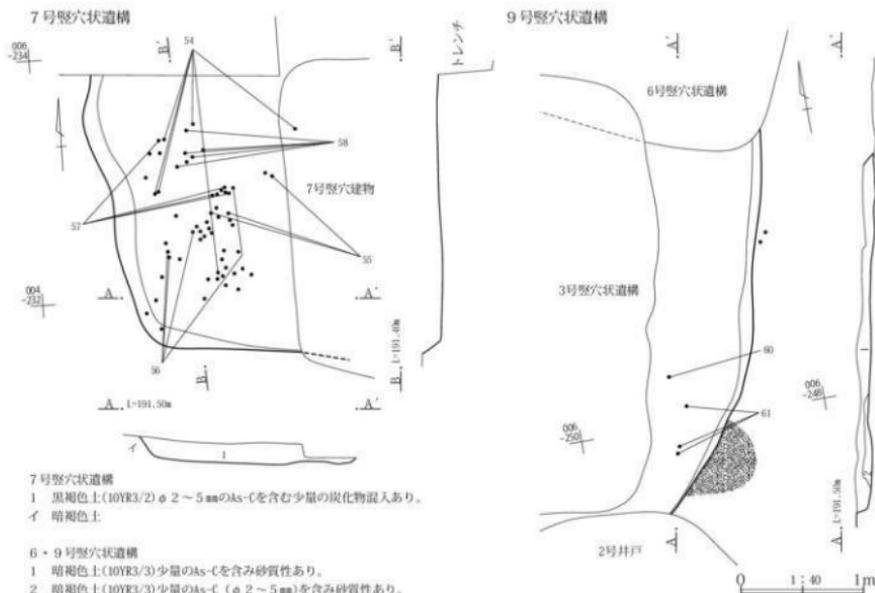
**掘り方** なし。

**重複** 上位に21号土坑が位置する。

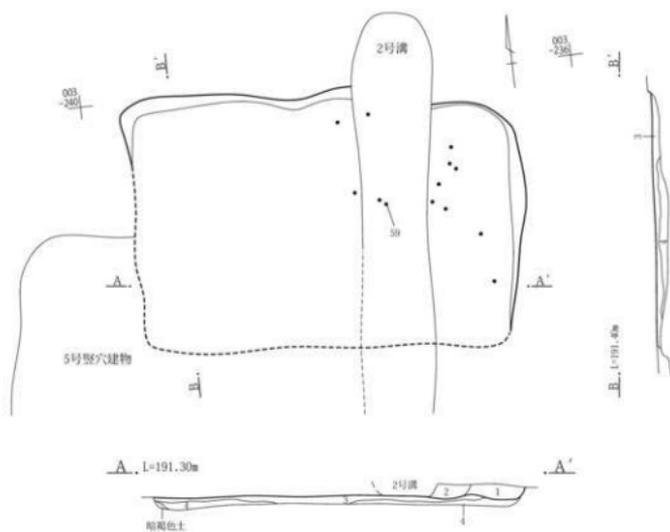
**遺物** 床面から須恵器碗(62)、埋没土から不明鉄製品(63)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(1片、10g)、須恵器(2片、12g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。21号土坑に先行する。

**備考** 4号竪穴状遺構に類似するが、一回り大きく、出入り口部分が短い。

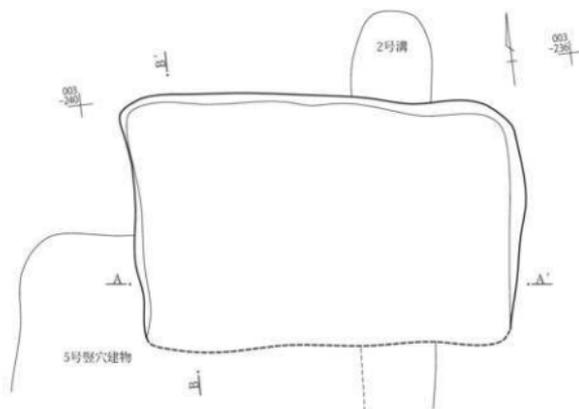


第3-18図 7号竪穴状遺構、9号竪穴状遺構



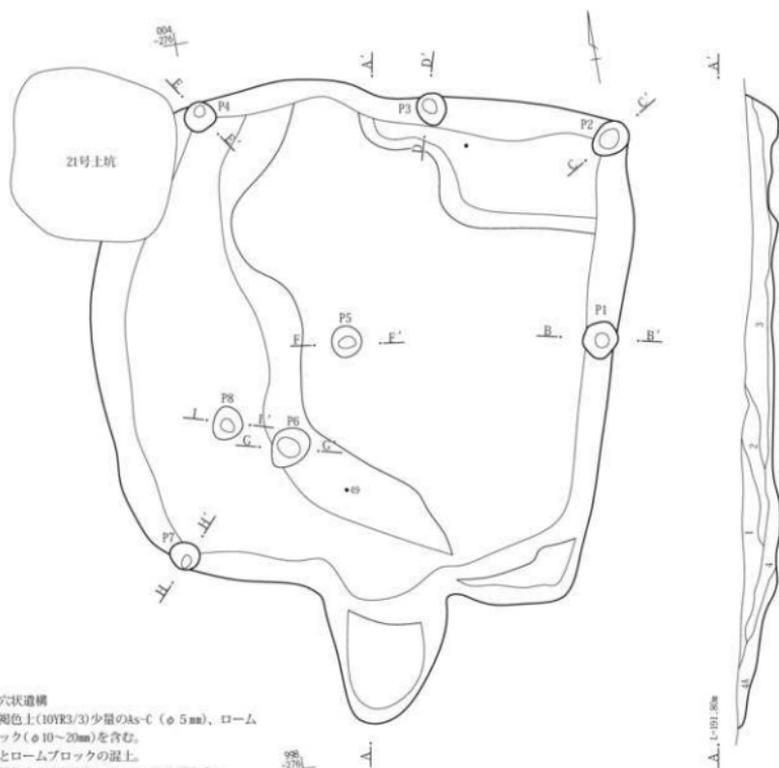
8号整穴状遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-C (φ 2～5 mm)を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)少量のAs-C (φ 2～5 mm)を含む、砂質性あり。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)灰黄褐色土ブロックが上面に混入し床面を構成。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)地山の上。



0 1:40 1m

第3-19図 8号整穴状遺構



10号壑穴状遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3)少量のks-C (φ 5mm)、ロームブロック(φ 10~20mm)を含む。
- 2 1とロームブロックの混在。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)φ 10~30mmの小礫を含む。
- 4 黄褐色砂質性のあるローム質土。
- 4 A ロームブロックと暗褐色土が斑点状に混在。

B, l-191.70m, B'



C, l-191.80m, C'



D, l-191.70m, D'



E, l-191.60m, E'



F, l-191.50m, F'



G, l-191.50m, G'



H, l-191.80m, H'



I, l-191.80m, I'



10号壑穴状遺構P1~P8

- 1 黒褐色土(10YR3/1)しまりなく、砂質性強い。



第3-20図 10号壑穴状遺構

## 4 ビット列

本調査区からは6条のビット列が確認されているが、いずれも調査区東半の南辺沿いに位置する。確認されたビット列は2条を除き、調査区外に連なる可能性が高く、調査時点において掘立柱建物などの1辺である可能性を指摘される遺構である。今回検出された遺構には、柵や塀などの柱穴でない可能性のある遺構も含まれており、柵としての提示を見合わせた。遺構の帰属する時期は特定されていない。

## (1) 1号ビット列(第3-22図)

**位置** X=47994~47996、Y=-74248~-74255、調査区東半の南辺に位置する。

**形状等** 鈎の手状に連なる5基のビットが確認されている。

**規模** 東西4.43m、南北0.80m。P5を除くビット間隔の平均は2.15mを測る。

**主軸方位(度)** 東西N-77-W、南北N-14-E。

**埋没土** ビットの埋没土は、As-Dの混入する黒褐色土。

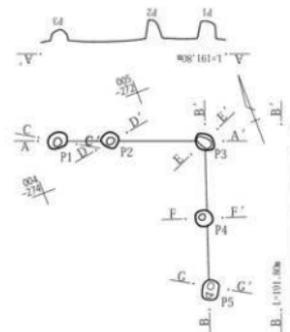
**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。なお本遺構は、7号ビット列を囲う遺構となる可能性が認められる。

**備考** 調査時の名称は、P1: 27号ビ

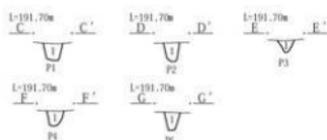
## 3・11号ビット列



第3-9表 1号ビット列計測表

1号ビット列	P1	P2	P3	P4	P5	
位置	X=47995 ~47996 Y=-74248 ~-74254	X=47996 Y=-74254	X=47995 ~47996 Y=-74234	X=47995 ~47996 Y=-74249 ~-74250	X=47995 ~47996 Y=-74248	X=47994 Y=-74248
規模(m)	長 短 深	6.72 - -	0.34 0.29 0.16	0.43 0.33 0.26	0.47 0.30 0.15	0.37 0.27 0.13 0.21
平面形状	直状	扇丸方形	不整形	扇円形	長方形	扇円形
主軸方位(度)	N-78-W	N-81-W	N-20-W	N-61-E	N-14-E	N-69-W
次ビット間隔	平均2.15	2.32	2.20	1.92	0.70	-
旧名称	-	27P	25P	22P	19P	18P

註 平均ビット間隔にP4-P5間は含まれていない。



- P1  
1 暗褐色土(10YR3/3) As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。炭化物と礫が混入。
- P2  
1 暗褐色土(10YR3/3) As-Cと明黄褐色のブロック混入。小礫が多い。
- P3, 4  
1 暗褐色土(10YR3/3) As-Dが混入する。下部で礫層の礫が混入。
- P5  
1 暗褐色土(10YR3/3) As-Cと明黄褐色のブロック混入。

第3-21図 ビット列1

ト、P2: 25号ビット、P3: 22号ビット、P4: 19号ビット、P5: 18号ビット。

## (2) 2号ビット列(第3-22図)

**位置** X=47995~47998、Y=-74260~-74268、調査区東半の南辺に位置する。

**形状等** 鈎の手状に連なる6基のビットが確認されている。

**規模** 東西7.50m、南北1.19m。P1を除くビット間隔の平均は1.80mを測る。

**主軸方位(度)** 東西N-78-W、南北N-9-E。

**埋没土** ビットの埋没土は、As-Cの混入する暗褐色土またはAs-Dの混入する黒褐色土。

**重複** 上位に8号ビット列。

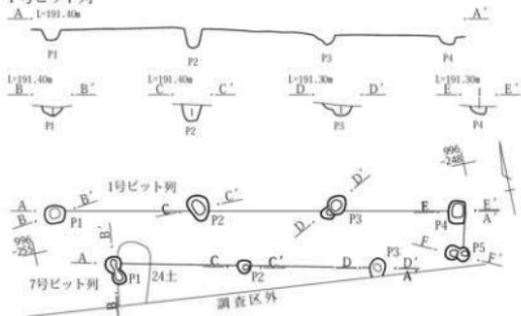
**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。なお本遺構は、南北棟の掘立柱建物の北辺をなす可能性が認められる。

**備考** 調査時の名称は、P1: 99号ビット、P2: 100号ビット、P3: 86号ビット、P4: 85号ビット、P5: 84号ビット、P6: 82号ビット。

### 第3章 確認された遺構と遺物

#### 1号ビット列



#### 1号ビット列

P1,2

1 暗褐色土(10YR3/3) As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

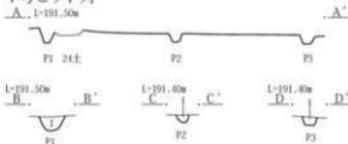
P3

1 黒褐色土(10YR2/2) As-Dと褐色土のブロックが混入する。

P4,5

1 黒褐色土(10YR2/2) As-Dが微かに混入する。

#### 7号ビット列



#### 7号ビット列

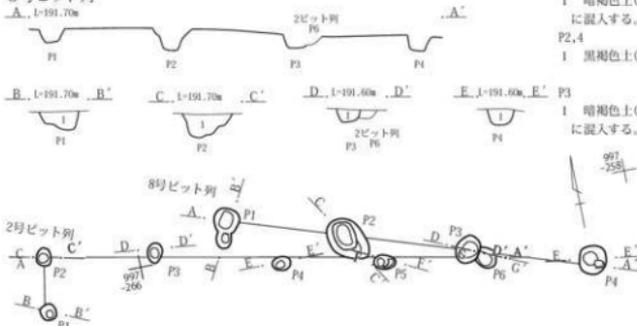
P1,3

1 黒褐色土(10YR2/2) As-Dが微かに混入する。

P2

1 暗褐色土(10YR3/3)褐色土のブロックが混入する。

#### 8号ビット列



#### 8号ビット列

P1

1 暗褐色土(10YR3/3) As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

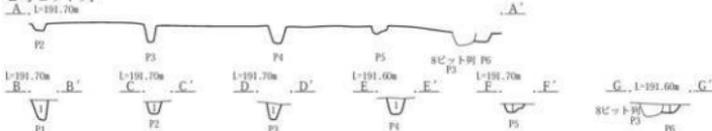
P2,4

1 黒褐色土(10YR2/2) As-Dが微かに混入する。

P3

1 暗褐色土(10YR3/3) As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。底部で明黄色土のブロックが混入。

#### 2号ビット列



#### 2号ビット列

P2

1 暗褐色土(10YR3/3) As-Cが混入する。As-Dも微かに混入する。

P3

1 暗褐色土(10YR3/3) As-Cを少量含む。

P4-6

1 黒褐色土(10YR2/2) As-Dが微かに混入する。

P1

1 暗褐色土(10YR3/3) As-Cと炭化物を含む。

0 1:80 2m

第3-22図 ビット列2

## (3) 3・11号ビット列(第3-21図)

**位置** X=48001~48005、Y=-74241~-74273、に位置する。

**形状等** 鉤の手状に連なる5基のビットが確認されている。

**規模** 東西2.37m、南北2.38m。P1を除くビット間隔の平均は1.30mを測る。

**主軸方位(度)** 東西N-69-W、南北N-18-E。

**埋没土** ビットの埋没土は、As-CやAs-Dが混入する暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

**備考** 調査時の名称は、P1:145号ビット、P2:143号ビット、P3:139号ビット、P4:147号ビット、P5:149号ビット。

## (4) 7号ビット列(第3-22図)

**位置** X=47994~47996、Y=-74249~-74254、調査区東半の南辺に位置する。

**形状等** 直線状に並ぶ3基のビットが確認されている。

**規模** 4.48m。ビット間隔の平均は2.11mを測る。

**主軸方位(度)** N-78-W

**埋没土** ビットの埋没土は、As-Dが混入する黒褐色土。

**重複** 上位に24号土坑。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。24号土坑に先行する。なお本遺構は、南北棟梁間2間の掘立柱建物の北辺をなす可能性が認められる。

**備考** 調査時の名称は、P1:37号ビット、P2:24号ビット、P3:51号ビット。

## (5) 8号ビット列(第3-22図)

**位置** X=47995~47998、Y=-74258~-74265、調査区東半の南辺沿いに位置する。

**形状等** 直線状に並ぶ4基のビットが確認されている。

**規模** 6.38m。ビット間隔の平均は1.98mを測る。

**主軸方位(度)** N-71-W

**埋没土** ビットの埋没土は、As-Dが混入する黒褐色土。

第3-10表 2号ビット列計測表

2号ビット列		P1	P2	P3	P4	P5	P6
位置	X=47995 ~47997	X=47996	X=47997	X=47996 ~47997	X=47996	X=47996 ~47996	X=47995 ~47996
	Y=74260 ~74267	Y=74267	Y=74267	Y=74265	Y=74263	Y=74261 ~74262	Y=74260
規模(m)	長	0.27	0.29	0.33	0.31	0.36	(0.38)
	短	0.25	0.24	0.24	0.23	0.23	0.31
	深	0.21	0.20	0.28	0.25	0.14	0.15
平面形状	鉤の手状	楕円方形	楕円形	楕円形	楕円形	長円形	楕円形
主軸方位(度)	N-78-W	N-26-W	N-20-E	N-13-E	N-82-W	N-86-W	N-35-W
次ビット間隔	平均1.80	0.92	1.82	2.06	1.63	1.67	-
旧名称	-	99P	100P	86P	85P	84P	82P

註 平均ビット間隔にP1-P2間が含まれていない。

第3-11表 3・11号ビット列計測表

3・11号ビット列		P1	P2	P3	P4	P5	
位置	X=48001 ~48005	X=48004	X=48004	X=48003	X=48002	X=48001	
	Y=74241 ~74273	Y=74273	Y=74272	Y=74271	Y=74271	Y=74271 ~74272	
規模(m)	長	2.38	0.34	0.28	0.34	0.30	0.33
	短	2.37	0.27	0.26	0.27	0.28	0.27
	深	-	0.29	0.31	0.18	0.23	0.28
平面形状	鉤の手状	楕円形	楕円方形	長円形	楕円形	楕円長方形	
主軸方位(度)	N-25-W	N-69-E	N-25-W	N-24-W	N-40-W	N-32-E	
次ビット間隔	平均1.00	0.48	1.51	1.23	1.15	-	
旧名称	-	145P	143P	139P	147P	149P	

註 P2-P5間の平均ビット間隔は、1.30m。

**重複** 下位に2号ピット列。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。2号ピット列より新しい。

**備考** 調査時の名称は、P1：69号ピット、P2：83号ピット、P3：81号ピット、P4：80号ピット。

## 5 溝

本調査区からは22条の溝が検出されている。多くの溝は調査区中央から西に存在する。中央から西側に位置する溝のうち4条には直角の屈曲部があり、残りは全て南北に直線的に存在している。多くの溝の断面形状は、直線や緩い曲線を描く幅広の底部をもつ、四角形や逆台形などであるが、葉研状の断面をもつ溝が3条確認されている。なお、平安時代の溝2条、中世の溝3条が確認されているが、残り17条は時期を特定しえなかった。

### (1) 1号溝(第3-23図、PL.10)

**位置** X=48007~48010、Y=74238~74240、調査区東端近くの北辺に位置する。

**形状** 北端調査区外に続く、浅い直線状の溝が検出されている。

**規模** (2.47)×1.07×0.15~0.20m。溝底面の北端標高191.24m、南端標高191.23m、溝両端での標高差0.01mを測る。

**走行方位(度)** N-2-E

**埋没土** 微量の灰色軽石を含む砂質の暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 凶化には至らなかったが、須恵器(1片、6g)、中世在地系皿(1点、31g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

### (2) 2号溝(第3-23図、PL.10)

**位置** X=47993~48004、Y=74237~74239、調査区東端寄りに位置する。

**形状** 調査区東端の中間から南流し、調査区外に至る浅い溝が検出されている。

**規模** (10.04)×0.54~0.98×0.02~0.12m。溝底面の北端標高191.22m、南端標高190.98m、溝両端での標高

差0.24mを測る。

**走行方位(度)** N-3-E

**埋没土** As-Cを少量含む砂質の暗褐色土。

**重複** 上位に2号ピット、5号ピット、6号ピット、下位に5号竪穴建物、2号竪穴状遺構、8号竪穴状遺構、9号土坑、39号土坑が位置する。

**遺物** 凶化には至らなかったが、土師器(5片、11g)、須恵器(7片、72g)、灰釉陶器(3片、4g)、黒色土器(2片、5g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。

### (3) 3号溝(第3-23図、PL.10)

**位置** X=48003~48010、Y=74245~74248、調査区東端近くの北辺に位置する。

**形状** 調査区外より南流し、調査区東部の中ほどに至る溝が検出されている。

**規模** (6.02)×0.62×0.07~0.21m。溝底面の北端標高191.34m、南端標高191.21m、溝両端での標高差0.13mを測る。

**走行方位(度)** N-10-E

**埋没土** 軽石の混入しない黒褐色土の上に、As-Cを含む黒褐色土が堆積している。

**重複** 上位に10号土坑が位置する。

**遺物** 凶化には至らなかったが、須恵器(1片、3g)、

第3-12表 7号ピット列計測表

7号ピット列		P1	P2	P3
位置	X=47994 ~47995	X=47995	X=47994	X=47994
	Y=74249 ~74250	Y=74253	Y=74251	Y=74249
規模(m)	長	4.48	0.48	0.23 (0.30)
	短	0.27	0.22	0.24
	深	0.24	0.12	0.12
平面形状	直状	緩凹形	緩凹形	不明
土軸方位(度)	N-73-W	N-16-W	N-47-E	N-16-E
深ピット間隔	平均1.11	2.12	2.10	-
計名称	-	3P	2P	3P

第3-13表 8号ピット列計測表

8号ピット列		P1	P2	P3	P4
位置	X=47995 ~47998	X=47997	X=47996 47997	X=47996	X=47995
	Y=74258 ~74264	Y=74263	Y=74262	Y=74260	Y=74259
規模(m)	長	6.38	0.66	0.81	0.48
	短	0.43	0.55	0.38	0.44
	深	0.29	0.36	0.20	0.24
平面形状	直状	緩凹形	緩凹形	緩凹形	緩凹形
土軸方位(度)	N-71-W	N-20-E	N-39-W	N-34-E	N-27-E
深ピット間隔	平均1.98	1.91	2.03	1.99	-
計名称	-	6P	6P	6P	6P

中世在地系土器(1点、2g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

(4) 4号溝(第3-50, 51図, PL. 10, 11, 27)

**位置** X=47997~48008, Y=-742645~-74281, 調査区中央部に位置する。

**形状** ほぼ直角に折れ曲がるクランク状をなす。その各部の走向と長さは北から順に、N-17-E 3.20m, N-77-W 13.05m, N-8-E (10.65)mと続き調査区外に至る。断面は葉研状を呈する。

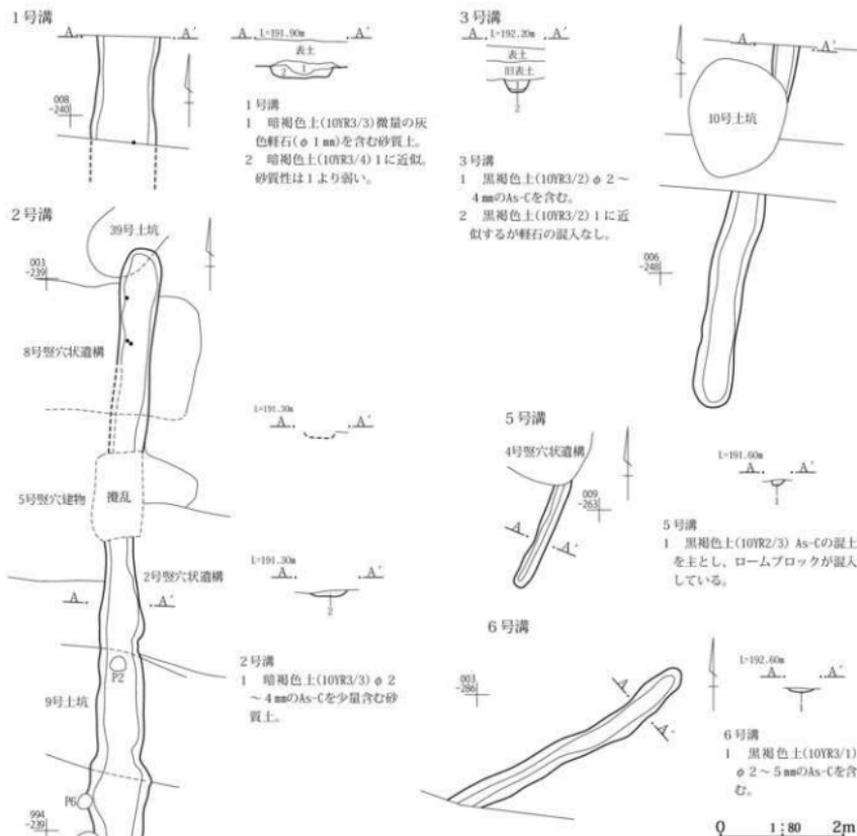
**規模** (17.74)×0.77~1.56×0.83~1.24m。溝底面の北端標高190.69m、南端標高190.44m、溝両端での標高差0.25mを測る。

**走行方位(度)** N-55-E

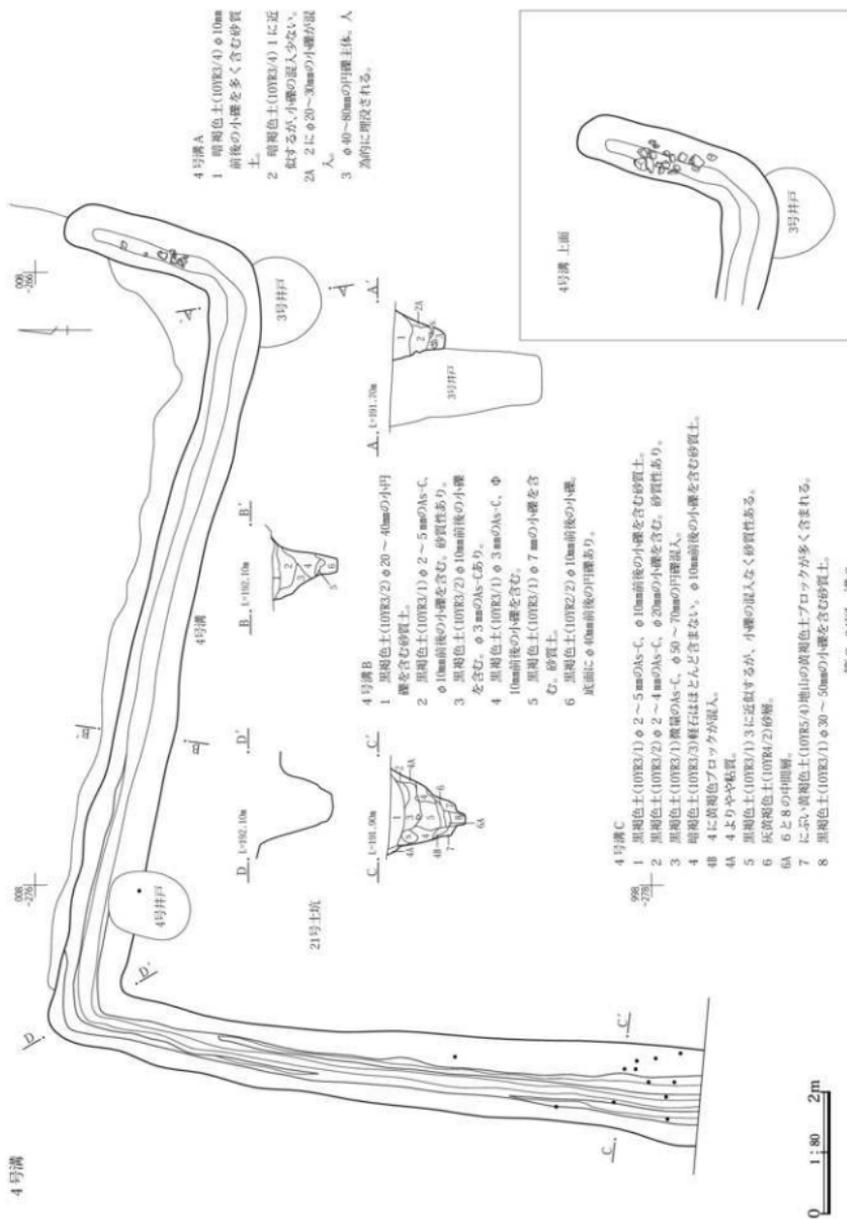
**埋没土** 北部は円礫を含む黒褐色土、南部は小礫を含む砂質の黒褐色土。なお上位の埋没土はAs-Cを含むが、下位はAs-Cを含んでいない。

**重複** 上位に4号井戸、下位に3号井戸が位置する。

**遺物** 埋没土から、中世龍泉窯系青磁皿(64)、古瀬戸碗(65, 66)、常滑陶器甕(67)、常滑陶器すり鉢(68)、中世在地系土器皿(69~75)、近世在地系土器置輪(76)、肥前



第3-23図 溝1



- 4号溝 A.  
 1 黒褐色土(10YR3/4)φ10mm前後の小礫を多く含む砂質土。  
 2 暗褐色土(10YR3/3)に近似的するが、小礫の混入少ない。2A 2にφ20~30mmの小礫が混入。  
 3 φ40~80mmの円環主体、人高的に埋没される。

4号溝 B.

- 1 黒褐色土(10YR3/2)φ20~40mmの小円環を含む砂質土。  
 2 黒褐色土(10YR3/1)φ2~5mmのAs-C、φ10mm前後の小礫を含む。砂質性あり。  
 3 黒褐色土(10YR3/2)φ10mm前後の小礫を含む。φ3mmのAs-Cあり。  
 4 黒褐色土(10YR3/1)φ3mmのAs-C、φ10mm前後の小礫を含む。  
 5 黒褐色土(10YR3/1)φ7mmの小礫を含む。砂質土。  
 6 黒褐色土(10YR2/2)φ10mm前後の小礫。底面にφ40mm前後の円環あり。

4号溝 C.

- 1 黒褐色土(10YR3/1)φ2~5mmのAs-C、φ10mm前後の小礫を含む砂質土。  
 2 黒褐色土(10YR3/2)φ2~4mmのAs-C、φ20mmの小礫を含む。砂質性あり。  
 3 黒褐色土(10YR3/1)層のAs-C、φ50~70mmの円環混入。  
 4 暗褐色土(10YR3/3)軽石はほとんど含まない。φ10mm前後の小礫を含む砂質土。  
 4B 4に黄褐色ブロックが混入。  
 4A 4よりやや私質。  
 5 黒褐色土(10YR3/1)3に近似的するが、小礫の混入なく砂質性あり。  
 6 灰青色土(10YR4/2)砂質。  
 6A 6と8の間層。  
 7 にごい、黄褐色土(10YR3/4)地山の黄褐色土でブロックが多く含まれる。  
 8 黒褐色土(10YR3/1)φ30~50mmの小礫を含む砂質土。

4号溝 D.

- 1 黒褐色土(10YR3/1)φ2~5mmのAs-C、φ10mm前後の小礫を含む砂質土。  
 2 黒褐色土(10YR3/2)φ2~4mmのAs-C、φ20mmの小礫を含む。砂質性あり。  
 3 黒褐色土(10YR3/1)層のAs-C、φ50~70mmの円環混入。  
 4 暗褐色土(10YR3/3)軽石はほとんど含まない。φ10mm前後の小礫を含む砂質土。  
 4B 4に黄褐色ブロックが混入。  
 4A 4よりやや私質。  
 5 黒褐色土(10YR3/1)3に近似的するが、小礫の混入なく砂質性あり。  
 6 灰青色土(10YR4/2)砂質。  
 6A 6と8の間層。  
 7 にごい、黄褐色土(10YR3/4)地山の黄褐色土でブロックが多く含まれる。  
 8 黒褐色土(10YR3/1)φ30~50mmの小礫を含む砂質土。

第3-24図 溝2

磁器染付皿(77)のほか鉄釘(78,79)、硯(80)、火打石(81)が出土している。また図化には至らなかったが、土師器(15片、56g)、須恵器(5片、103g)、羽釜(7片、102g)のほか、中世国産焼締陶器(2点、80g)、在地系土器(31点、798g)、近世国産施釉陶器(5点、150g)が出土している。なお中世在地系土器皿(67~73)は溝中層からの出土である。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世に比定される。3号井戸より新しく、4号井戸に先行する。環濠の一端を構成する遺構と推察される。本遺構からは近世陶器も出土しており、近世に至っても留地として存続していたと推察される。

#### (5) 5号溝(第3-23図, PL.11)

**位置** X=48007~48010, Y=-74263~-74265, 調査区中央東寄りに位置する。

**形状** 4号溝北端近くから、北流する溝が検出されている。

**規模** (1.94)×0.26×0.06~0.11m。溝底面の南端標高191.46m、北端標高191.33m、溝両端での標高差0.13mを測る。

**走行方位(度)** N-24-E

**埋没土** As-Cの混土を主とし、ロームブロックが混入する黒褐色土。

**重複** 上位に4号竪穴状遺構が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。4号竪穴状遺構に先行する。

#### (6) 6号溝(第3-23図, PL.11)

**位置** X=48001~48004, Y=-74282~-784287, 調査区中央に位置する。

**形状** 7号溝に囲われた位置から、等高線に斜めに交差する溝が検出された。

**規模** (4.27)×0.44×0.02~0.06m。溝底面の北端標高192.41m、南端標高192.32m、溝両端での標高差0.09mを測る。

**走行方位(度)** N-58-E

**埋没土** As-Cを含む黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

#### (7) 7号溝(第3-25,52図, PL.11,12)

**位置** X=47997~48012, Y=-74281~-74291, 調査区中央に位置する。

**形状** 断面は地点により薬研状から逆台形状を呈し、平面形は柄杓の形に屈曲する。その各部の走向と長さは北から順に、N-6-E 5.12m、N-72-W(6.10)m、N-21-E(9.24)m、N-69-W 9.79mと続く。

**規模** (13.18)×0.80~1.41×0.64~0.73m。溝底面の北端標高191.84m、南端標高191.84m、溝両端での標高差0.00mを測る。

**走行方位(度)** N-5-E

**埋没土** As-Cをほぼ含まない黒褐色土。

**重複** 下位に8号溝、9号溝、28号土坑、上位に195号ピットが位置する。

**遺物** 埋没土から緑釉陶器碗(82)が出土しているほか、図化には至らなかったが、須恵器(6片、162g)、灰釉陶器(3片、36g)、羽釜(1片、12g)、中世国産焼締陶器(1点70g)、在地系土器(3点53g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。195号ピットに先行し、8号溝、9号溝、28号土坑より新しい。

#### (8) 8号溝(第3-25図, PL.12)

**位置** X=47997~48012, Y=-74284~-74288, 調査区中央に位置する。

**形状** 調査区中央部を南北に横切り、南は調査区外に至り、北端は9号溝と交差し判明しない。

**規模** (14.51)×0.54~0.96×0.50~0.52m。溝底面の北端標高192.34m、南端標高192.21m、溝両端での標高差0.13mを測る。

**走行方位(度)** N-9-E

**埋没土** C黒混土と黒色土の混土。

**重複** 上位に7号溝、下位に9号溝が位置する。

**遺物** 図化には至らなかったが、不明鉄製品が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるた

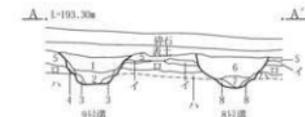
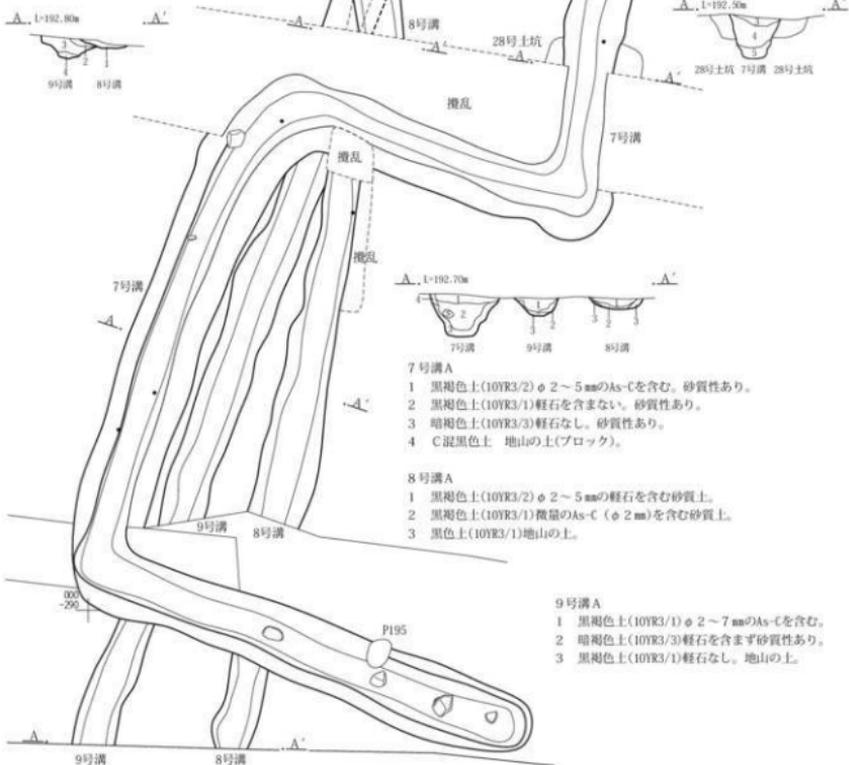
第3章 確認された遺構と遺物

8, 9号溝B

- 1 暗褐色土(10YR3/3)  $\phi$  5mmのAs-Cを含む砂質性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C ( $\phi$  3~5mm)を含み砂質性あり。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)  $\phi$  2~10mmのAs-C、 $\phi$  10mm前後の小礫を含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-Cを含む。

7号溝B

- 1 暗褐色土(10YR3/3)  $\phi$  2~3mmのAs-C、黄褐色土ブロック含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)  $\phi$  2~5mmのAs-Cを含む砂質土。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 2よりAs-Cが少なく、 $\phi$  50mmの円礫を含む。



7号溝A

- 1 黒褐色土(10YR3/2)  $\phi$  2~5mmのAs-Cを含む。砂質性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)軽石を含まない。砂質性あり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)軽石なし。砂質性あり。
- 4 C混黒色土 地山の上(ブロック)。

8号溝A

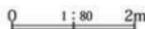
- 1 黒褐色土(10YR3/2)  $\phi$  2~5mmの軽石を含む砂質土。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)微量のAs-C ( $\phi$  2mm)を含む砂質土。
- 3 黒色土(10YR3/1)地山の上。

9号溝A

- 1 黒褐色土(10YR3/1)  $\phi$  2~7mmのAs-Cを含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)軽石を含み砂質性あり。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)軽石なし。地山の上。

8, 9号溝C

- 1 黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C ( $\phi$  3~5mm)を含む。砂質性あり。
  - 2 8・9溝Bの3層と同じ。
  - 3 黒褐色土(10YR3/1)地山の上。
  - 4 3と5の混土層。
  - 5 暗褐色土(10YR3/3)地山。
  - 6 8・9溝Bの1層。
  - 7 黒褐色土(10YR3/1)C黒混土と黒色土(地山)の混土。(地山)
  - 8 黒褐色土(10YR3/3)C黒混土と黒色土の混土。
- イ Hr-FA  
 □ C黒混土  
 △ 黒色土



第3-25図 溝3

め不明である。

(9)9号溝(第3-25図、PL.12)

**位置** X=47997~48014、Y=74284~74291、調査区中央に位置する。

**形状** 調査区を南北に横切る。南北両端とも調査区外に続く。

**規模** (16.22)×0.61~0.82×0.31~0.47m。溝底面の北端標高192.34m、南端標高192.24m、溝両端での標高差0.10mを測る。

**走行方位(度)** N-19-E

**埋没土** 南部はAs-Cを含まず、北部は少量のAs-Cを含む黒褐色土。

**重複** 上位に7号溝、8号溝が位置する。

**遺物** 図化には至らなかったが、土師器(5片、8g)、須恵器(6片、94g)、羽釜(1片、16g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。7号溝、8号溝に先行する。

(10)10号溝(第3-26図、PL.12,13)

**位置** X=47998~48015、Y=74296~74302、調査区中央西寄りに位置する。

**形状** 調査区を南北に横切る。南北両端とも調査区外に続く。

**規模** (16.67)×0.98~1.93×0.13~0.31m。溝底面の北端標高192.82m、南端標高192.63m、溝両端での標高差0.19mを測る。

**走行方位(度)** N-12-E

**埋没土** As-Cを含む黒褐色土。その直上、遺構範囲を超えてAs-Bの純層が堆積する。

**重複** なし。

**遺物** 図化には至らなかったが、須恵器(3片、19g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、埋没土と出土遺物から平安時代に比定される。

(11)11号溝(第3-26図、PL.12,13)

**位置** X=48001~48007、Y=74299~74301、調査区中央西寄りに位置する。

**形状** 底面は平坦で、等高線に沿う走向で検出された。

**規模** 4.92×0.23~0.54×0.01~0.06m。溝底面の北端標高192.93m、南端標高192.87m、溝両端での標高差0.06mを測る。

**走行方位(度)** N-7-W

**埋没土** 少量のAs-Cを含む砂質の黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(12)12号溝(第3-26図、PL.12,13)

**位置** X=48001~48008、Y=74300~74303、調査区中央西寄りに位置する。

**形状** 底面は平坦で、等高線に沿う走向で検出された。

**規模** 6.61×0.89~1.09×0.01~0.05m。溝底面の北端標高192.93m、南端標高192.88m、溝両端での標高差0.05mを測る。

**走行方位(度)** N-8-W

**埋没土** 少量のAs-Cを含む砂質の黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(13)13号溝(第3-26図、PL.12,13)

**位置** X=48001~48010、Y=74302~74305、調査区中央西寄りに位置する。

**形状** 底面は平坦で、等高線に交差するように緩やかな弧状を描く。

**規模** (8.59)×0.45~0.74×0.04~0.07m。溝底面の北端標高193.01m、南端標高192.96m、溝両端での標高差0.05mを測る。

**走行方位(度)** N-18-W

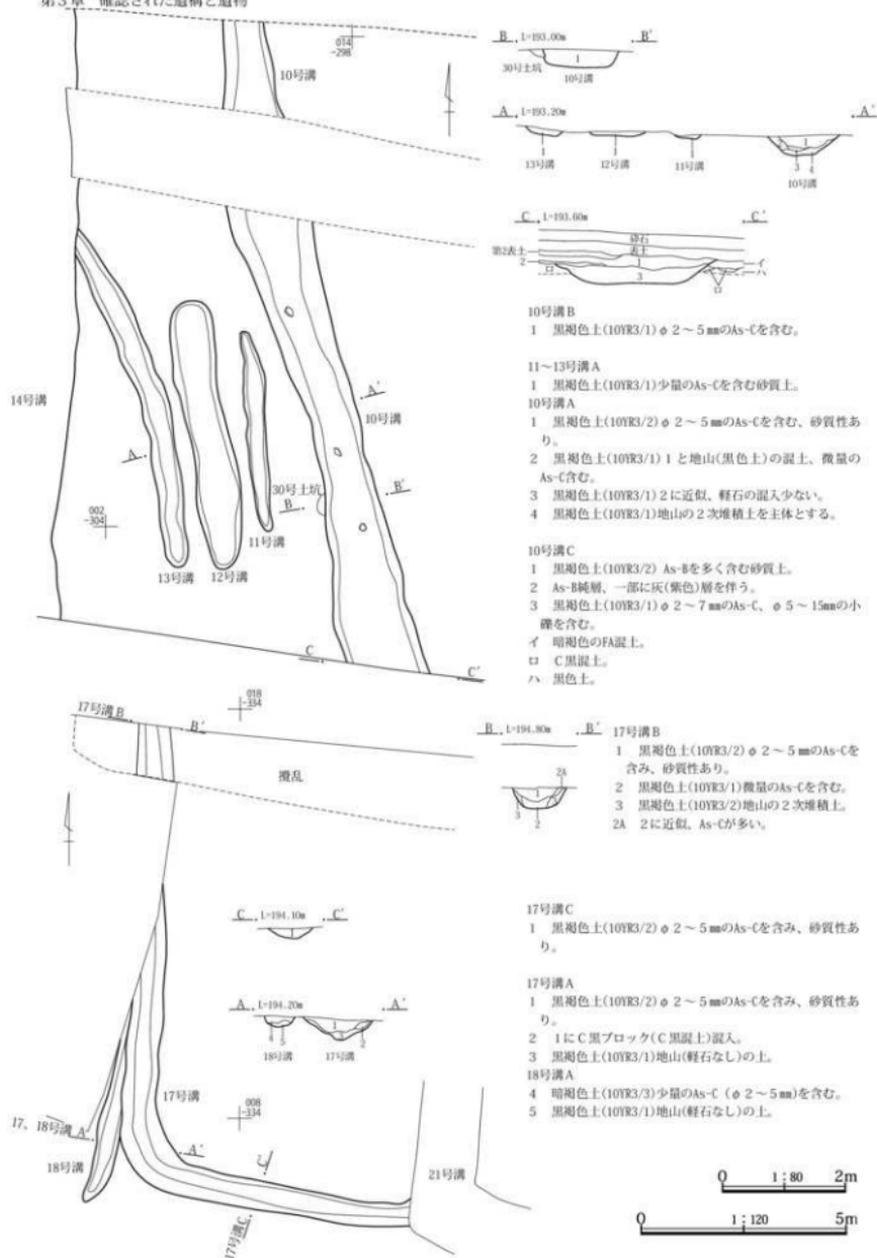
**埋没土** 少量のAs-Cを含む砂質の黒褐色土。

**重複** 14号溝の下位に位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、埋没土の類似する14号溝に先行するため、平安時代以降と推測される。

第3章 確認された遺構と遺物



(14)14号溝(第3-27,28図, PL.13,14)

**位置** X=47999~48015, Y=-74304~-74307, 調査区中央西寄りに位置する。

**形状** 断面は菜研状に近い逆台形状で、南北両端とも調査区外に続く。

**規模** (15.12)×0.79~1.53×0.51~0.75m。溝底面の北端標高192.50m、南端標高192.50m、溝両端での標高差0.00mを測る。

**走行方位(度)** N-1-E

**埋没土** 少量のAs-Cを含む砂質性の黒褐色土。

**重複** 13号溝、21号溝、200号ピットの上位に位置する。

**遺物** 凶化には至らなかったが、土師器(1片、6g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。13号溝、21号溝、200号ピットより新しい。

(15)15号溝(第3-27,28図, PL.13,14)

**位置** X=47999~48010, Y=-74306~-74309, 調査区中央西寄りに位置する。

**形状** 調査区北辺よりやや南に寄った位置から南流し、調査区外に至る。

**規模** (9.99)×0.46~1.37×0.02~0.44m。溝底面の北端標高193.13m、南端標高192.25m、溝両端での標高差0.18mを測る。

**走行方位(度)** N-2-E

**埋没土** 南部の西側はAs-Bと思われる軽石を含む暗褐色土、東側はAs-Cを微量含む砂質の暗褐色土に覆われる。

**重複** 上位に16号溝、21号溝が位置する。

**遺物** 凶化には至らないが、灰軸陶器と思われる破片が確認されている。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、遺構南部の埋没土から平安時代以降に比定される。16号溝、21号溝に先行する。

(16)16号溝(第3-27,28図, PL.13,14)

**位置** X=48000~48012, Y=-74307~-74309, 調査区中央西寄りに位置する。

**形状** 等高線に平行する走向で検出された。

**規模** (11.12)×0.59×0.05~0.26m。溝底面の北端標高193.12m、南端標高193.11m、溝両端での標高差0.01m

を測る。

**走行方位(度)** N-2-W

**埋没土** 灰白色の砂層。

**重複** 下位に15号溝が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、15号溝より新しいため、平安時代以降に比定される。

(17)17号溝(第3-26図, PL.14,15)

**位置** X=48005~48018, Y=-74329~-74337, 調査区西端に位置する。

**形状** 21号溝との交差地点から西進したのち屈曲し北辺の調査区外に至る。21号溝との交差部に残された痕跡から、交差地点で屈曲し北進したと推測される。

**規模** (10.64)×0.53~1.04×0.07~0.47m。溝底面の東端標高193.65m、北端標高193.59m、溝両端での標高差0.06mを測る。

**走行方位(度)** N-44-W

**埋没土** As-Cを含み、砂質の黒褐色土。

**重複** 下位に18号溝、21号溝が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、21号溝より新しいため、平安時代以降に比定される。18号溝より新しい。

(18)18号溝(第3-26図, PL.14,15)

**位置** X=48005~48011, Y=-74336~-74338, 調査区西端に位置する。

**形状** 17号溝の屈曲部に沿う形で検出された。

**規模** (4.94)×0.52×0.08~0.18m。溝底面の南端標高193.97m、北端標高193.94m、溝両端での標高差0.04mを測る。

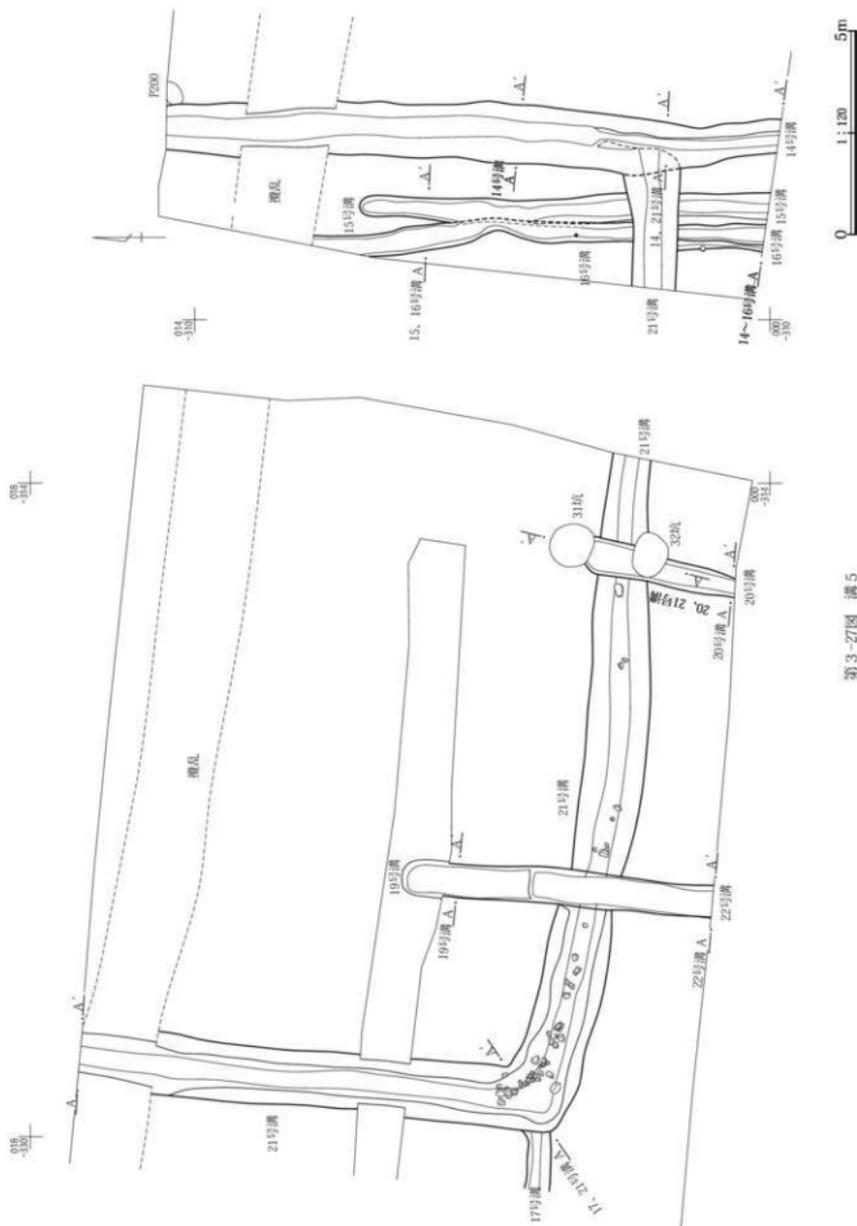
**走行方位(度)** N-15-E

**埋没土** 軽石を含まない黒褐色の地山の土。

**重複** 上位に17号溝が位置する。

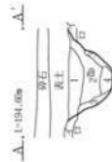
**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。17号溝に先行する。



第3-27図 溝5

21号溝



19号溝



20、21号溝



15、16号溝



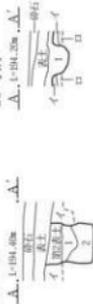
14号溝



17、21号溝



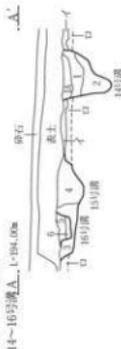
22号溝



14、21号溝



14～16号溝



17号溝, 21号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2)φ2～5mmのAs-Cを含む, 砂質性あり。
- 2 1にC黒アロック(C黒灰土)混入。

21号溝

- 3 黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C(φ2～7mm)を含む, 砂質性あり。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)軽石なし, 砂質土。
- 5 暗褐色土(10YR3/3)3に褐色土アロックが混入。

19号溝

- 1 暗褐色土(10YR3/3)φ5mm前後のAs-Cを含む, 砂質性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-Cを含む, 砂質性あり。

21号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C(φ2～7mm)を含む, 砂質性あり。
  - 2 黒褐色土(10YR3/2)軽石なし, 砂質土。
  - 3 黒褐色土(10YR3/1)堆山の土, 崩落土。
  - 4 2に灰褐色土アロック(φ10mm), 小礫(φ10mm)が混入する。
- イ C黒灰土。  
ロ 黒色土堆山。

14号溝A

- 1 黒褐色土(10YR3/2)φ2～3mmのAs-Cを含む砂質土。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-C(φ2～3mm)を含む, 砂質性あり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)微量のAs-C(φ2～3mm)を含む, 砂質性あり。

22号溝

- 1 暗褐色土(10YR3/3)φ5～10mmの細-F.A.アロック混入。
  - 2 黒褐色土(10YR3/1)小礫(φ10mm), As-C(微細)混入。
- イ C黒灰土。

14～16号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2)φ2～3mmのAs-Cを含む砂質土。
  - 2 黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-C(φ2～3mm)を含む, 砂質性あり。
- IA 1層に小礫(φ10mm)が混入, 砂質性よい。  
3 暗褐色土(10YR3/3)砂質土(φ10～15mm)を含む, As-C(φ2～5mm)が確認される。
  - 4 暗褐色土(10YR3/3)As-Bを多く含む。(φ50mm)の小礫混入。
  - 5 暗褐色土(10YR3/3)As-B?を含む砂質土。
  - 6 灰白色の砂層。

イ 灰-F.A。  
ロ C黒灰土。

20号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-Cを含む, As-A, As-Bと思われる粒子を多く含む, 新しい?
- イ 灰-F.A

14号溝, 21号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2)φ2～3mmのAs-Cを含む砂質土。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-C(φ2～3mm)を含む, 砂質性あり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)微量のAs-C(φ2～3mm)を含む, 砂質性あり。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)2に混砂。
- 5 暗褐色土(10YR3/3)3に褐色土アロックが混入。

20号溝, 21号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C(φ2～7mm)を含む, 砂質性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)軽石なし, 砂質土。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)軽石なし, 砂質土。



第3-28図 溝6

### 第3章 確認された遺構と遺物

(19) 19・22号溝(第3-27,28図、PL.15)

**位置** X=48001~48009、Y=-74323~-74325、調査区西部に位置する。

**形状** 断面箱状の溝が21号溝の東西部に交差する位置から検出された。埋没土の状況から個別の溝と判断されるが、両者の境界は確認されていない。

**規模** 19号溝(3.09)×0.81~0.92×0.51~0.54m、22号溝(4.50)×0.63~0.85×0.50~0.58m。19号溝底面の南端標高193.19m、北端標高193.17m、溝両端での標高差0.02m、22号溝底面の南端標高193.16m、北端標高193.12m、溝両端での標高差0.04mを測る。

**走行方位(度)** 19号溝N-6-E、22号溝N-7-E。

**埋没土** 微量のAs-Cが混入する黒褐色土。なお19号溝の土は砂質である。

**重複** 下に21号溝が位置する。

**遺物** 図化には至らないが、19号溝から須恵器(2片、12g)が出土している。

**所見** 本遺構のうち19号溝の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。21号溝より新しい。なお22号溝からは表土の落ち込みが確認されており、調査時の所見によれば近現代の農耕に伴う遺構と推測されている。

(20) 20・21号溝

a 20号溝(第3-27,28図、PL.15)

**位置** X=48000~48005、Y=-74315~-74317、に位置する。

**形状** 調査区南辺近くから、南辺の調査区外に続く溝が検出された。

**規模** (3.76)×0.65×0.11~0.18m。溝底面の南端標高193.34m、北端標高193.32m、溝両端での標高差0.02mを測る。

**走行方位(度)** N-14-E

**埋没土** 微量のAs-Cを含む黒褐色土に覆われる。

**重複** 上に21号溝、31号土坑、32号土坑が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。31号土坑、32号土坑に先行する。21号溝との新旧は判然としませんが、21号溝より新しい可能性がある。

b 21号溝(第3-27,28,52図、PL.15)

**位置** X=48002~48017、Y=-74306~-74330、調査区西部に位置する。

**形状** 平面形は鉤の手状を呈する。走向と長さは、N-4-E(11.99)m、N-82-W24.19mと続き北辺調査区外に至る。

**規模** (25.61)×0.91~1.53×0.44~0.69m。溝底面の北端標高193.15m、東端標高192.53m、溝両端での標高差0.62mを測る。

**走行方位(度)** N-60-W

**埋没土** 軽石を含まない砂質の黒褐色土に覆われる。

**重複** 上に14号溝、17号溝、19号溝、20号溝、22号溝、32号土坑が位置する。

**遺物** 羽釜(83)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(17片、32g)、須恵器(3片、14g)、灰釉陶器(2片、8g)、羽釜(3片、43g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀)以降に比定される。14号溝、17号溝、19号溝、22号溝、32号土坑に先行する。14号溝との交差部からは、21号溝が屈曲し北上する痕跡が確認されており、北に開いたコの字状を呈すると推察される。20号溝との新旧は判然としませんが、20号溝に先行する可能性がある。

## 6 井戸

本調査区からは4基の井戸が検出されている。いずれの井戸も、竪穴建物や掘立柱建物が集中する調査区東側の南北3m東西30m程度の帯状の範囲から検出されている。3基は中世の遺構であるが、1基は帰属する時期を特定しえなかった。

(1) 1号井戸(第3-29,52図、PL.16,27)

**位置** X=48002~48005、Y=-74251~-74254、調査区東端寄りに位置する。

**形状** 平面形は四隅突出した隅丸方形を呈し、側面形はいびつな筒状を呈する。

**規模** 1.88×1.72×2.91m

**主軸方位(度)** N-89-W

**埋没土** 砂質性のある褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 埋没土下層の7層付近から常滑陶器甕(84)、軋

元重寶(85)、不明鉄製品(86,87)、埋没土中から龍泉窯系青磁碗(88)、羽口(89)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(5片、7g)、須恵器(2片、16g)、中世中国磁器(2点、10g)、在地系土器(3点、15g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世に比定される。

(2) 2号井戸(第3-30, 52図, PL.16, 28)

**位置** X=48002~48006, Y=74248~74252, 調査区東

端寄りに位置する。

**形状** 平面形は偏円形を呈し、断面は逆台形状を呈する。

**規模** 3.24×3.24×3.78m

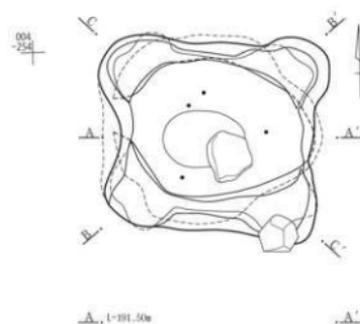
**主軸方位(度)** N-16-W

**埋没土** φ2mmの褐色粒子を含む黒褐色土と、黄褐色土ブロックと黒褐色土の混土の混土。

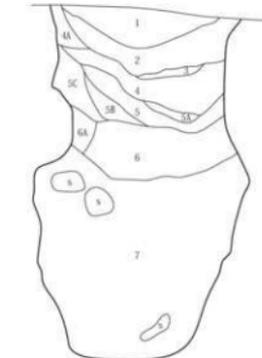
**重複** 9号竪穴状遺構の上位に位置する。

**遺物** 埋没土から常滑陶器広口壺(90)、常滑陶器甕(91)、在地系土器内耳鍋(92)が出土しているほか、鉄滓や土

1号井戸

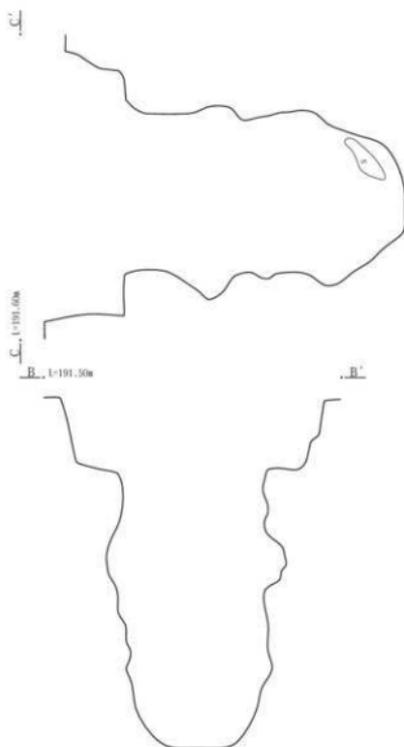


A, 1-191.50m A', 1-191.50m



1号井戸

- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ 2~5mmのAs-Cを含む、砂質性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 1より軽石少なく、砂質性あり。
- 3 褐色土(10YR5/1) 2に灰褐色土がブロック状に混入。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) φ 5mm程度の小礫を含む、砂質性あり。
- 4A 4より黄褐色粒子が多いため、4より黄味あり。
- 5 濃い黄褐色土(10YR4/3) φ 5~10mm程度の小礫を少量含む。
- 5A 濃い黄褐色土(10YR4/3) 4と5の中間的色調。



C, 1-191.60m B, 1-191.50m

- 5B 5と近似、やや小礫多い。
- 5C 5Bに黄褐色粒子が多く混入し、5Bより黄味つよい。
- 6 褐色土(10YR4/4) φ 5~10mmの小礫を含む、砂質性あり。
- 6A 6に黄褐色土ブロックが混入。
- 7 褐色土(10YR4/4) 6に近似するが黒味がやや強い。

0 1:40 1m

第3-29図 井戸1

師器(7片、14g)、須恵器(5片、394g)、灰陶器(3片、13g)、羽釜(2片、26g)、中世国産焼締陶器(8点、965g)、在地系土器(11点、320g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世に比定される。9号竪穴状遺構より新しい。

(3) 3号井戸(第3-31図、PL.17)

**位置** X=48003~48005、Y=-74265~-74268、調査区中央東寄りに位置する。

**形状** 平面形は略円形をなし、側面形は上部のやや広い筒状を呈する。

**規模** 1.50×1.34×2.49m

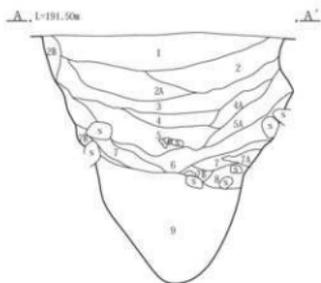
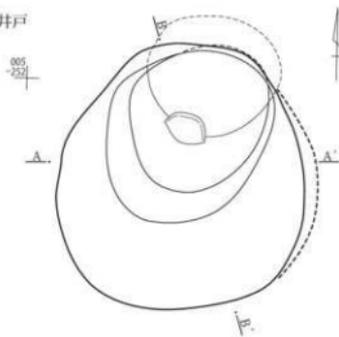
**主軸方位(度)** N-69-W

**埋没土** 砂質性のある黒褐色土、下層に円礫混入。

**重複** 4号溝の下位に位置する。

**遺物** なし。

2号井戸



**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠け不明である。4号溝に先行する。

(4) 4号井戸(第3-31,52図、PL.17,28)

**位置** X=48005~48007、Y=-74275~-74277、調査区中央東寄りに位置する。

**形状** 平面形は長円形を呈し、側面形は中間に膨らみを持つ筒状を呈する。

**規模** 1.36×1.08×2.73m

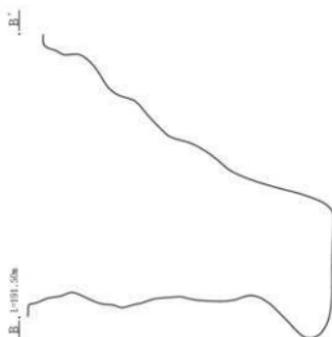
**主軸方位(度)** N-20-E

**埋没土** 微量のAs-C、小礫を含み砂質性のある黒褐色土。

**重複** 下位に4号溝が位置する。

**遺物** 埋没土下層の6層から鉄釘(93)が出土しているほか、園化には至らなかったが、土師器(2片、8g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比



2号井戸

- 1 黒褐色土(10YR3/1)φ2~7mmのAs-Cを含む、砂質性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-Cを含む、砂質性あり。
- 2A 2に近似。2より軽石の混入少ない。
- 2B 1と2Aの混入層。
- 3 ぶい黄褐色土(10YR5/3)φ4mmのAs-Cを微量、φ3~4mmの小礫を含む、砂質性あり。
- 4 ぶい黄褐色土(10YR4/3)少量の褐色土粒子(地山の細粒)を含む、砂質性あり。
- 4A 4に黄褐色土ブロック(φ5~10mm)を含む。
- 5 ぶい黄褐色土(10YR4/3)φ50~200mmの円礫を含む。
- 5A 5に近似するが円礫の混入ない。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-C、φ5~10mmの小礫を含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/1)φ2mmの褐色土粒子を含む。
- 7A 地山の黄褐色土ブロック。
- 7B 7Aに近似。ブロックの混入少ない。
- 8 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土ブロックと黒褐色土の混入、円礫混入。
- 9 7と8の混入層。

0 1:40 1m

第3-30図 井戸2

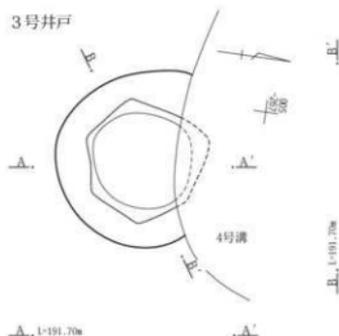
定されるが、4号溝より新しいため、中世以降に帰属する。

## 7 土坑

1面からは38基の土坑が検出されているが、調査区の東半に偏って分布し、調査区西半から検出された土坑は

4基にとどまる。この4基の土坑も調査区中央寄りからの出土であり、山側である調査区西端からはまったく検出されていない。平安時代の土坑1基、近世の土坑1基が確認されているほか、5基が中世の土坑と推察されるが、残りの遺構については時期を特定するに至らなかった。

3号井戸

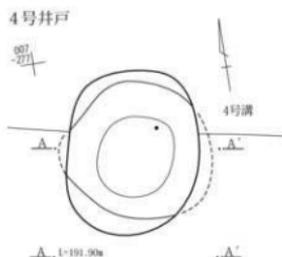


A, L=191.70m

B, L=191.70m

3号井戸

- 1 暗褐色土(10YR3/4)  $\phi$ 10~40mmの小礫混入、砂質性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 1に近似。小礫の混入少ない。
- 3 2に小礫( $\phi$ 10mm)を多く混入した層。
- 3A 3より礫の混入少ない。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)少量の小礫( $\phi$ 30mm)が含まれ、砂質性あり。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)砂質性あるが、礫の混入なし。
- 5A 5に近似。下層で円礫( $\phi$ 30~80mm)が少量混入。



A, L=191.90m



4号井戸

- 1 暗褐色土(10YR3/3)少量のAs-C軽石( $\phi$ 2mm)、小礫( $\phi$ 5mm)を含み、砂質性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C軽石( $\phi$ 2mm)、小礫( $\phi$ 5~10mm)を含み、砂質性あり。
- 3 灰褐色土(10YR3/3)砂層。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)微量のAs-C軽石( $\phi$ 5mm)、小礫( $\phi$ 5~10mm)を含み、砂質性あり。
- 5 4に近似。小礫の混入多い。
- 5A 5に灰黄褐色土が混入。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)4・5よりも小礫( $\phi$ 20mm)の混入多い。

0 1:40 1m

第3-31図 井戸3

### 第3章 確認された遺構と遺物

#### (1) 1号土坑(第3-32図、PL.17)

**位置** X=48005~48006、Y=-74238~-74239、調査区東半北辺寄りに位置する。

**形状等** 南半のみの検出であるが、平面形は隅丸方形を呈すると推察される。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.64×(0.98)×0.19m

**主軸方位(度)** N-10-W

**埋没土** As-C、褐色軽石を含む暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 図化には至らなかったが、土師器(1点、6g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。

#### (2) 2号土坑(第3-32図、PL.17)

**位置** X=48003~48005、Y=-74234~-74236、調査区東端近くに位置する。

**形状等** 平面形は長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.69×1.05×0.32m

**主軸方位(度)** N-60-W

**埋没土** 褐色土ブロックが混入し、小礫(φ10mm)を少量含む暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 図化には至らなかったが、土師器(5点、11g)、羽釜(5点、49g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。

#### (3) 3号土坑(第3-32図、PL.17,18)

**位置** X=48007~48008、Y=-74234~-74235、調査区東端近くの北辺寄りに位置する。

**形状等** 平面形は細長い台形状を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.33×0.80×0.19m

**主軸方位(度)** N-72-W

**埋没土** 少量のAs-Cを含む黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 図化には至らなかったが、土師器(2点、8g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。

#### (4) 4号土坑(第3-32図、PL.18)

**位置** X=48008~48009、Y=-74240~-74241、調査区東端近くの北辺に位置する。

**形状等** 北辺が調査区外に位置するが、平面形は隅丸長方形を呈すると推察される。平坦な底部が検出された。

**規模** (1.04)×0.98×0.19m

**主軸方位(度)** N-8-E

**埋没土** 微量のAs-Cを含む砂質の暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 図化には至らなかったが、土師器(1点、4g)、近世国産磁器(1点、10g)、施釉陶器(1点、1g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から近世以降に比定される。

#### (5) 5号土坑(第3-32図、PL.18)

**位置** X=48004~48005、Y=-74240~-74241、調査区東端近くの北辺寄りに位置する。

**形状等** 平面形は方形を呈する。平坦な底部が検出された。

**規模** 1.05×1.02×0.15m

**主軸方位(度)** N-80-W

**埋没土** 小礫を含むふい黄褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 図化には至らなかったが、土師器(1点、1g)、須恵器(2点、17g)が出土しているほか、調査時点において獣骨も確認されている。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。

#### (6) 6号土坑(第3-32,52図、PL.18)

**位置** X=47999~48001、Y=-74247~-74248、調査区東半に位置する。

**形状等** 平面形は長方形を呈する。平坦な底部が検出された。

**規模** 1.45×0.80×0.12m

**主軸方位(度)** N-0

**埋没土** 少量のAs-Cを含む砂質の黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 埋没土から陶器(94)が出土しているほか、図化には至らなかったが、土師器(1点、1g)、中世在地系土器(1点、20g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。なお、調査所見によれば近世以降の可能性も指摘されている。

(7) 7号土坑(第3-32図、PL.18)

**位置** X=4800、Y=-74235～-74236、調査区東端近くの北辺寄りに位置する。

**形状等** 攪乱により遺構南半が確認されず、平面形は不明である。湾曲した底部が検出された。

**規模** (1.28)×(0.66)×0.35m

**主軸方位(度)** N-70-W

**埋没土** As-Cを含む黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(8) 8号土坑(第3-32図、PL.19)

**位置** X=48006～48007、Y=-74239～-74240、調査区東端近くの北辺寄りに位置する。

**形状等** 平面形は方形を呈する。平坦な底部が検出された。

**規模** 1.25×1.17×0.25m

**主軸方位(度)** N-8-E

**埋没土** As-Cを含む砂質の暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 図化には至らなかったが、土師器(2点、4g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。

(9) 9号土坑(第3-33図、PL.19)

**位置** X=47994～47997、Y=-74236～-74239、調査区東端近くの南辺寄りに位置する。

**形状等** 平面形は隅丸長方形を呈する。平坦な底部が検

出された。

**規模** 3.25×2.00×0.09m

**主軸方位(度)** N-74-W

**埋没土** 少量のAs-Cを含む砂質の黒褐色土。

**重複** 上位に2号溝、2号ピット、3号ピットが位置する。

**遺物** 図化には至らなかったが、土師器(2点、4g)、灰釉陶器(1点、3g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。2号溝、2号ピット、3号ピットのいずれにも先行する。

(10) 10号土坑(第3-33.52図、PL.19)

**位置** X=48007～48009、Y=-74245～-74247、調査区東半の北辺寄りに位置する。

**形状等** 平面形は偏円形を呈する。平坦な底部が検出された。

**規模** 1.96×1.58×0.13m

**主軸方位(度)** N-14-E

**埋没土** 微量のAs-Cを含む砂質の黒褐色土。

**重複** 下位に3号溝が位置する。

**遺物** 埋没土から灰釉陶器(95)が出土したほか、灰釉陶器(1点、11g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀後半)以降に比定されるが、3号溝より新しいため、中世以降に帰属する。

(11) 11号土坑(第3-33図、PL.19)

**位置** X=48005～48006、Y=-74259～-74260、調査区東半の北辺寄りに位置する。

**形状等** 平面形は偏円形を呈する。平坦な底部が検出された。

**規模** 1.00×0.89×0.16m

**主軸方位(度)** N-52-W

**埋没土** 白色軽石を含む砂質の黒褐色土。

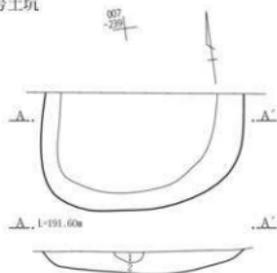
**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

第3章 確認された遺構と遺物

1号土坑



1号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)  $\phi$  2mmのAs-Cを少量含む。砂質性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)  $\phi$  2~5mmのAs-C、褐色軽石を含む。

2号土坑



2号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)  $\phi$  2~5mmの軽石、 $\phi$  10mmの小礫含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)小礫( $\phi$  10mm)を少量含む。褐色土ブロックの混入あり。

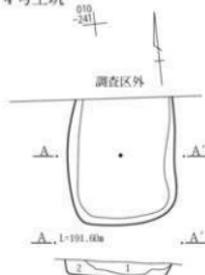
3号土坑



3号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)  $\phi$  2~5mmのAs-C、 $\phi$  10mmの褐色土ブロック含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)地山(黒色土)の上。

4号土坑



4号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)少量のAs-Cを含む砂質土。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)微量のAs-Cを含む砂質土。

5号土坑



5号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)小礫 $\phi$  7mmを含む。獣骨混入。

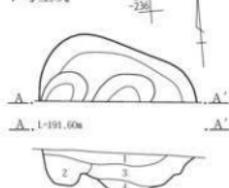
6号土坑



6号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-C( $\phi$  2~5mm)を含む砂質土。

7号土坑



7号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)少量のAs-C( $\phi$  2~5mm)を含む。砂質性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)少量のAs-C( $\phi$  3~5mm)を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)As-C( $\phi$  3~5mm)、炭化物を含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)  $\phi$  2~7mmのAs-Cを含む。

8号土坑



8号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)少量のAs-Cを含む砂質土。



第3-32図 土坑1

(12) 12・13・15～18号土坑

a 12号土坑(第3-33図、PL.20)

**位置** X=48008～48009、Y=74256～74258、調査区東半の北辺寄りに位置する。

**形状等** 平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.20×1.12×0.30m

**主軸方位(度)** N-3-W

**埋没土** 上層はAs-Cを少量含み、下層は砂質の灰黄褐色土。

**重複** 上位に1号ピット、下位に13号土坑、18号土坑が位置する。

**遺物** 図化には至らなかったが、中世在地系土器(7点、12g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。13号土坑、18号土坑より新しく、1号ピットに先行する。

b 13号土坑(第3-33図、PL.20)

**位置** X=48007～48008、Y=74257～74258、調査区東半の北辺寄りに位置する。

**形状等** 平面形は円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.04×0.90×0.30m

**主軸方位(度)** N-14-E

**埋没土** 砂質のにぶい黄褐色土。

**重複** 上位に12号土坑、18号土坑、下位に17号土坑が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、17号土坑より新しいため、平安時代以降の遺構と推測される。12号土坑、18号土坑に先行する。

c 15号土坑(第3-33図、PL.20)

**位置** X=48007～48008、Y=74259～74260、調査区東半の北辺寄りに位置する。

**形状等** 平面形は円形を呈する。筒状に掘り込まれている。

**規模** 0.92×0.87×1.02m

**主軸方位(度)** N-36-W

**埋没土** 少量のAs-Cとφ5mmの礫を多く含む砂質の暗褐色土。

**重複** 下位に17号土坑が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、17号土坑より新しいため、平安時代以降の遺構と推測される。

d 16号土坑(第3-33図、PL.20)

**位置** X=48009、Y=74258～74259、調査区東半の北辺寄りに位置する。

**形状等** 平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 0.91×0.78×0.34m

**主軸方位(度)** N-12-W

**埋没土** 少量のAs-C、炭化物、褐灰色の灰が斑点状に混入する黒褐色土。

**重複** 下位に17号土坑が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、17号土坑より新しいため、平安時代以降の遺構と推測される。

e 17号土坑(第3-33図、PL.20)

**位置** X=48008、Y=74258～74259、調査区東半の北辺寄りに位置する。

**形状等** 平面形は不整形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.10×0.73×0.26m

**主軸方位(度)** N-3-W

**埋没土** 少量のAs-C、焼土粒、灰黄褐色土ブロックが混入する鈍い黄褐色土。

**重複** 上位に15号土坑、16号土坑、18号土坑が位置する。

**遺物** 図化には至らなかったが、須恵器(2点、35g)、羽釜(1点、11g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。15号土坑、16号土坑、18号土坑のいずれにも先行する。

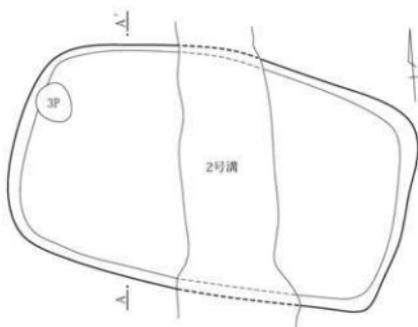
f 18号土坑(第3-33図、PL.20)

**位置** X=4800～、Y=74257～74258、調査区東半の北辺寄りに位置する。

**形状等** 南半が確認されず平面形は不明。湾曲した底部が検出された。

**規模** (0.72)×(0.61)×(0.14)m

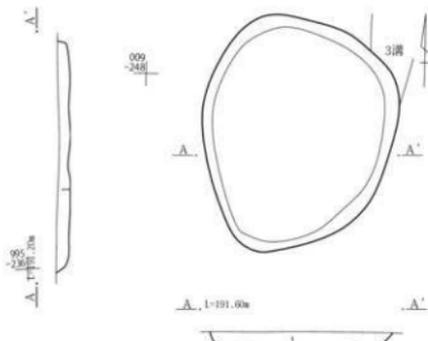
9号土坑



9号土坑

1 黒褐色土(10YR3/2)φ 2mmの少量のAs-Cを含む。砂質性あり。

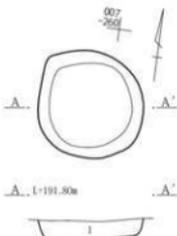
10号土坑



10号土坑

1 黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-Cを含む。砂質性あり。

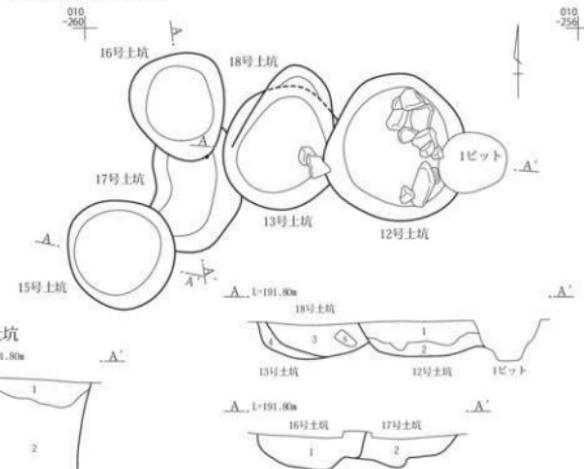
11号土坑



11号土坑

1 黒褐色土(10YR3/1)φ 1mmの白色軽石を含む。砂質性あり。

12, 13, 15 ~ 18号土坑



12号土坑

1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Cを少量含む。  
2 灰黄褐色土(10YR5/2)As-Cを少量含むにぶい黄褐色土から砂質の純い黄褐色土への漸移帯。

13号土坑

4 純い黄褐色土(10YR7/2)かたくしまる砂質土。

15号土坑



15号土坑

1 褐色土(10YR4/4)少量のAs-C、φ 5mmの礫含む。  
2 暗褐色土(10YR3/4)少量のAs-C、φ 5mmの礫を多く含む。砂質性あり。

16号土坑

1 黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C、炭化物、褐色の灰がブロック状(斑点状)に混入。

17号土坑

2 純い黄褐色土(10YR4/3)少量のAs-C、焼土粒子、灰黄褐色土ブロックが混入。

18号土坑

3 暗褐色土(10YR3/3)灰黄褐色土が斑点状に混入、一括捨てん土か？



**主軸方位(度)** N-12-E

**埋没土** 灰黄褐色土が斑点状に混入する暗褐色土。

**重複** 下位に13号土坑が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、13号土坑より新しいため、平安時代以降の遺構と推測される。

(13)14号土坑(第3-34図、PL.20)

**位置** X=48010~48011、Y=-74259~-74260、調査区東半の北辺に位置する。

**形状等** 平面形は長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.06×0.94×0.30m

**主軸方位(度)** N-6-E

**埋没土** As-C、炭化物を含む暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 陶化には至らなかったが、中世在地系土器(2点、6g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

(14)19号土坑(第3-34図、PL.20)

**位置** X=48006~48007、Y=-74269~-74270、調査区中央辺に位置する。

**形状等** 平面形は円形を呈する。平坦な底部が検出された。

**規模** 0.90×0.88×0.30m

**主軸方位(度)** N-9-E

**埋没土** As-C、φ10mmの小礫の混入した砂質の黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(15)21号土坑(第3-34図、PL.21)

**位置** X=48002~48003、Y=-74276~-74277、調査区中央辺に位置する。

**形状等** 平面形は隅丸方形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.04×1.03×0.40m

**主軸方位(度)** N-12-E

**埋没土** C黒の混入するオリブ褐色土。

**重複** 下位に10号竪穴状遺構が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、10号竪穴状遺構より新しいため、平安時代以降に帰属すると推測される。

(16)22号土坑(第3-34図、PL.21)

**位置** X=48001~48002、Y=-74251~-74252、調査区東半に位置する。

**形状等** 平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.13×1.01×1.06m

**主軸方位(度)** N-41-E

**埋没土** 褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(17)24号土坑(第3-34図)

**位置** X=47994~47995、Y=-74253、調査区東半の南辺に位置する。

**形状等** 南半が調査区外に及び平面形は不明ではあるが、隅丸長方形を呈すると推察される。底部は平坦で、側壁は外に開く。

**規模** 1.00×0.48×0.35m

**主軸方位(度)** N-14-E

**埋没土** 褐色土が筋状に混入し、As-DとAs-Cを少量含む黒褐色土。

**重複** 上位に7号ピット列P1が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。7号ピット列P1に先行する。

(18)25号土坑(第3-34、52図、PL.21.28)

**位置** X=48005、Y=-74256~-74257、調査区東半に位置する。

第3章 確認された遺構と遺物

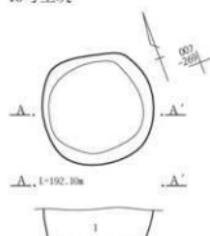
14号土坑



14号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) As-C、少量の炭化物を含む。
- 2 1に近似、やや黒味強い。

19号土坑



19号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3)少量のAs-C、 $\phi$ 10mmの小礫混入。砂質性あり。

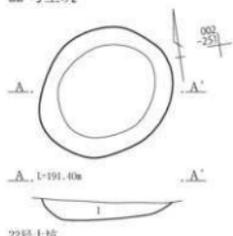
21号土坑



21号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)As-Cを含む、明黄褐色土のブロックが混入。
- 2 明黄褐色土(2.5Y6/6)C黒を少量含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)1と2の上が平々。
- 4 オリーブ褐色土(2.5Y4/4)C黒混入。

22号土坑



22号土坑

- 1 褐色土(10YR4/4)底部に10cm程の礫が3個混入。

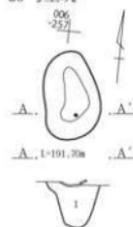
24号土坑



24号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3) As-DとAs-Cを少量含む。褐色土が筋状に混入。

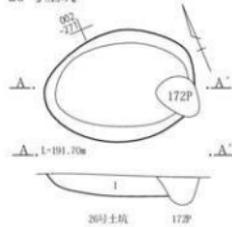
25号土坑



25号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)褐色土のブロックとAs-Cが少量混入。

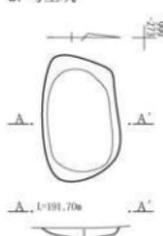
26号土坑



26号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む、底部で礫が混入。

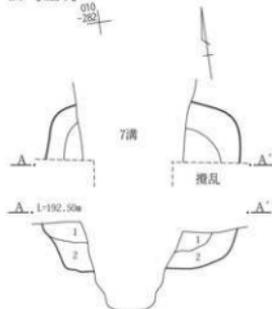
27号土坑



27号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)中央部の底部に礫がある、褐色土との混合上。

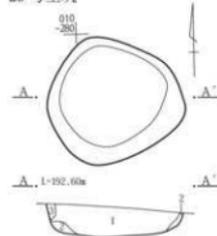
28号土坑



28号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) As-C( $\phi$ 2~5mm)を含む。砂質性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C( $\phi$ 2~5mm)を含む。

29号土坑



29号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) $\phi$ 2~10mmのAs-Cを多く含む砂質性あり。
- 2 暗褐色土 地山の土。
- 3 C黒混土 地山の土。



第3-34図 土坑3

**形状等** 平面形は長円形を呈する。底部は湾曲し、側壁は外に開く。

**規模** 0.72×0.45×0.39m

**主軸方位(度)** N-15-W

**埋没土** 褐色土ブロックとAs-Cが少量混入する暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 埋没土から在地系土器内耳鍋(96)が出土しているほか、図化にはいならなかったが、時期不詳土器(1点、15g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

(19)26号土坑(第3-34図)

**位置** X=48000~48001、Y=-74270~-74271、調査区中央東寄りに位置する。

**形状等** 平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.23×0.93×1.75m

**主軸方位(度)** N-65-W

**埋没土** As-Cを含む暗褐色土。

**重複** 上位に172号ピットが位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。172号ピットに先行する。

(20)27号土坑(第3-34図)

**位置** X=47998、Y=-74271~-74272、調査区中央東寄りに位置する。

**形状等** 平面形は長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.04×0.63×0.95m

**主軸方位(度)** N-85-E

**埋没土** 褐色土の混ざった暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(21)28号土坑(第3-34図、PL.21)

**位置** X=48008~48009、Y=-74281~-74282、調査区中央北寄りに位置する。

**形状等** 南半は攪乱され平面形は不明であるが、方形を呈すると推測される。底部は平坦で、側壁は外に開く。

**規模** 1.60×1.24×(0.30)m

**主軸方位(度)** N-79-E

**埋没土** 少量のAs-Cを含む黒褐色土。

**重複** 上位に7号溝が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(22)29号土坑(第3-34図、PL.22)

**位置** X=48008~48009、Y=-74279~-74280、調査区中央北寄りに位置する。

**形状等** 平面形は偏円形を呈する。平坦な底部が検出された。

**規模** 1.14×1.06×0.27m

**主軸方位(度)** N-88-W

**埋没土** As-Cを多く含む砂質の黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(23)30号土坑(第3-35図、PL.22)

**位置** X=48002、Y=-74298、調査区中央西寄りに位置する。

**形状等** 東半を10号溝に崩され平面形は不明。湾曲した底部が検出された。

**規模** (0.86)×(0.43)×(0.28)m

**主軸方位(度)** N-17-E

**埋没土** 少量のAs-Cを含む黒褐色土。

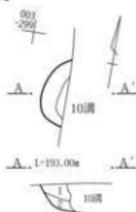
**重複** 上位に10号溝が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。10号溝に先行する。

第3章 確認された遺構と遺物

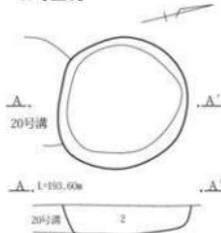
30号土坑



30号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)  $\phi$  2 ~ 5mmのAs-Cを含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)少量のAs-C ( $\phi$  2 ~ 3mm)を含む。

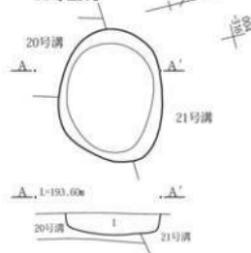
31号土坑



31号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-Cを含み、砂質性あり。

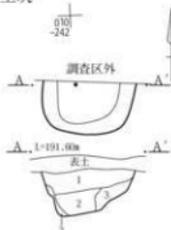
32号土坑



32号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)微量のAs-Cを含む。砂質性あり。

33号土坑



33号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む。1よりも粘性あり。
- 3 褐色土(10YR4/6)砂質土。

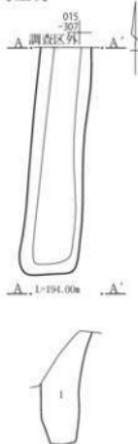
34号土坑



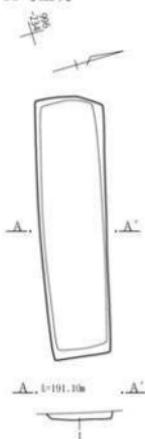
34号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) As-C( $\phi$  2 ~ 5mm)を含む。
  - 2 黒褐色土(10YR3/1) As-C( $\phi$  2 ~ 5mm)を含む。
  - 3 黒褐色土(10YR3/1)微量のAs-Cを含む。(ハの上)
- イ 暗褐色土の地山。  
ロ Br-FA  
ハ C混泥土。

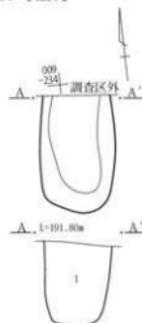
35号土坑



36号土坑



37号土坑



35号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-B(?)を含む。砂質性あり。

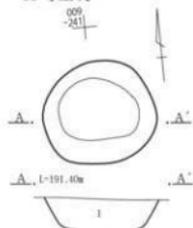
37号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む。

36, 38号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)赤褐色の軽石を含む。

38号土坑



第3-35図 土坑4

(24)31号土坑(第3-35図、PL.22)

**位置** X=48004~48005、Y=-74315~-74316、調査区西半に位置する。

**形状等** 平面形は円形を呈する。平坦な底部が検出された。

**規模** 1.06×1.04×0.23m

**主軸方位(度)** N-50-E

**埋没土** 微量のAs-Cを含み、砂質の黒褐色土。

**重複** 下位に20号溝が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、20号溝より新しいため、平安時代以降に帰属すると推測される。

(25)32号土坑(第3-35図、PL.22)

**位置** X=48002~48003、Y=-74315~-74316、調査区西半に位置する。

**形状等** 平面形は偏円形を呈する。平坦な底部が検出された。

**規模** 1.06×0.84×0.18m

**主軸方位(度)** N-74-W

**埋没土** 微量のAs-Cを含み、砂質の黒褐色土。

**重複** 下位に20号溝と21号溝が位置する。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、21号溝より新しいため、平安時代以降に帰属すると推測される。

(26)33号土坑(第3-35、52図、PL.28)

**位置** X=48009、Y=-74241~-74242、調査区東半の北辺に位置する。

**形状等** 北半が調査区外に及び平面形は不明であるが、方形を呈すると推察される。底部はやや傾くが平坦で、側壁は外に開く。

**規模** (0.45)×0.75×0.36m

**主軸方位(度)** N-6-E

**埋没土** As-Cを含む暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 埋没土より黒書された須恵器杯(97)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)以降に比定される。

(27)34号土坑(第3-35図、PL.22)

**位置** X=48012~48013、Y=-74287~-74289、調査区中央の北辺に位置する。

**形状等** 北半が調査区外に及び不明であるが、平面形は隅丸方形を呈すると推察される。平坦な底部が検出された。

**規模** 2.20×(1.00)×0.46m

**主軸方位(度)** N-80-W

**埋没土** 微量のAs-Cを含む黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(28)35号土坑(第3-35図)

**位置** X=48013~48014、Y=-74307、調査区中央の北辺に位置する。

**形状等** 北半が調査区外に及び平面形は不明であるが、長方形を呈すると推察される。底部平坦で深く掘り込まれている。

**規模** (1.85)×0.45×0.92m

**主軸方位(度)** N-4-E

**埋没土** 軽石を含む、砂質の黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土に混入する軽石はAs-Bの可能性があるとのものであり、平安時代(12世紀)以降に帰属する可能性がある。

(29)36号土坑(第3-35図、PL.23)

**位置** X=47995~47996、Y=-74231~-74233、調査区東端に位置する。

**形状等** 平面形は長方形を呈する。平坦な底部が検出された。

**規模** 2.16×0.54×0.06m

**主軸方位(度)** N-77-W

第3章 確認された遺構と遺物

**埋没土** 赤褐色の軽石を含む暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(30)37号土坑(第3-35図、PL.23)

**位置** X=48007~48008、Y=-74233~-74234、調査区東端の北辺に位置する。

**形状等** 北半が調査区外に及び平面形は不明であるが、長方形を呈すると推察される。底部平坦で深く掘り込まれている。

**規模** (0.96)×0.60×0.70m

**主軸方位(度)** N-9-E

**埋没土** As-Cを含む暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(31)38号土坑(第3-35図、PL.23)

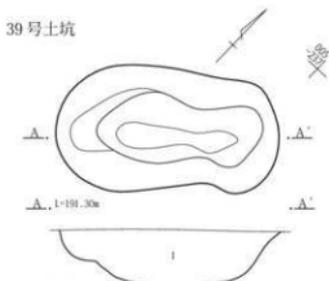
**位置** X=48007~48008、Y=-74240~-74241、調査区北辺東端寄りに位置する。

**形状等** 平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 0.92×0.85×0.34m

**主軸方位(度)** N-82-W

**埋没土** 赤褐色の軽石を含む暗褐色土。



39号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)酸化鉄と下部の礫層のものと思われる玉石が少量混入。

**重複** 上層に4号土坑が位置するが、切り合い関係は確認されていない。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(32)39号土坑(第3-36図、PL.23)

**位置** X=48003~48004、Y=-74236~-74238、調査区東端寄りに位置する。

**形状等** 平面形は長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.84×0.98×0.47m

**主軸方位(度)** N-47-E

**埋没土** 酸化鉄と玉石が少量混入した暗褐色土。

**重複** 上層に2号溝が位置するが、切り合い関係は確認されていない。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

(33)40号土坑(第3-36、53図、PL.23,28)

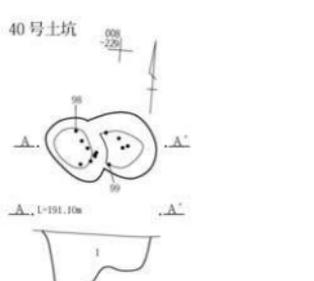
**位置** X=48006~48007、Y=-74228~-74229、調査区東端北寄りに位置する。

**形状等** 平面形は双円形を呈する。西側の円の方が深く掘り込まれている。

**規模** 0.90×0.56×0.46m

**主軸方位(度)** N-85-E

**埋没土** As-Cを含む暗褐色土。



40号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)As-Cを含む。

0 1:40 1m

第3-36図 土坑5

**重複** 上層に6号竪穴建物が位置するが、切り合い関係は確認されていない。

**遺物** 底部から羽釜(98)、埋没土から灰陶器碗(99)、磨石(100)が出土したほか、図化には至らなかったが、土師器(5点、16g)、須恵器(13点、227g)、羽釜(3点、150g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代に比定される。切り合い関係は確認されていないが、6号竪穴建物出土の破片と接合関係にある破片も出土しており、6号竪穴建物の床下土坑となる可能性も否定しえない。

## 8 ビット

1面からは144基のビットが検出されているが、調査区西半から検出されたビットは6基にとどまる。多くの

ビットは、掘立柱建物やビット列が集中する調査区中央東寄りの南辺沿いに集中している。

遺物を伴うビットは8基確認されているが、うち1基(119号ビット)は鉄釘(101)の出土のため、遺構の年代を推測しえるビットは7基となる。このうち平安時代の遺物を出したビットは39号ビット、120号ビット、137号ビットの3基である。また中世の遺物が出したビットは53号ビット、94号ビット、115号ビット、187号ビットの4基である。

地盤が緩い地域で採用されるという、柱穴底面に礎石を設置する工法と同様に、ビット底部から石が検出された遺構が12基確認されている。これらのビットから構成される遺構は確認されていない。

(第3-37~43.53図、PL.24.28)

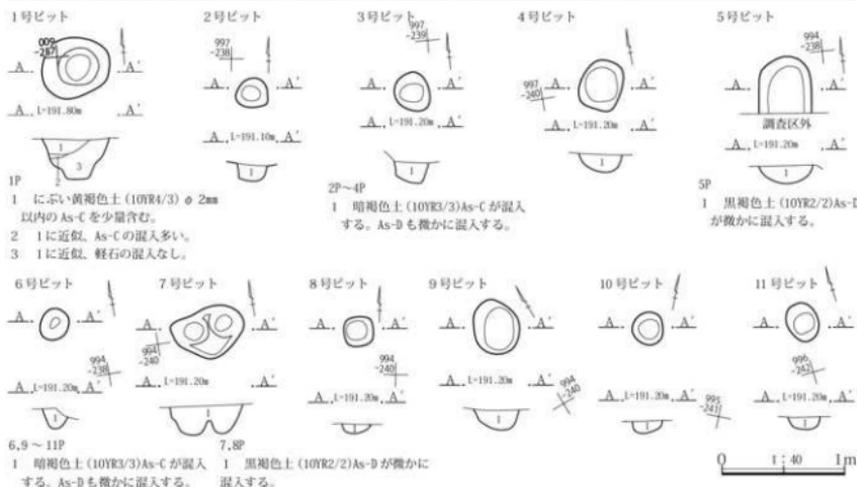
第3-14表 ビット計測表

区	検出面	遺構名称	位置	平面形状	規模			主軸方位(度)	重複	遺物
					長(m)	短(m)	深(m)			
1	1	1号ビット	X=4808 Y=74256	長円形	0.56	0.49	0.36	N-79-E	12号土坑	
1	1	2号ビット	X=47996 Y=74237	長円形	0.26	0.24	0.13	N-14-E	9号土坑、2号溝	
1	1	3号ビット	X=47996 Y=74239	長円形	0.30	0.28	0.20	N-36-W	9号土坑	
1	1	4号ビット	X=47996 Y=74239	長円形	0.40	0.34	0.16	N-28-W		
1	1	5号ビット	X=47993 Y=74238	長円形	(0.47)	0.43	0.15	N-4-E	2号溝	
1	1	6号ビット	X=47994 Y=74238	長円形	0.28	0.24	0.17	N-26-E	2号溝	
1	1	7号ビット	X=47993 Y=74239	不定形	0.50	0.40	0.22	N-66-E		
1	1	8号ビット	X=47994 Y=74240	隅丸方形	0.24	0.24	0.08	N-0		
1	1	9号ビット	X=47994 Y=74239	長円形	0.45	0.37	0.14	N-7-E		
1	1	10号ビット	X=47995 Y=74241	長円形	0.28	0.25	0.10	N-33-W		
1	1	11号ビット	X=47996 Y=74241	長円形	0.32	0.27	0.10	N-15-W		
1	1	12号ビット	X=47997 Y=74241	長円形	0.33	0.39	0.21	N-35-W		
1	1	13号ビット	X=47996 Y=74242	長円形	0.45	0.34	0.22	N-77-W		
1	1	14号ビット	X=47994 Y=74245	長円形	0.27	0.25	0.15	N-27-W		
1	1	15号ビット	X=47994 Y=74245	長円形	0.35	0.32	0.16	N-37-W		
1	1	16号ビット	X=47994 Y=74245	隅丸方形	0.24	0.25	0.15	N-16-E		
1	1	17号ビット	X=47994 Y=74245	長円形	0.25	0.24	0.15	N-2-E		
1	1	20号ビット	X=47995 Y=74248	長円形	0.26	0.25	0.09	N-6-W		
1	1	21号ビット	X=47995 Y=74249	長円形	0.26	0.24	0.12	N-36-E		
1	1	23号ビット	X=47995 Y=74250	長円形	0.22	0.17	0.20	N-43-E		
1	1	26号ビット	X=47995 Y=74254	長円形	0.24	0.18	0.18	N-29-W		
1	1	28号ビット	X=47996 Y=74256	長円形	0.29	0.22	0.16	N-15-W		
1	1	29号ビット	X=47995 Y=74234	長円形	0.40	0.36	0.24	N-73-W		
1	1	30号ビット	X=47993 Y=74233	長円形	0.43	0.36	0.13	N-84-W		
1	1	31号ビット	X=47994 Y=74235	長円形	(0.60)	0.53	0.18	N-80-E	32号土坑	
1	1	32号ビット	X=47994 Y=74235	長円形	0.60	0.50	0.20	N-32-E	31号土坑	
1	1	33号ビット	X=47996 Y=74235	長円形	0.24	0.22	0.13	N-2-E	176号ビット	
1	1	34号ビット	X=47996 Y=74235	長円形	0.44	0.38	0.22	N-26-W	176号ビット	
1	1	35号ビット	X=47995 Y=74242	長円形	0.32	0.25	0.12	N-7-W		
1	1	36号ビット	X=47994 Y=74244	長円形	0.26	0.21	0.06	N-36-W		
1	1	39号ビット	X=48004 Y=74256	長円形	0.45	0.43	0.26	N-38-W		灰陶器碗(1点3g)
1	1	40号ビット	X=48005 Y=74255	不定形	0.45	0.38	0.15	N-61-W		礎石様の石
1	1	41号ビット	X=48005 Y=74257	長円形	0.42	0.29	0.16	N-30-E		
1	1	42号ビット	X=47998 Y=74246	長円形	0.29	0.23	0.33	N-42-E	1号竪穴状遺構	
1	1	43号ビット	X=48004 Y=74242	長円形	0.34	0.26	0.23	N-33-W		
1	1	44号ビット	X=48005 Y=74242	長円形	0.42	0.30	0.27	N-71-E		
1	1	45号ビット	X=48006 Y=74242	長円形	0.28	0.25	0.24	N-75-W		
1	1	46号ビット	X=48005 Y=74244	長円形	0.54	0.46	0.25	N-68-W	174号ビット	
1	1	47号ビット	X=48008 Y=74243	長円形	0.52	0.50	0.62	N-50-W		
1	1	48号ビット	X=48008 Y=74244	長円形	0.42	0.34	0.23	N-79-W		
1	1	49号ビット	X=48006 Y=74244	円形	0.26	0.26	0.23	N-0	174号ビット	
1	1	50号ビット	X=48005 Y=74244	長円形	0.36	0.32	0.14	N-76-W		
1	1	52号ビット	X=48001 Y=74254	長円形	0.34	0.32	0.25	N-40-W		礎石様の石

## 第3章 確認された遺構と遺物

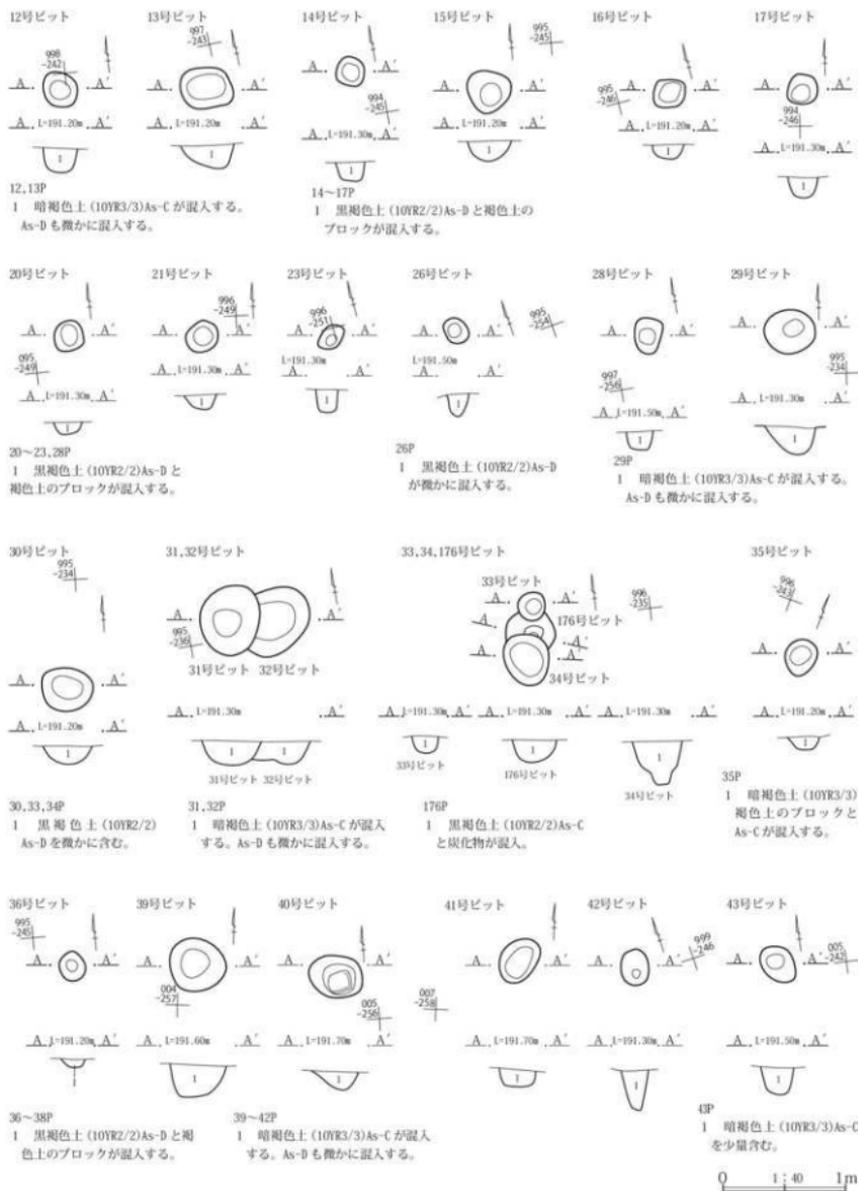
区	検出面	遺構名称	位置	平面形状	規模			主軸方位(度)	重複	遺物
					長(m)	短(m)	深(m)			
1	1	53号ビット	X=4804 Y=74257	長円形	0.52	0.46	0.40	N-25-W	77号ビット	中世遺物
1	1	54号ビット	X=4804 Y=74259	長円形	0.36	0.32	0.32	N-20-W	79号ビット	
1	1	55号ビット	X=4805 Y=74262	長円形	0.77	0.58	0.53	N-3-W	180号ビット	
1	1	56号ビット	X=4804 Y=74254	長円形	0.42	0.36	0.13	N-53-E		礎石様の石
1	1	58号ビット	X=4800 Y=74258	長円形	0.36	0.28	0.37	N-80-W	59号ビット	
1	1	59号ビット	X=4800 Y=74258	長円形	(0.40)	0.30	0.12	N-12-E	58号ビット	礎石様の石
1	1	60号ビット	X=4800 Y=74260	長円形	0.43	0.38	0.17	N-19-E		
1	1	61号ビット	X=4798 Y=74257	長円形	0.36	0.32	0.11	N-30-E		礎石様の石
1	1	62号ビット	X=4798 Y=74258	長円形	(0.38)	0.30	0.12	N-43-E	38号ビット	
1	1	63号ビット	X=4796 Y=74257	長円形	0.22	0.25	0.19	N-42-E	64号ビット	
1	1	64号ビット	X=4796 Y=74257	長円形	0.23	0.24	0.14	N-42-E	63号ビット	
1	1	66号ビット	X=4796 Y=74261	長円形	0.32	0.28	0.30	N-13-W		
1	1	67号ビット	X=4798 Y=74259	長円形	0.40	0.38	0.13	N-61-W		礎石様の石
1	1	68号ビット	X=4797 Y=74261	長円形	0.35	0.28	0.14	N-18-E		
1	1	70号ビット	X=4796 Y=74265	長円形	0.33	0.30	0.44	N-6-W		
1	1	71号ビット	X=4797 Y=74239	長円形	0.29	0.26	0.17	N-26-E		礎石様の石
1	1	72号ビット	X=4808 Y=74269	隅丸方形	0.30	0.30	0.30	N-17-E		
1	1	73号ビット	X=4807 Y=74270	長円形	0.40	0.38	0.18	N-46-W		
1	1	74号ビット	X=4808 Y=74264	長円形	0.43	0.30	0.13	N-26-W	23号土坑	
1	1	75号ビット	X=4801 Y=74254	長円形	0.38	0.36	0.11	N-46-W		礎石様の石
1	1	76号ビット	X=4801 Y=74256	長円形	0.36	0.30	0.14	N-24-E		
1	1	77号ビット	X=4804 Y=74257	長円形	0.33	(0.24)	0.33	N-80-W	53号ビット	
1	1	78号ビット	X=4805 Y=74259	長円形	0.34	0.28	0.26	N-72-E		
1	1	79号ビット	X=4804 Y=74259	長円形	0.41	(0.22)	0.38	N-15-W	54号ビット	
1	1	87号ビット	X=4805 Y=74257	長円形	0.38	0.34	0.04	N-27-E		礎石様の石
1	1	89号ビット	X=4799 Y=74262	長円形	(0.19)	0.18	0.20	N-13-E	90号ビット	
1	1	91号ビット	X=4798 Y=74262	長円形	0.26	0.22	0.13	N-10-E		
1	1	92号ビット	X=4797 Y=74262	長円形	0.50	0.47	0.30	N-20-E	93号ビット	
1	1	94号ビット	X=4798 Y=74263	長円形	0.36	0.26	0.22	N-19-E		中世遺物
1	1	95号ビット	X=4797 Y=74264	長円形	0.35	0.26	0.30	N-16-E	96号ビット	
1	1	96号ビット	X=4797 Y=74264	長円形	0.41	0.37	0.22	N-37-W	95号ビット	
1	1	97号ビット	X=4798 Y=74265	長円形	0.38	0.32	0.29	N-27-E		
1	1	101号ビット	X=4797 Y=74267	長円形	0.37	0.26	0.22	N-3-E	173号ビット	
1	1	103号ビット	X=4796 Y=74270	長円形	0.33	0.23	0.29	N-0	157号ビット	
1	1	105号ビット	X=4799 Y=74268	長円形	0.55	0.37	0.16	N-25-E		礎石様の石
1	1	106号ビット	X=4798 Y=74268	長円形	0.21	0.20	0.13	N-5-E		
1	1	107号ビット	X=4798 Y=74268	長円形	0.30	0.29	0.17	N-5-E		
1	1	108号ビット	X=4798 Y=74269	長円形	0.34	0.32	0.15	N-5-W		
1	1	111号ビット	X=4800 Y=74269	長円形	0.33	0.30	0.47	N-16-W		
1	1	112号ビット	X=4801 Y=74269	長円形	0.24	0.22	0.30	N-40-W		
1	1	114号ビット	X=4802 Y=74267	長円形	0.45	0.34	0.33	N-56-W		
1	1	115号ビット	X=4803 Y=74268	長円形	0.36	0.25	0.25	N-23-W	188号ビット	中世遺物
1	1	116号ビット	X=4803 Y=74269	長円形	0.34	0.28	0.13	N-12-E		
1	1	117号ビット	X=4801 Y=74270	長円形	0.29	0.25	0.29	N-13-W		
1	1	119号ビット	X=4798 Y=74267	長円形	0.30	0.20	0.11	N-24-E		表面より鉄釘
1	1	120号ビット	X=4801 Y=74263	長円形	0.42	0.40	0.44	N-52-E		土師器(1点4g)
1	1	121号ビット	X=4799 Y=74263	長円形	0.37	0.34	0.23	N-69-E	122号ビット	
1	1	122号ビット	X=4799 Y=74263	長円形	0.32	(0.27)	0.46	N-69-E	121号ビット	
1	1	123号ビット	X=4799 Y=74264	長円形	0.35	0.31	0.25	N-37-W		
1	1	125号ビット	X=4799 Y=74266	長円形	0.28	0.26	0.23	N-17-W		
1	1	127号ビット	X=4801 Y=74266	長円形	0.33	0.27	0.21	N-35-W		礎石様の石
1	1	128号ビット	X=4799 Y=74267	長円形	0.24	0.18	0.18	N-55-W		
1	1	130号ビット	X=4798 Y=74268	長円形	0.33	0.30	0.20	N-5-E		
1	1	131号ビット	X=4798 Y=74269	長円形	0.35	0.29	0.18	N-31-E		
1	1	132号ビット	X=4799 Y=74269	長円形	0.21	0.21	0.17	N-0		
1	1	134号ビット	X=4800 Y=74268	長円形	0.33	0.28	0.27	N-14-W		
1	1	136号ビット	X=4802 Y=74268	長円形	0.55	0.46	0.27	N-9-E		
1	1	137号ビット	X=4803 Y=74269	長円形	0.32	0.25	0.27	N-77-E		須恵器(1点28g)
1	1	138号ビット	X=4803 Y=74270	長円形	0.25	0.20	0.35	N-18-W		
1	1	141号ビット	X=4803 Y=74272	長円形	0.26	0.24	0.26	N-20-E		
1	1	142号ビット	X=4803 Y=74272	長円形	0.32	0.26	0.18	N-32-E		
1	1	146号ビット	X=4804 Y=74273	長円形	0.34	0.25	0.22	N-56-E		
1	1	152号ビット	X=4800 Y=74272	長円形	0.23	0.20	0.24	N-9-E		
1	1	154号ビット	X=4799 Y=74271	長円形	0.26	0.24	0.11	N-20-E	155号ビット	
1	1	155号ビット	X=4799 Y=74271	長円形	0.50	0.39	0.19	N-71-E	154号ビット	
1	1	157号ビット	X=4796 Y=74270	長円形	(0.50)	0.32	0.24	N-17-E	103号ビット	
1	1	158号ビット	X=4796 Y=74271	長円形	0.25	0.22	0.14	N-42-W	159号ビット	
1	1	159号ビット	X=4796 Y=74271	長円形	0.26	0.24	0.18	N-12-W	158号ビット	

区	検出面	遺構名称	位置	平面形状	規模			主軸方位(度)	重複	遺物
					長(m)	短(m)	深(m)			
1	1	162号ビット	X=47996 Y=74273	長円形	0.30	0.25	0.42	N-13-E		
1	1	164号ビット	X=47997 Y=74274	長円形	0.38	0.35	0.13	N-73-W		
1	1	166号ビット	X=47997 Y=74276	長円形	0.37	0.27	0.18	N-20-W		
1	1	167号ビット	X=47998 Y=74276	長円形	(0.32)	0.31	0.20	N-71-W	168号ビット	
1	1	169号ビット	X=47998 Y=74277	長円形	0.27	0.19	0.27	N-61-W		
1	1	170号ビット	X=47998 Y=74278	長円形	0.28	0.26	0.32	N-12-W		
1	1	172号ビット	X=48000 Y=74270	長円形	0.36	0.28	0.23	N-8-W	26号土坑	
1	1	173号ビット	X=47997 Y=74267	長円形	0.23	(0.20)	0.33	N-1-W	101号ビット	礎石様の石
1	1	174号ビット	X=48006 Y=74244	長円形	0.35	0.32	0.24	N-45-E	46,49号ビット	
1	1	175号ビット	X=48005 Y=74245	長円形	0.33	0.30	0.14	N-6-E		
1	1	176号ビット	X=47995 Y=74235	長円形	0.40	—	0.34	N-63-W	33,34号ビット	
1	1	180号ビット	X=48006 Y=74262	不定形	0.40	0.35	0.23	N-68-W	55号ビット	
1	1	181号ビット	X=48006 Y=74256	長円形	0.40	0.30	0.16	N-16-E		
1	1	182号ビット	X=48006 Y=74255	長円形	0.28	0.26	0.22	N-59-W		
1	1	183号ビット	X=48005 Y=74252	長円形	0.35	0.30	0.13	N-74-W		
1	1	184号ビット	X=48007 Y=74252	長円形	0.24	0.22	0.14	N-8-E		
1	1	185号ビット	X=47997 Y=74263	長円形	0.26	0.24	0.19	N-45-E		
1	1	186号ビット	X=47995 Y=74254	長円形	0.22	0.20	0.14	N-5-W		
1	1	187号ビット	X=48001 Y=74265	長円形	0.54	0.50	0.42	N-47-W		中世遺物
1	1	188号ビット	X=48003 Y=74267	長円形	(0.38)	0.27	0.23	N-23-W	115号ビット	
1	1	189号ビット	X=48001 Y=74261	長円形	0.57	0.48	0.17	N-13-W	179号ビット	
1	1	190号ビット	X=48004 Y=74262	長円形	0.39	0.29	0.11	N-7-W		
1	1	192号ビット	X=48001 Y=74257	長円形	0.40	0.28	0.31	N-20-W		
1	1	193号ビット	X=48001 Y=74257	長円形	0.42	0.34	0.30	N-67-W		
1	1	194号ビット	X=47995 Y=74259	長円形	(0.38)	0.26	0.15	N-3-W		
1	1	195号ビット	X=47999 Y=74285	長円形	0.52	0.36	0.58	N-17-E		
1	1	196号ビット	X=48010 Y=74331	長円形	0.54	0.43	0.43	N-19-E		
1	1	197号ビット	X=48008 Y=74331	長円形	0.56	0.50	0.34	N-18-W		
1	1	198号ビット	X=48003 Y=74304	長円形	0.28	0.26	0.14	N-8-E		
1	1	199号ビット	X=48013 Y=74299	長円形	0.57	0.40	0.22	N-23-W		
1	1	200号ビット	X=48014 Y=74304	長円形	(0.56)	0.43	0.34	N-52-E		
1	1	201号ビット	X=48000 Y=74303	長円形	0.41	0.38	0.20	N-20-W		
1	1	202号ビット	X=48002 Y=74235	長円形	0.58	0.42	0.31	N-12-E		
1	2	203号ビット	X=48004 Y=74294	長円形	0.66	0.64	0.14	N-23-W		縄文土器(1点33g)
1	2	204号ビット	X=48000 Y=74294	長円形	0.56	0.46	0.17	N-16-E		
1	2	205号ビット	X=48008 Y=74292	長円形	0.46	0.38	0.14	N-70-W		
1	2	206号ビット	X=48012 Y=74285	長円形	0.34	0.28	0.12	N-7-W		
1	2	207号ビット	X=48005 Y=74317	長円形	0.65	0.50	0.34	N-29-E		
1	2	208号ビット	X=48006 Y=74320	長円形	0.38	0.37	0.28	N-8-W		

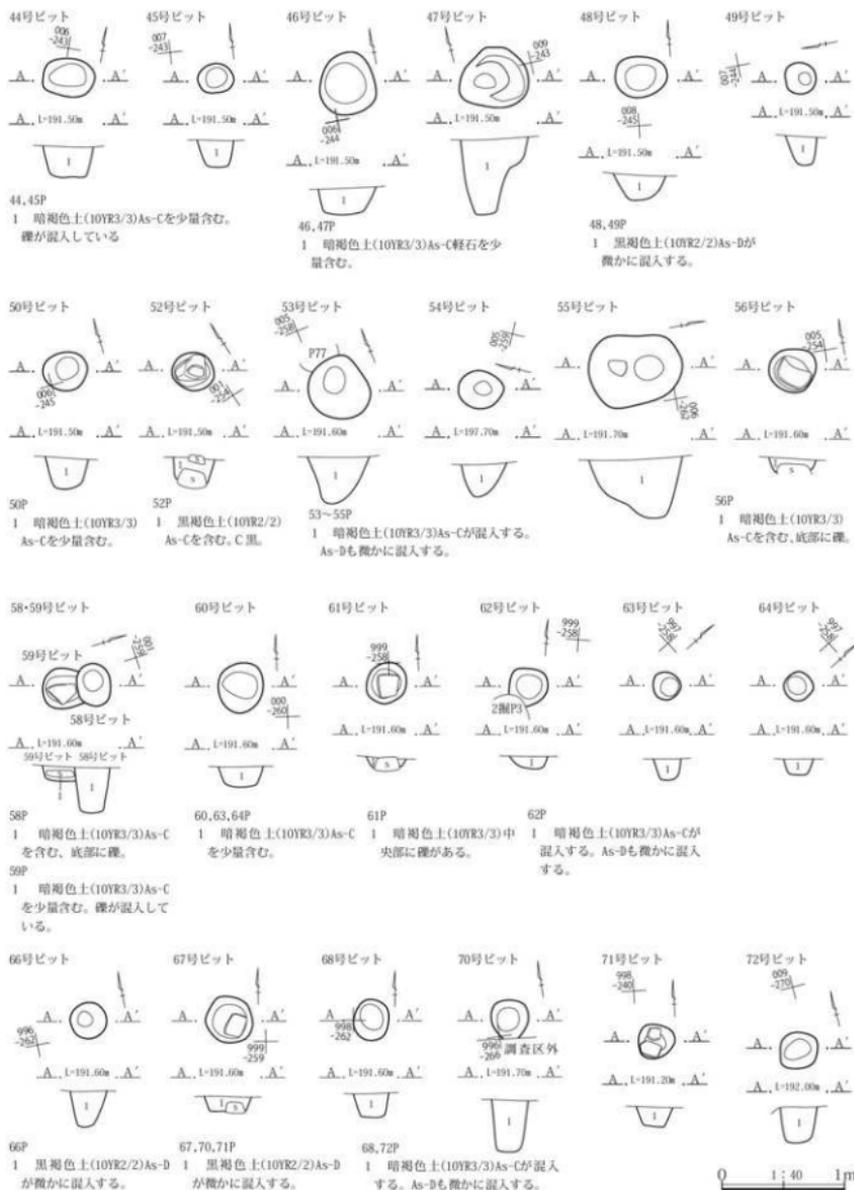


第3-37図 ビット1

### 第3章 確認された遺構と遺物



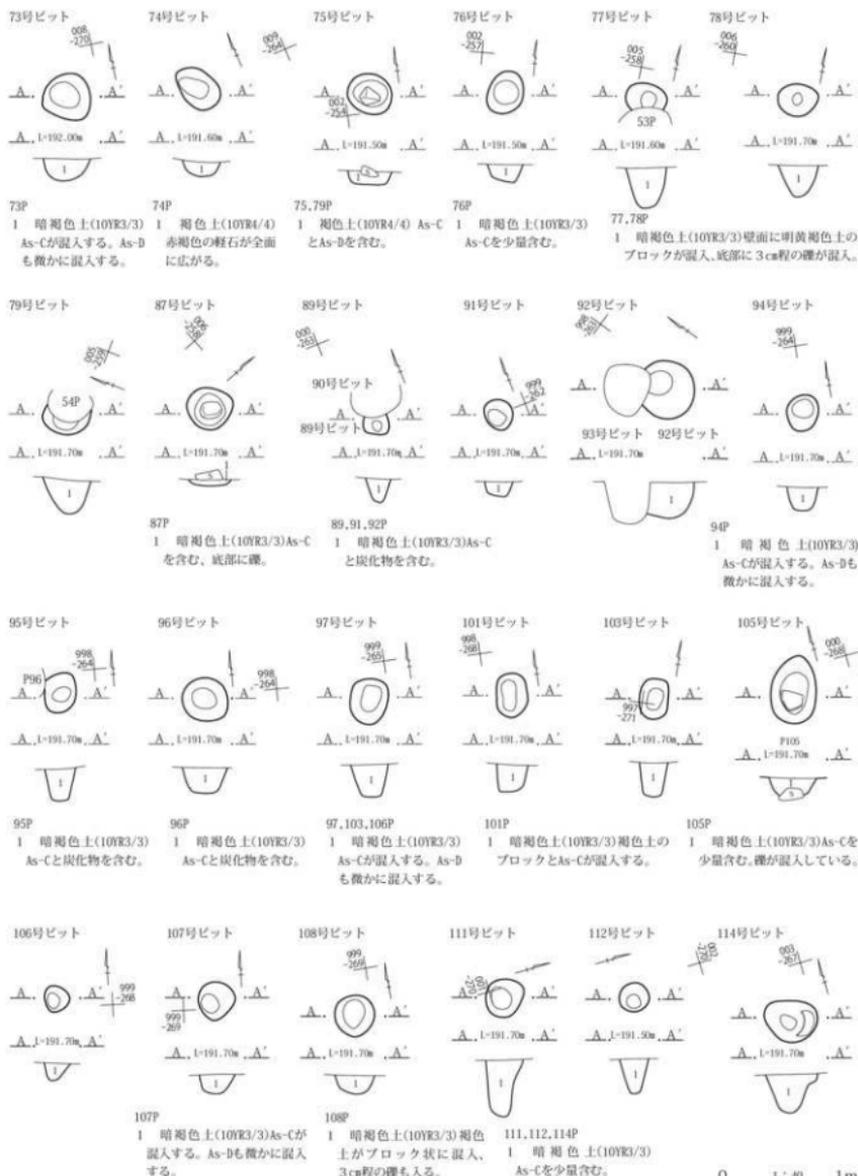
第3-38図 ビット2



第3-39図 ビット3

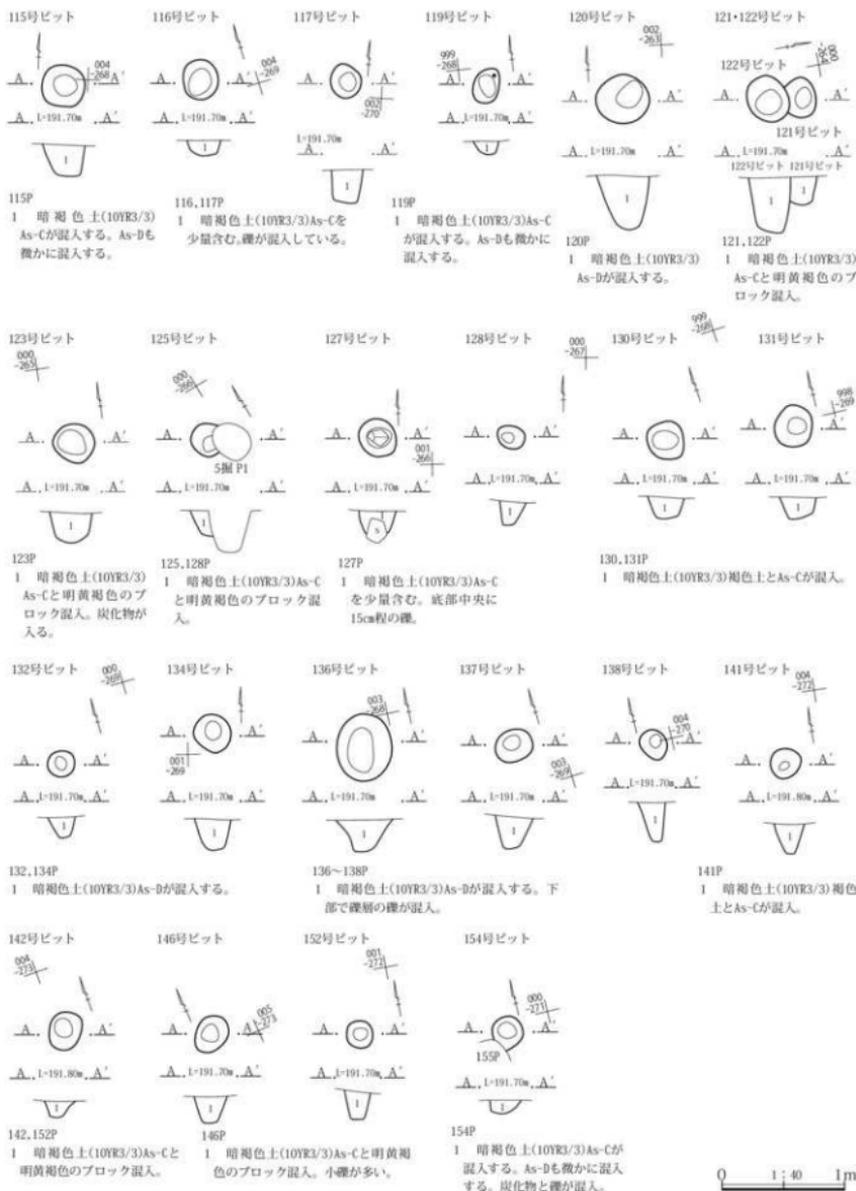
0 1:40 1m

### 第3章 確認された遺構と遺物



0 1:40 1m

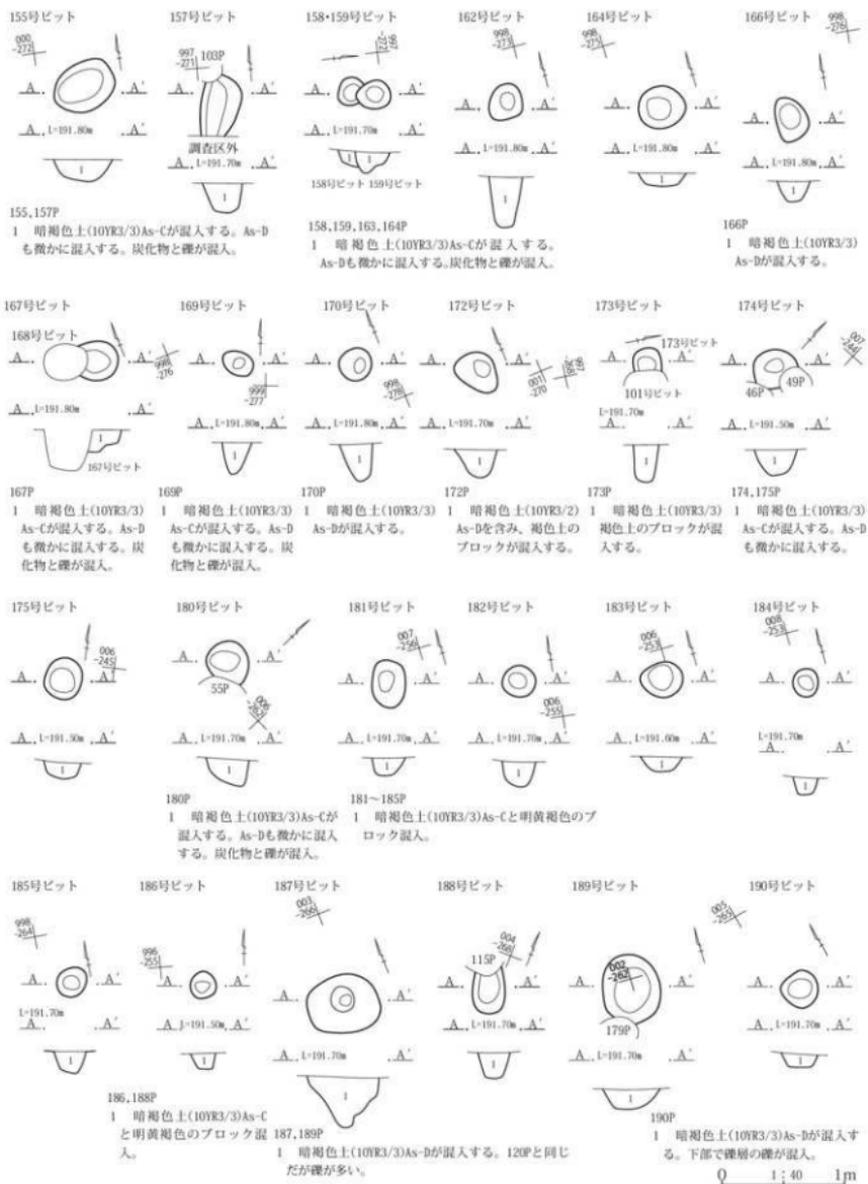
第3-40図 ビット4



第3-41図 ピット5

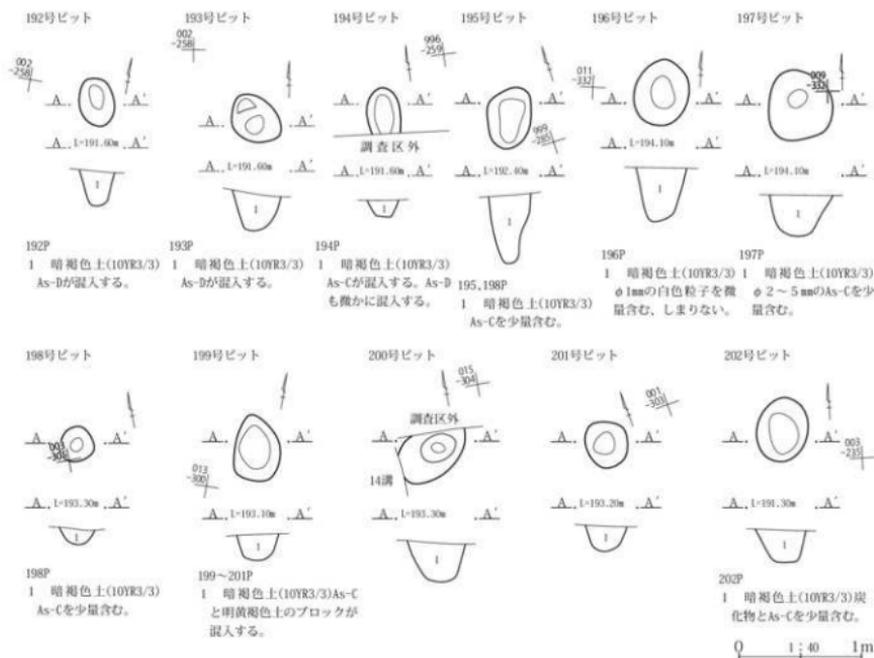
0 1:40 1m

### 第3章 確認された遺構と遺物



第3-42図 ピット6

0 1:40 1m



第3-43図 ピット7

## 第2節 2面及び3面の遺構と遺物

### 第1項 2面及び3面の概要

縄文時代の土器片が採取された2面の調査区中央西寄りの地点から、土坑1基とピット6基が検出されている。なお、2面グリッドからは羽釜片や土師器片も検出されているが、砂礫層下層からは遺構、遺物ともに検出されていない。

### 第2項 2面の遺構

#### 1 土坑

2面からは土坑1基が検出されている。

(1)41号土坑(第3-44図、PL.24)

位置 X=48008、Y=-74293~-74294、調査区中央西寄

りに位置する。

**形状等** 平面形はひしゃげた長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 1.16×0.56×0.25m

**主軸方位(度)** N-71-W

**埋没土** 赤褐色の軽石を含む黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

#### 2 ピット

2面からはピット6基が検出されている。

(1)203号ピット(第3-45図、PL.24)

位置 X=48004、Y=-74294~-74295、調査区中央西寄

### 第3章 確認された遺構と遺物

りに位置する。

**形状等** 平面観は偏円形を呈する。平坦な底部が検出された。

**規模** 0.66×0.64×0.14m

**主軸方位(度)** N-23-W

**埋没土** 赤褐色の軽石を含む黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** 図化には至らなかったが、縄文土器(1点、32g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

#### (2)204号ビット(第3-45図、PL.24)

**位置** X=48000~48001、Y=-74294~-74295、調査区中央西寄りに位置する。

**形状等** 平面観は長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 0.56×0.46×0.17m

**主軸方位(度)** N-16-E

**埋没土** 赤褐色の軽石を含む黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

#### (3)205号ビット(第3-44図、PL.24)

**位置** X=48008、Y=-74292~-74293、調査区中央西寄りに位置する。

**形状等** 平面観は長円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 0.46×0.38×0.14m

**主軸方位(度)** N-70-W

**埋没土** 赤褐色の軽石を含む黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

#### (4)206号ビット(第3-44図、PL.24)

**位置** X=48012、Y=-74285、調査区中央西寄りに位置

する。

**形状等** 平面形は長円形を呈する。平坦な底部が検出された。

**規模** 0.34×0.28×0.12m

**主軸方位(度)** N-7-W

**埋没土** As-Cが混入する暗褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

#### (5)207号ビット(第3-44図、PL.24)

**位置** X=48005~48006、Y=-74317、調査区中央西寄りに位置する。

**形状等** 平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 0.65×0.50×0.34m

**主軸方位(度)** N-29-E

**埋没土** 赤褐色の軽石を含む黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。

#### (6)208号ビット(第3-44図、PL.24)

**位置** X=48006、Y=-74320、調査区中央西寄りに位置する。

**形状等** 平面形は偏円形を呈する。湾曲した底部が検出された。

**規模** 0.38×0.37×0.28m

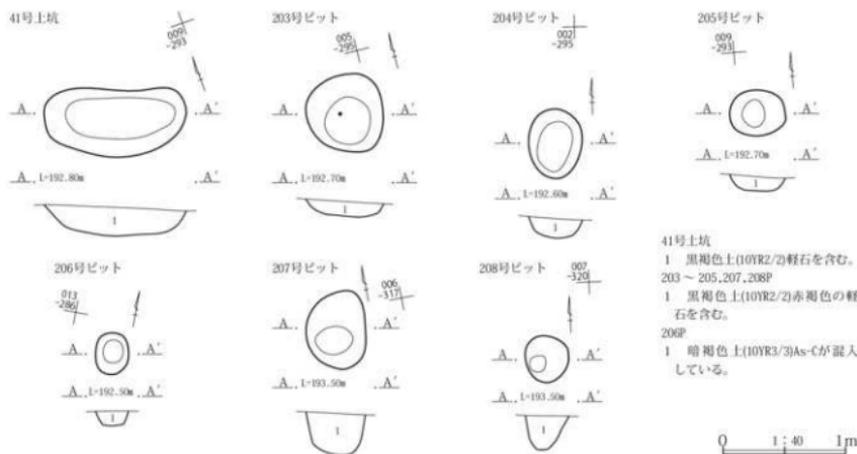
**主軸方位(度)** N-8-W

**埋没土** 赤褐色の軽石を含む黒褐色土。

**重複** なし。

**遺物** なし。

**所見** 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明である。



第3-44図 2面土坑、ピット

### 第3節 出土遺物

調査区1面からは平安時代以降の遺構とこれに伴う遺物が出土しているほか、縄文土器(107)や中世在地系土器(104~106)が出土している。また図化には至らなかったが近世陶器磁器(36片、408g)、近世在地系土器(2片、122g)などが出土している。

中世の遺物が集中して出土した遺構は、5号竪穴状遺構、4号溝、1号井戸、2号井戸などであり、常滑陶器など国産陶器や在地系土器が出土しているほか、龍泉窯系磁器も出土している。4号溝では、調査区南辺寄りの地点から中世在地系土器皿が集中して検出されている。

平安時代の遺物は竪穴状遺構からの出土も多いが、主として竪穴建物から出土している。中でも8号竪穴建物は羽釜を中心とする多量の遺物が残存していた。8号竪穴建物の床面から椀形鍛冶滓、埋没土から羽口が出土し、また1号井戸からも羽口や鉄滓が出土しており、鍛冶遺構の存在が予見

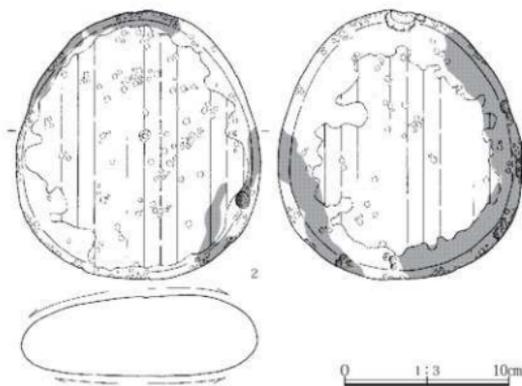
1号竪穴建物



されたが、調査区内から該当する遺構は検出されていない。

調査区2面から遺構外ではあるが縄文時代中期前半の土器片(108)、石鏝(109)、打製石斧(110)が出土しているほか、図化には至らなかったが、縄文時代前期後半諸磯b式などの土器片(19片)、土師器(5片、11g)、須恵器(1片、1g)、羽釜(11片、127g)が出土している。またこの下位から残存部半球形の戸沢石の石製品(111)が出土している。

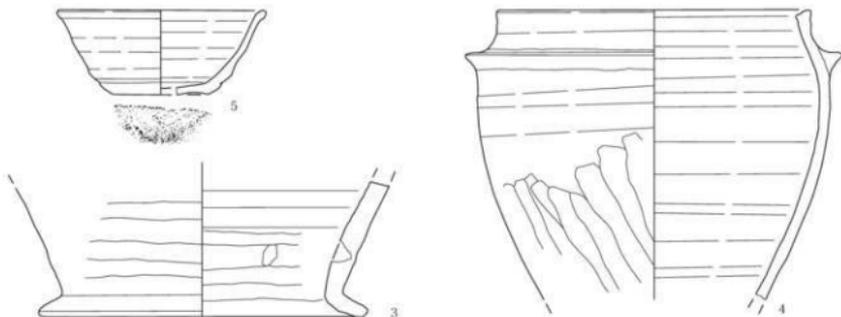
(第3-45~53図、PL.25~28)



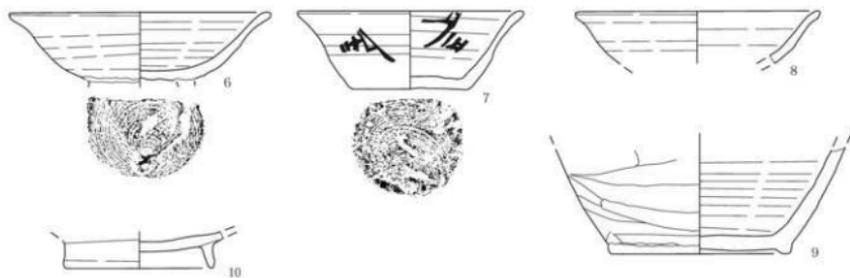
第3-45図 出土遺物 1

第3章 確認された遺構と遺物

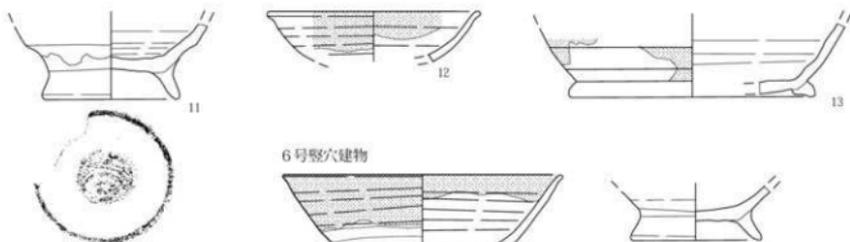
2号竪穴建物



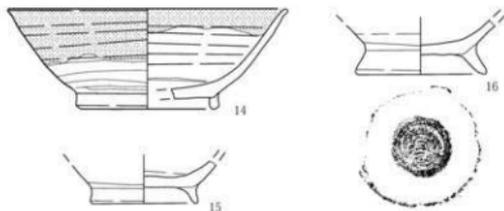
3号竪穴建物



5号竪穴建物



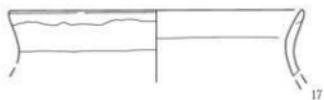
6号竪穴建物



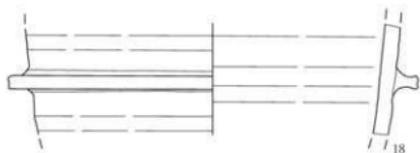
0 1:3 10cm

第3-46図 出土遺物2

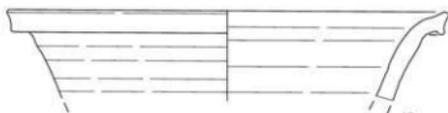
7号竪穴建物



17

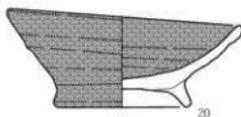


18

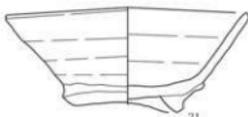


19

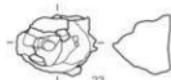
8号竪穴建物



20



21



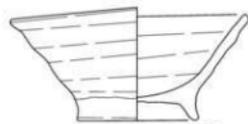
22



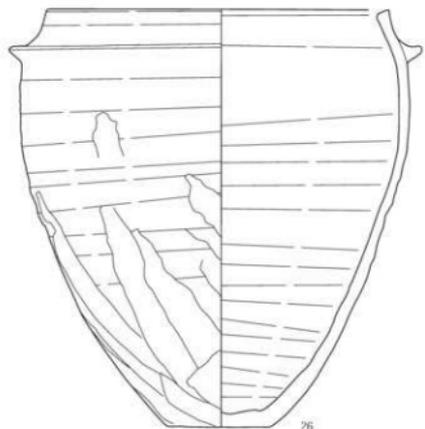
23



24



25

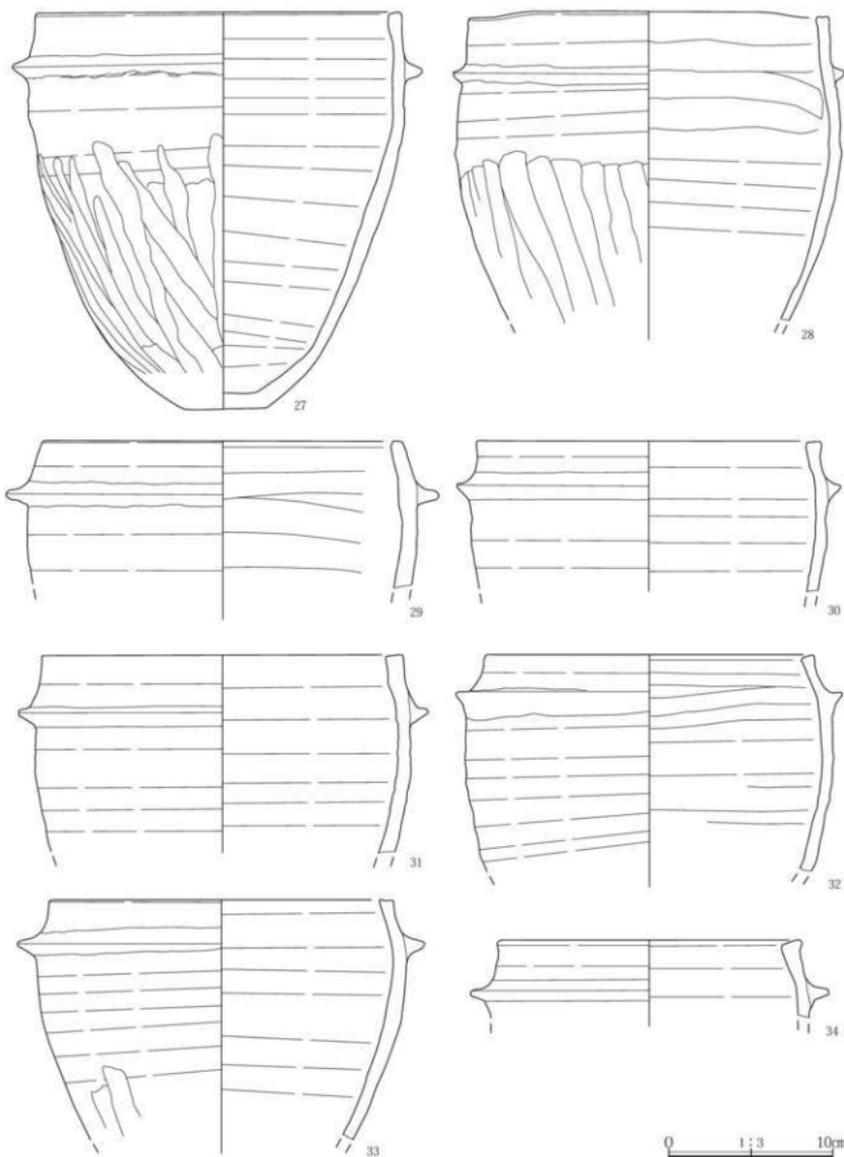


26



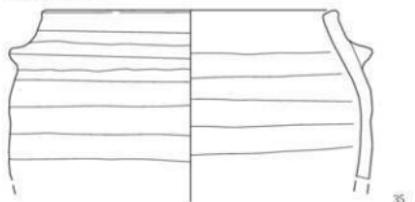
第3-47図 出土遺物3

8号竪穴建物

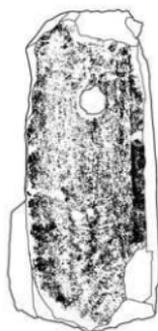


第3-48図 出土遺物4

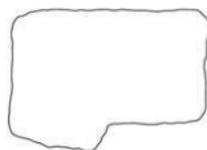
8号竪穴建物



35



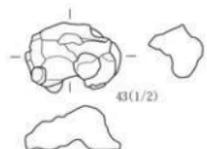
36(1/4)



0 1:4 10m



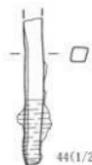
42(1/2)



43(1/2)



2号掘立柱建物

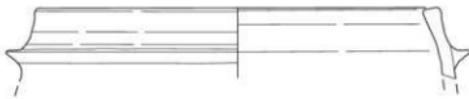


44(1/2)

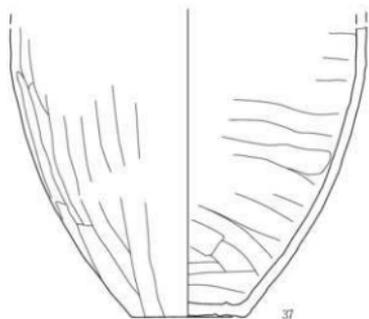
2号竪穴状遺構



45



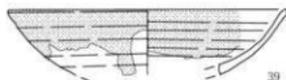
46



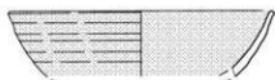
37



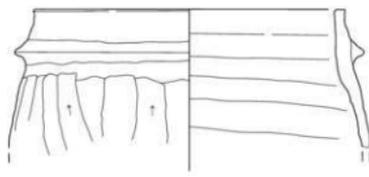
38



39



40



41



47(1/1)

0 1:1 2cm

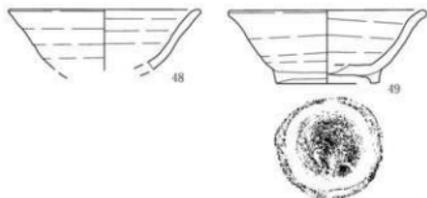
0 1:2 4cm

0 1:3 10cm

第3-49図 出土遺物5

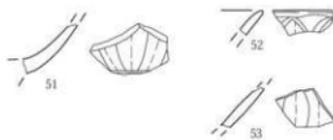
第3章 確認された遺構と遺物

3号竪穴状遺構

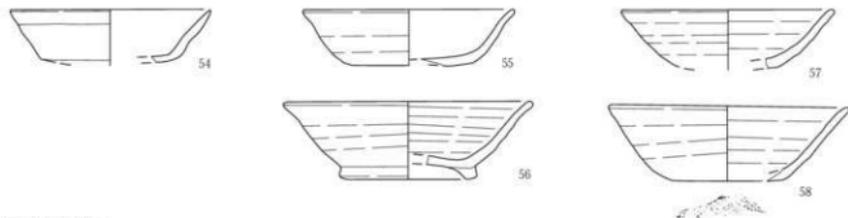


4号竪穴状遺構

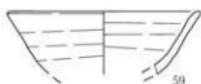
5号竪穴状遺構



7号竪穴状遺構



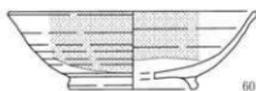
8号竪穴状遺構



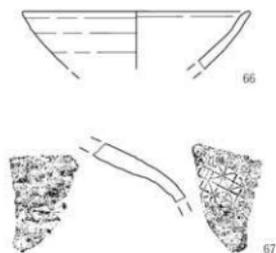
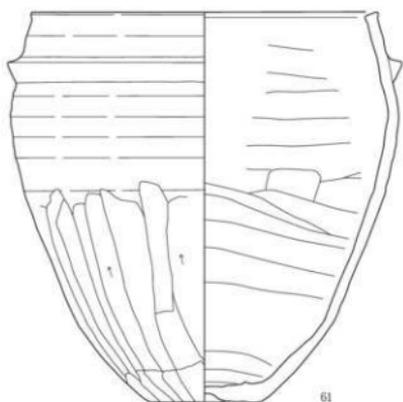
10号竪穴状遺構



9号竪穴状遺構



4号溝

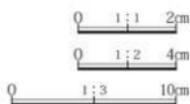


第3-50図 出土遺物6

4号溝

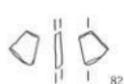


第3-51図 出土遺物7



第3章 確認された遺構と遺物

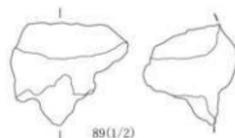
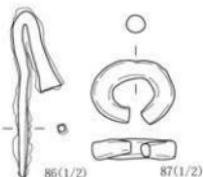
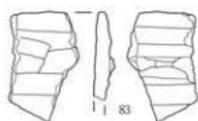
7号溝



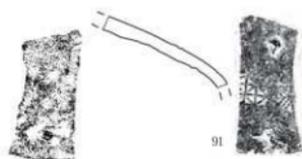
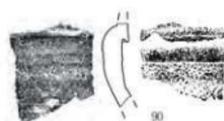
1号井戸



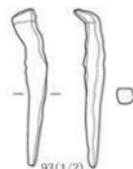
21号溝



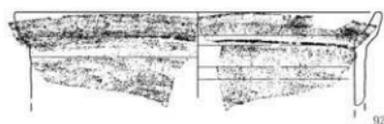
2号井戸



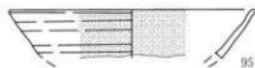
4号井戸



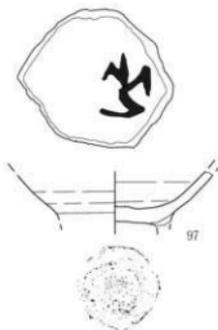
6号井戸



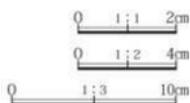
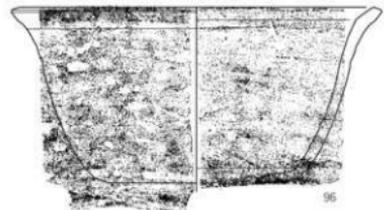
10号井戸



33号土坑

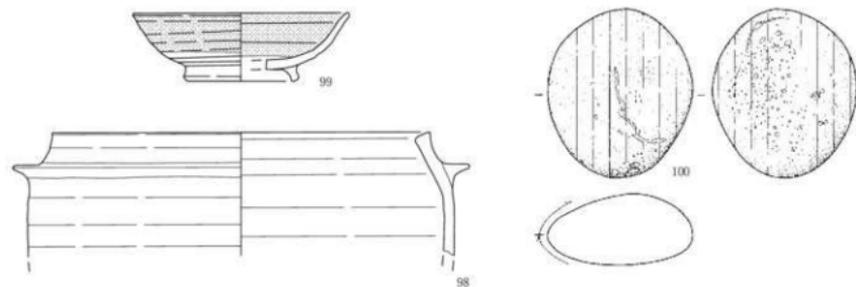


25号土坑

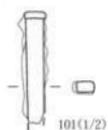


第3-52図 出土遺物8

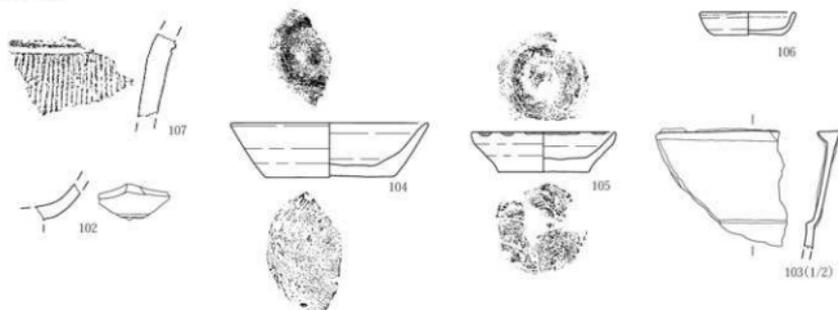
40号土坑



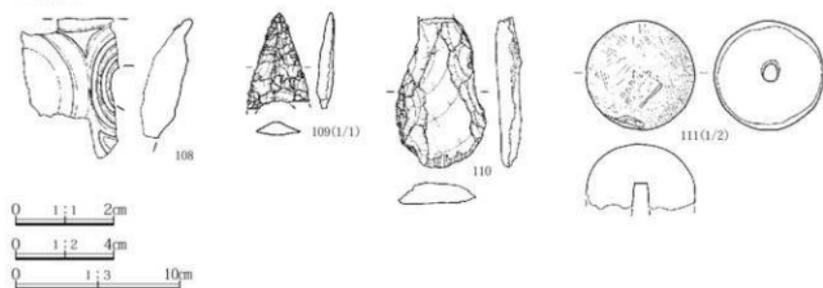
119号ピット



1面遺構外



2面遺構外



0 1:1 2m

0 1:2 4m

0 1:3 10m

第3-53図 出土遺物9

第3章 確認された遺構と遺物

3-15表 遺物観察表

検出 PL.No.	No.	種類 種別	出土位置 現存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第3-45Ⅸ	1	灰軸陶器 段皿	1号竪穴建物 床+9cm 底部～体部片	底 台	8.0 7.8		微砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原2号窯 式期
第3-45Ⅹ	2	磨石	1号竪穴建物 床面 完形	長 尺	16.5 14.9	5.1 189.6	粗粒輝石安山岩/	扁平円確利用。表裏両面とも磨面、部分的に敲打痕が残る。周縁部は敲打により新痕が生じた部分もある。炭素が付着し黒変部分あり。	黒変あり
第3-46Ⅰ	3	須恵器 瓶	2号竪穴建物 床+5cm 胴部～底部	底	20.0		粗砂粒/酸化焰/暗 灰黄	ロク口整形、回転は右回り。胴部下半横位ヘラナデ。内面下端へラ削り。背面下半に刺突による1孔。	ⅩC前
第3-46Ⅱ	4	須恵器 羽釜	2号竪穴建物 床+0～3cm 口縁部～胴部	口 跨	19.0 22.9		粗砂粒/酸化焰/こ いれ	ロク口整形、回転は右回り。跨は貼付。胴部下半斜位ヘラ削り。胴部内面ヘラナデ。	ⅩC前
第3-46Ⅲ	5	須恵器 椀	2号竪穴建物 埋設上 口縁部～底部片	底	12.8 6.0	5.2	細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	ⅩC前
第3-46Ⅳ PL.25	6	須恵器 椀	3号竪穴建物 床+2cm 口縁部～底部	口	16.0		細砂粒/還元焰き み/灰黄	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付で表露。	ⅩC前
第3-46Ⅴ PL.25	7	須恵器 椀	3号竪穴建物 床+3cm 口縁部～底部	口 底	13.8 7.0	4.8	細砂粒/還元焰き み/灰黄	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。体部内外面に黒変。	ⅩC前
第3-46Ⅵ	8	須恵器 椀	3号竪穴建物 床-6～-5cm 口縁部片	口	15.0		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロク口整形、回転は右回り。	ⅩC前
第3-46Ⅶ PL.25	9	須恵器 瓶	3号竪穴建物 床-5cm 胴部～底部	台	11.0		粗砂粒/酸化焰/暗 灰黄	ロク口整形、回転は右回り。胴部下半横位ヘラナデ。内面ヘラナデ。高台は底部ヘラ削り後貼付。	ⅩC前
第3-46Ⅷ	10	灰軸陶器 椀	3号竪穴建物 埋設上 底部	底 台	9.0 8.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	虎尻山1号 窯式期
第3-46Ⅸ PL.25	11	須恵器 カマド	5号竪穴建物 カマド 底部～体部片	底 台	7.6 8.4		細砂粒/酸化焰/橙	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	ⅩCⅢ
第3-46Ⅹ PL.25	12	灰軸陶器 椀	5号竪穴建物 カマド 口縁部片	口	13.0		微砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロク口整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯 式期
第3-46Ⅺ PL.25	13	灰軸陶器 壺	5号竪穴建物 カマド 底部～胴部下位 片	底 台	14.0 14.3		微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、胴部残存部は回転ヘラ削り。高台は貼付。施釉方法は不明。	ⅩCⅢ
第3-46Ⅻ	14	灰軸陶器 椀	6号竪穴建物 床+1cm 1/4	口 底	17.0 8.6	8.0 6.1	微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、体部下半は回転ヘラ削り、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯 式期
第3-46Ⅼ	15	須恵器 瓶	6号竪穴建物 床+6cm 底部～体部片	底 台	6.4 6.4		細砂粒/酸化焰/橙	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	ⅩC前
第3-46Ⅽ PL.25	16	須恵器 椀	6号竪穴建物 床+1cm 底部～体部片	底 台	7.0 8.0		細砂粒/酸化焰/こ いれ/黄橙	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラナデ、高台は貼付。	ⅩC前
第3-47Ⅰ	17	土師器 甕	7号竪穴建物 床-1～-1cm 口縁部片	口	18.0		細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪轆み痕が残る。口縁部から胴部は横ナデ。	ⅩC後
第3-47Ⅱ	18	須恵器 瓶	7号竪穴建物 床+1cm 口縁部～胴部上 位片	跨	25.0		細砂粒/酸化焰/こ いれ	ロク口整形、回転は右回りか。跨は貼付。	ⅩC前
第3-47Ⅲ	19	須恵器 甕	7号竪穴建物 床-3cm 口縁部片	口	27.0		細砂粒/酸化焰/こ いれ	ロク口整形、回転は右回りか。	
第3-47Ⅳ PL.25	20	須恵器 椀	8号竪穴建物 床+3cm 3/4	口 底	14.3 7.8	7.8 6.1	細砂粒/還元焰・ 焼/黒褐	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	ⅩCⅠ
第3-47Ⅴ PL.25	21	須恵器 椀	8号竪穴建物 床+2～3cm 口縁部～底部	口 台	14.8 7.3	6.2	粗砂粒/酸化焰/こ いれ/黄橙	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	内面黒かな ハゼ ⅩCⅠ
第3-47Ⅵ PL.25	22	鉄滓	8号竪穴建物 床+3cm 破片	長 短	4.8 3.5	3.5 71.6		沖質は密。直径1mmほどの小石が含まれている。炭痕跡は見当たらない。	
第3-47Ⅶ PL.25	23	鉄滓	8号竪穴建物 床+1cm 破片	長 短	11.1 4.1	2.9 117.6		底面は丸く、沖質は密。直径1mmほどの小石が混じる。一部炭痕跡が残存している。	
第3-47Ⅷ PL.25	24	灰軸陶器 カマド	8号竪穴建物 カマド 1/2	口 底	13.8 7.4	7.2 4.6	微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯 式期

採 取 Pl.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 現 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・ 整 形 の 特 徴	備 考
第3-47回 Pl.25	25	須恵器 甕	8号竪穴建物 カマド ほぼ完成形	口 14.5 高 6.5 7.4	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部切り離し不明、高台は 貼付。	10C I
第3-47回 Pl.26	26	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 カマド 口縁部～底部	口 21.0 跨 25.2 6.4 高 25.7	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。跨は貼付。胴部下平と底部 はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	跨下胴部上 平に部分的 に埋付着 10C I
第3-48回 Pl.26	27	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 カマド 口縁部～底部	口 22.3 跨 24.9 5.0 高 23.0	粗砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。跨は貼付。胴部下平ヘラナデ、 底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	10C I
第3-48回 Pl.28	28	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部	口 22.0 跨 23.8	小礫・粗砂粒/還元 焼きみ/にぶい 黄～灰	ロクロ整形、回転は右回り。跨は貼付。胴部下平縦位ヘ ラ削り。胴部内面ヘラナデ。	10C I
第3-48回 Pl.29	29	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部上位片	口 22.0 跨 26.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。跨は貼付。内面はヘラナデ。	10C I
第3-48回 Pl.30	30	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部上位片	口 21.0 跨 23.4	細砂粒/還元焼き み/にぶい黄	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。	10C I
第3-48回 Pl.31	31	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部上位片	口 22.0 跨 25.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。	10C I
第3-48回 Pl.32	32	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部	口 20.0 跨 23.5	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。跨は貼付。内面は底部から 胴部にヘラナデ。	10C I
第3-48回 Pl.33	33	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部	口 21.0 跨 24.7	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。跨は貼付。胴部下平縦位ヘ ラ削り。胴部内面ヘラナデ。	10C I
第3-48回 Pl.34	34	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 床+10cm 口縁部～跨片	口 18.2 跨 21.8	細砂粒/還元焼き み/にぶい黄	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。	10C I
第3-49回 Pl.26	35	須恵器 土製品 埴輪	8号竪穴建物 カマド 口縁部～胴部	口 18.0 跨 22.1	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。跨は貼付。胴部内面ヘラナデ。	10C I
第3-49回 Pl.26	36	土製品 埴輪	8号竪穴建物 カマド 一部欠損	残 26.0 厚 12.0 長 16.0	細砂粒・粗砂粒/ 不良/にぶい黄橙	残存する面はやや凹凸の残る整形。内面間面をやや斜め に貫通する径2cmほどの穿孔。焼成は不完全な状態。	10C I
第3-49回 Pl.26	37	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 床+8～20cm 胴部～底部	底 7.0	片岩大粒・粗砂粒/ 還元焼きみ/にぶい 黄～灰	ロクロ整形。胴部下平ヘラ削り。内面は底部から胴部に ヘラナデ。底部と右側の接合部強引ナデ。	底部欠損 10C I
第3-49回 Pl.26	38	灰輪陶器 皿	8号竪穴建物 攪乱 1/3	口 12.2 台 6.5 7.0 高 2.5	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後周開を ナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯 式期
第3-49回 Pl.26	39	灰輪陶器 甕	8号竪穴建物 埋設土 口縁部～体部片	口 17.0	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯 式期
第3-49回 Pl.26	40	灰輪陶器 甕	8号竪穴建物 埋設土 口縁部片	口 16.0	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法不明。	大原2号窯 式期～虎浜 山1号窯式 期
第3-49回 Pl.26	41	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 床+2～30cm 口縁部～胴部	口 19.0 跨 21.3	小礫・粗砂粒/酸 化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。跨は貼付。胴部外面跨下平 まで縦位ヘラ削り。胴部内面にヘラナデ。	月夜野型 10C I
第3-49回 Pl.26	42	鉄滓 羽口	8号竪穴建物 埋設土 破片	長 4.6 厚 2.4 短 3.0	2.3	先端部分の一部が残存。融解した鉄滓が付着している。 ややさが含まれる。胎土は密。	
第3-49回 Pl.26	43	鉄滓	8号竪穴建物 埋設土 破片	長 4.0 厚 1.8 短 3.0 重 15.0		小型の薄片が3点同ヶ所から出ている。材質は密。2 点はやや底部が丸くなる。	
第3-49回 Pl.26	44	鉄製品 釘	2号掘立柱建物 埋設土 ほぼ完成形	長 6.0 厚 0.6 1.4 重 7.1		木質が付着し、木繊維は横方向。頭部は欠損している。	
第3-49回 Pl.26	45	灰輪陶器 皿	2号竪穴状遺構 床+12cm 1/4	口 13.4 台 6.5 7.2 高 2.3	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯 式期
第3-49回 Pl.26	46	須恵器 羽釜	2号竪穴状遺構 床+12cm 口縁部～跨片	口 24.8 跨 28.4	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。	10C前
第3-49回 Pl.26	47	残貨 治平元寶	2号竪穴状遺構 埋設土 完成形	外 2.368 厚 0.169 内 1.950 重 3.3		真書体。やや全体は劣化がみられるが、背ともに文字、 輪、郭は明瞭。	

## 第3章 確認された遺構と遺物

採 掘 PL.No.	No.	種 類 種 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考		
第3-50図	48	須恵器 釉	3号壺穴状道溝 床+3~9cm 口縁部~体部片	口	11.8		細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロク口整形、回転は右回り。	10C前	
第3-50図 PL.26	49	須恵器 釉	3号壺穴状道溝 床+10~11cm 口縁部~底部片	口	12.2 6.7	5.6 4.5	細砂粒/還元塩/暗 灰	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付。	10C前	
第3-50図	50	須恵器 釉	4号壺穴状道溝 埋設上 底部片	口 底	8.0 8.0		微砂粒/還元塩/灰 黄	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。胎土不明。内面に重焼き痕が見える。	大原2号窯 式明	
第3-50図 PL.26	51	龍泉窯系青 磁 釉	5号壺穴状道溝 埋設上 体部下位破片	口	底	器 高	夾雑物なし/灰白	外面は片彫りによる筋連行文。内外面に青磁釉。	13-14世紀	
第3-50図 PL.26	52	龍泉窯系青 磁 釉	5号壺穴状道溝 埋設上 口縁部破片	口	底	器 高	夾雑物なし/灰白	外面は片彫りによる筋連行文。内外面に青磁釉。	13-14世紀	
第3-50図 PL.26	53	龍泉窯系青 磁 釉	5号壺穴状道溝 埋設上 体部破片	口	底	器 高	夾雑物なし/灰白	外面は片彫りによる筋連行文。内外面に青磁釉。貫入が 入る。	13-14世紀	
第3-50図 PL.26	54	土師器 杯	7号壺穴状道溝 床+2~10cm 口縁部~底部片	口	12.2 8.5		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。	9C後	
第3-50図	55	須恵器 杯	7号壺穴状道溝 床+2~5cm 口縁部~底部片	口	13.0 7.8	3.5	細砂粒/還元塩/灰 黄	ロク口整形、回転は右回り。底部はヘラナデか。	9C後	
第3-50図 PL.26	56	須恵器 釉	7号壺穴状道溝 床+2~5cm 口縁部~底部片	口	15.2 8.2	7.0	細砂粒/還元塩/灰 黄	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。	9C後	
第3-50図 PL.26	57	須恵器 杯	7号壺穴状道溝 床+2~5cm 口縁部~底部片	口	13.0 6.2		細砂粒/還元塩/灰 黄	ロク口整形、回転は右回り。底部は器面厚減のため整形 不明。	9C後	
第3-50図 PL.26	58	須恵器 釉	7号壺穴状道溝 床+2~5cm 口縁部~底部片	口	14.7 6.8	4.7	細砂粒/還元塩/暗 灰黄	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	9C後	
第3-50図	59	須恵器 杯	8号壺穴状道溝 床+2cm 口縁部~体部片	口	11.8		細砂粒/還元塩/灰 黄	ロク口整形、回転は右回り。	10C後	
第3-50図	60	灰釉陶器 碗	9号壺穴状道溝 床面 1/4	口	15.2 7.7	7.2	微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。胎土方法は漬け掛付。	大原2号窯 式明	
第3-50図 PL.27	61	須恵器 羽釜	9号壺穴状道溝 床+0~14cm 1/4	口 跨	21.2 24.1	7.0 23.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/明黄橙	ロク口整形、回転は右回り。跨は貼付。胴部下平と底部 はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	10C前	
第3-50図	62	灰釉陶器 碗	10号壺穴状道溝 床+1cm 底部~体部	口	6.6 6.0		微砂粒/還元塩/灰 黄	ロク口整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。胎土方法不明。高台は退化した三日月状を呈する。	大原2号窯 式明	
第3-50図 PL.27	63	鉄製品 不明	10号壺穴状道溝 埋設上	長 幅	4.0 1.2	0.1 3.0		内部に空洞がある詳細不明の鉄製品。一方に口が広がり、 穴が空いているが、貫通はしていない。		
第3-50図 PL.27	64	龍泉窯系青 磁 皿	4号溝 埋設上 口縁部破片	口	底	器 高	夾雑物なし/灰白	口縁端部に上に尖り、口縁部は屈曲する。内外面に青磁釉、 貫入が入る。	13-14世紀	
第3-50図	65	古瀬戸 碗	4号溝 埋設上 口縁部破片	口	底	器 高	夾雑物微量/灰白	口縁端部は外側に尖る。内外面に灰釉。	14世紀~15 世紀	
第3-50図 PL.27	66	古瀬戸 碗	4号溝 埋設上 口縁部破片	口	(13.9)	器 高	夾雑物微量/灰白	口縁端部は外側に尖る。内外面に灰釉、細かな貫入が入る。	14世紀~15 世紀	
第3-50図 PL.27	67	滑潤陶器 甕	4号溝 埋設上 体部破片	口	底	器 高	白色片を含む/暗 灰黄	甕の胴部上半の破片で、体部外面に斜線格子文の押文印。 14世紀~15 世紀		
第3-51図 PL.27	68	滑潤陶器 すり鉢	4号溝 埋設上 口縁部片	口	底	器 高	夾雑物少量/にぶ い橙	口縁部内面はナデで、硬く焼き締まる。	15世紀	
第3-51図 PL.27	69	在地系土器 皿	4号溝 埋設上 完形	口	1.5 5.0	器 高	1.9	夾雑物少量/にぶ い黄橙	ロク口成形、底部は回転糸切り後無調整。口縁端部に炭化 物が付着、灯明皿として使用か。	15世紀中頃
第3-51図 PL.27	70	在地系土器 皿	4号溝 埋設上 口縁部~底部片	口	(8.4)	器 高	2.3	夾雑物少量/にぶ い黄橙	ロク口成形、底部は回転糸切り後無調整。	15世紀後半
第3-51図 PL.27	71	在地系土器 皿	4号溝 底-13cm 3/4	口	11.2 6.2	器 高	3.4	夾雑物少量/にぶ い黄橙	25の小片からなる。ロク口成形、底部は回転糸切り後無調整。	15世紀後半
第3-51図 PL.27	72	在地系土器 皿	4号溝 埋設上 2/3	口	(12.0)	器 高	3.1	夾雑物少量/にぶ い黄橙	13の小片からなる。ロク口成形、底部は回転糸切り後無調整。	15世紀後半

採 掘 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第3-518 PL.27	73	在地系土器 皿	4号溝 埋設上 2/3	口 底	(8.3) 器 5.4 高	1.8	夾雑物少量/にぶ い黄橙	ロクコ成形、底部は回転糸切後無調整。	15世紀後半
第3-518 PL.27	74	在地系土器 皿	4号溝 埋設上 完形	口 底	11.1 器 7.6 高	2.9	夾雑物少量/にぶ い黄橙	ロクコ成形、底部は回転糸切後にナデ。口縁端部に炭化物が付着、灯明皿として使用か。	15世紀末
第3-518 PL.27	75	在地系土器 皿	4号溝 埋設上 1/6	口 底	(10.9) 器 (7.6) 高	2.6	夾雑物少量/にぶ い黄橙	ロクコ成形、底部は回転糸切後、筋状にナデ。	15世紀末～ 16世紀
第3-518 PL.27	76	在地系土器 盤輪	4号溝 埋設上 1/6	口 底	(3.5) 器 (2.9) 高	2.2	夾雑物少量/にぶ い褐	硬質で焼締まる。表裏はナデ。	江戸時代か
第3-518 PL.27	77	肥前磁器 染付皿	4号溝 埋設上 高台部破片	口 底	(11.0) 器 高		夾雑物微量/灰白	底部内面の見込みに松などを描く、体部内面に植物の文様、体部外面に唐草様の文様が入り、体部下位に二重扇縁、高台境と高台、高台内に扇縁。	18世紀前半
第3-518 PL.27	78	鉄製品 釘	4号溝 埋設上 ほぼ完形	長 幅	6.7 厚 1.05 重	0.6 5.8		頭部は折られているが、やや欠損している。全体が劣化により剥離する。	
第3-518 PL.27	79	鉄製品 釘	4号溝 底+1cm 完形	長 幅	8.5 厚 1.4 重	0.7 12.9		脚部から折れ曲がっている。頭部は折られ、断面は四角形。	
第3-518 PL.27	80	硯?	4号溝 埋設上 破片	長 幅	(6.4) 厚 (12.6) 重	(1.7) 43.6	頁岩	頁岩だが、粘板岩に近いもので板状の節理が発達している石材。長方形。欠損部だが、打撃によって打ち割られたものではなく、削られたものと考えられる。通常磨石よりも角が明確に作ってあり、表面の左下の磨き面には曲線状の線状痕が多く認められるので墨を蓄った硯の可能性が高い。	
第3-518 PL.27	81	火打石	4号溝 埋設上 完形	長 幅	1.6 厚 2.2 重	1.2 3.8	石英	円錐を打ち割った割片素材利用。最小分割割片。表面頂部に打撃痕が残る。表面に1/2以上円錐の自然面残す。裏面は節理面。	
第3-528 PL.27	82	緑釉陶器 碗	7号溝 埋設上 体部破片				微砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクコ整形。釉調は透明感のある緑色に濃緑色が斑点状に混じる。	10C?
第3-528 PL.27	83	須恵器杯 羽蓋	21号溝 埋設上 口縁部破片				細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクコ整形。蓋は貼付。内面はヘラナデ。破損後蓋を打ち欠いている。	10C
第3-528 PL.27	84	常滑陶器 甕	1号井戸 埋設上 体部～底部	口 底	14.9 器 高		白色片を含む/に ぶい赤褐	体部外面は粗くヘラで削る。体部内面は摩耗している。底部は砂底を呈し、1mm大の黒～白色粗粒砂が目立つ。	14世紀前半
第3-528 PL.27	85	残貨 乳重元直	1号井戸 埋設上 3/4	外 内	2.386 厚 2.035 重	0.122 1.2		当十銭。758年初鑄となっており、他の遺物との関係から私鑄銭と考えられる。面、背ともに文、輪、郭が明確。	
第3-528 PL.27	86	鉄製品 釘	1号井戸 埋設上 ほぼ完形	長 幅	7.0 厚 2.15 重	0.45 8.9		体部の途中から二つ折りに折れ曲がっている。頭部は錆に覆われ観察できない。脚部が一部欠損。脚部近くの断面は四角形。	
第3-528 PL.27	87	鉄製品 平明	1号井戸 埋設上 完形	長 短	3.4 厚 2.6 重	0.8 10.6		耳環にも見えるが、断面が丸く切れ目部分が左右でずれている。形状は楕円形。	
第3-528 PL.27	88	龍泉窯系青 磁 碗	1号井戸 埋設上 体部破片	口 底	器 高		夾雑物なし/灰白	外面は片彫りによる筋連文。内外面に青磁焼。買入が入る。	13-14世紀
第3-528 PL.27	89	鉄滓 割口	1号井戸 埋設上 破片	長 短	4.8 厚 4.2 重	3.75 40.0		先端部の破片に融解した鉄滓が付着している。付着する鉄滓の性質はやや粗。	
第3-528 PL.27	90	常滑陶器 大口壺	2号井戸 埋設上 口縁部破片	口 底	器 高		赤色片を含む/に ぶい赤褐	口縁端部は外側に屈出し、上下に厚厚する。口縁部外面に自然釉が付着。	14世紀後半
第3-528 PL.28	91	常滑陶器 甕	2号井戸 埋設上 体部破片	口 底	器 高		白色片を含む/に ぶい赤褐	甕の胴部上半の破片で、体部外面に斜線格子文の押文印。	14世紀～15 世紀
第3-528 PL.28	92	在地系土器 内耳鍋	2号井戸 埋設上 口縁部～体部	口 底	(29.8) 器 高		夾雑物少量/にぶ い黄橙	口縁端部は平坦をなし、口縁部は外側に開く。口縁部と体部内面の境界は段をなす。内外面はヨコナデで炭素が吸着。	14世紀末
第3-528 PL.28	93	鉄製品 釘	4号溝 埋設上 完形	長 幅	6.4 厚 0.8 重	0.7 8.0		頭部が折れ、体部断面は四角形。脚部はやや粗くに覆われている。	
第3-528 PL.28	94	中世陶器 内 甕	6号土坑 埋設上 頸部片				細砂粒/還元焰/灰 黄褐	頸部にて頸部と口縁部を接合。口縁部は内外面ともヘラナデ。	
第3-528 PL.28	95	灰輪陶器 碗	10号土坑 埋設上 口縁部片	口 底	14.8 器 高		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクコ整形、回転は右回り。施輪方法は漬け掛け。	大原2号窯 式期
第3-528 PL.28	96	在地系土器 鍋	25号土坑 埋設上 口縁部から底部 片	口 底	(28.7) 器 (14.0) 高	14.4	夾雑物少量/黄褐	口縁端部は平坦をなし、口縁部は外側に弱く開く。内外面はヨコナデで外面は炭素が吸着し、体部外面下に炭化物が付着。	14世紀末

第3章 確認された遺構と遺物

採 掘 Pl.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 形 状 の 特 徴	備 考	
				底	厚	重				
第3-52回 Pl.28	97	須恵器 甕	33号土坑 埋設上 底部片	底	7.0		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は 貼付。内面底部に磨痕。	10C前	
第3-53回	98	須恵器 羽釜	40号土坑 底+2cm 口縁部～胴部上 位片	口 齊	23.2 27.8		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。手羽は貼付。	10C前	
第3-53回 Pl.28	99	灰釉陶器 甕	40号土坑 底+16cm 1/3	口 底	13.2 10.2	台 重	6.4 4.2	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。急軸は張り掛け。	大原2号窯 式期
第3-53回 Pl.28	100	磨石	40号土坑 埋設上 完形	長 幅	10.2 8.8	厚 重	4.3 533.7	黒色頁岩	やや扁平円盤利用。表裏両面とも磨面。裏面はほぼ全体と 表面の一部に敲打痕が残る。かなり使い込まれ、やや光 沢を持つ。周縁部に敲打痕明瞭。	
第3-53回 Pl.28	101	鉄製品 釘	119号ピット 底+2cm 破片	長 幅	4.5 1.2	厚 重	0.55 8.0		全体に錆に覆われる。頭の出は少なく、半ばほどから欠損。 体部断面は長方形。	
第3-53回 Pl.28	102	龍泉窯系青 磁 甕	2号型穴建物 埋設上 体部破片	口 底		器 高		夾雑物なし/灰白	内外面に青磁釉、貫入が入る。	13-14世紀
第3-53回 Pl.28	103	鉄製品 鍋口縁	2号型穴建物 埋設上 破片	縦 横	4.9 4.8	厚 重	0.3 38.3		口縁部と体部の一部が残存する。口縁は内側に口縁から 4cmほど下に段を持つ。	
第3-53回 Pl.28	104	古瀬戸か 皿	表上 1/3	口 底	5.7 4.0	器 高	1.4	夾雑物微量/淡黄	ロクロ成形、口縁部から体部内面に自然軸が付着。	13世紀～14 世紀か
第3-53回 Pl.28	105	在地系土器 皿	表上 1/3	口 底	(11.9) 7.8	器 高	3.3	夾雑物少量/にぶ い黄橙	ロクロ成形、底部は回転糸切後無調整。	15世紀後半
第3-53回 Pl.28	106	在地系土器 皿	表上 2/3	口 底	(8.6) 5.5	器 高	2.4	夾雑物少量/にぶ い黄橙	14の小片からなる。ロクロ成形、底部は回転糸切後無調整。 口縁端部に炭化物が付着。灯明皿として使用可。	15世紀後半
第3-53回 Pl.28	107	縄文土器 小片	1面 小片					細砂/良好/黄褐色	横位二重沈線の下に縦位の条線。内面平滑な横線で調整。	中期型式不 明
第3-53回 Pl.28	108	縄文土器 深鉢	2面 口縁部小片					粗砂/良好/赤褐色	隆帯の内側を二重沈線により施文し、穿孔部の周囲を二 重沈線で囲い隆帯で縁取った部位に、隆帯を縁取りとす る桶状部位が張り付く。穿孔部の部位の内面は剥離。楚 形頸型か。	中期前半型 式不明
第3-53回 Pl.28	109	石鏡	2面一括 ほぼ円形	長 幅	(1.9) (1.3)	厚 重	0.3 0.5	黒曜石	円基無果藤。横長割片素材。透明感のある頁岩の石材。 裏面に主要剥離面を残す。裏面に反りは無い。横断面 形は表面側がやや高い薄い凸レンズ状。両側欠損。	
第3-53回 Pl.28	110	打製石斧	2面包含層 ほぼ円形	長 幅	(9.2) 5.5	厚 重	1.6 78.7	黒色頁岩	指形。横長割片素材。打痕部分は除去されている。裏面 にも大きく第一次剥離面を残すが、自然面は無い。打痕 は除去されている。刃部使用痕は明瞭でかなり磨滅し、 光沢を持つ。右側縁上部着柄のための敲打痕あり。上 端一部欠損。	
第3-53回 Pl.28	111	石製品 石製品	2面下灰黄褐色 土表面 1/2?	長 幅	4.5 4.4	厚 重	(2.7) 63.2	砥沢石	現存部分は半球形。欠損しているので全体の形は不明。 欠損面以外は研磨によって整えられている。欠損面中央 に径8mmの貫通しない孔が開く。	

第3-16表 未掲載灰釉陶器集計

遺構	遺構時期	点数	器種不明	黒溝14号	黒物90号	光ヶ丘1号	大原2号	虎滝山1号	丸石2号	10C.代	不明
1号壑穴建物	10C.前半	2	椀				2				
2号壑穴建物	10C.前半	1	椀皿								1
3号壑穴建物	10C.前半	3	椀							3	
6号壑穴建物	10C.前半	1	椀皿				1				
7号壑穴建物	10C.前半	2	椀				1			1	
8号壑穴建物	10C.前半	1	椀				1				
1号壑穴状遺構		1	皿							1	
2号壑穴状遺構	10C.前半	3	椀				1			2	
3号壑穴状遺構	10C.前半	2	椀				2				
5号壑穴状遺構		2	皿							1	
			小皿							1	
7号壑穴状遺構	9C.後半	3	椀				1				
			皿							2	
8号壑穴状遺構	10C.後半	4	椀							4	
9号壑穴状遺構	10C.前半	2	椀							2	
2号井戸		3	皿							1	
			椀							2	
7号溝		3	椀							2	
			平皿			1					
15号溝		1	椀				1				
21号溝	10C.代	1	椀							1	
9号土坑		1	皿								1
39号ピット		1	椀				1				
遺構外		14	椀			1	4			7	
			皿							2	
	小計					2	15			32	2

第3-17表 剥片集計表

区	遺構名	石材	出土点数	総重量(g)	備考
1	2号壑穴状遺構	珉質頁岩	1	8.4	
1	10号壑穴状遺構	黒色頁岩	1	2.3	
1	1号溝	ホルンフェルス	1	17.8	
1	4号溝	細粒輝石安山岩	1	27.6	
1	10号溝	黒色頁岩	1	22.4	
1	表土	細粒輝石安山岩	1	2.4	
1	2面	黒色頁岩	1	22.9	

第3-18 未掘削遺物（中近世）  
 区 層位・遺構遺物 中 世

面	番号	種	中国磁器		国家産磁器		在地系磁器		在地系磁器不詳		国家産陶器		在地系その他瓦		近現代		ガラス	その他	不評土器類									
			点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量				点数	重量							
1	4	土坑									1	10	1															
1	6	土坑																										
1	12	土坑					1	20																				
1	12	土坑					7	12																				
1	14	土坑					2	6																				
1	25	土坑																										
1	53	ピツ					1	3																				
1	94	ピツ					2	2																				
1	115	ピツ					1	8																				
1	162	ピツ					1	6																				
1	171	ピツ					1	12																				
1	187	ピツ					3	20																				
1	1	溝					1	31																				
1	3	溝					1	2																				
1	4	溝					2	80	7	505	19	155	5	138														
1	7	溝					1	70	1	35	2	18																
1		灰黄土色調査区東																										
1		一括																										
1		一括																										
1		一括																										
1		一括																										
1		表土					2	30	48	220																		
1		表土					3	145	3	305																		
1		井戸					2	10																				
1		井戸					8	965	5	160																		
1		住居					2	210																				
1		住居																										
1		住居																										
1		墓穴					2	130																				
1		墓穴					1	175																				
1		墓穴					1	240																				
計			2	10	24	2179	21	1078	101	545	19	433	10	37	26	249	1	60	1	62	16	310	2	10	2	15	8	306

## 第3-19 未掲載遺物(古代)

遺物名	土師器				須恵器				施軸陶器		羽釜	黒色土器	
	小		大		小		大						
1号竪穴建物	7片	10g	3片	11g	4片	21g			3片	6g	1片	13g	
2号竪穴建物	2片	6g	136片	523g	46片	306g		5片	309g	1片	3g	1片	39g
3号竪穴建物	2片	19g	53片	485g	19片	236g				3片	22g	3片	86g
4号竪穴建物	5片	10g			11片	51g							
5号竪穴建物					6片	94g		4片	209g	1片	17g	1片	32g
6号竪穴建物					6片	34g		1片	35g	2片	14g		
7号竪穴建物	31片	181g			16片	92g				2片	6g	2片	55g
8号竪穴建物			2片	32g	21片	136g	1片	35g		3片	45g	119片	2818g
1号竪穴状道溝	2片	3g			1片	10g				1片	4g		
2号竪穴状道溝			34片	106g	13片	73g		3片	160g	1片	11g	1片	64g
3号竪穴状道溝			5片	9g	13片	72g				2片	13g	20片	457g
4号竪穴状道溝	1片	2g	2片	5g	1片	4g		1片	21g			2片	35g
5号竪穴状道溝	1片	2g	9片	63g	3片	15g				3片	22g		
6号竪穴状道溝					10片	60g				1片	13g	2片	27g
7号竪穴状道溝	9片	20g	40片	302g	12片	40g		3片	97g	3片	18g	13片	205g
8号竪穴状道溝	2片	6g	5片	55g	6片	30g				4片	16g	4片	71g
9号竪穴状道溝	2片	4g	5片	67g						2片	9g	5片	67g
10号竪穴状道溝			1片	10g	2片	12g							
1号井戸	5片	7g			2片	16g							
2号井戸	7片	14g			2片	16g		3片	378g	3片	13g	2片	26g
4号井戸			2片	8g									
1号溝					1片	6g							
2号溝	5片	11g			6片	41g		1片	31g	3片	4g		2片
3号溝					1片	3g							
4号溝	6片	14g	9片	41g	2片	21g		3片	82g			7片	102g
7号溝					5片	13g		1片	149g	3片	36g	1片	12g
9号溝	5片	8g			4片	43g		2片	51g			1片	16g
10号溝					3片	19g							
14号溝			1片	6g									
19号溝					2片	12g							
21号溝	17片	32g			3片	14g				2片	8g	3片	43g
1号土坑	1片	6g			3片	26g							
2号土坑	5片	11g										5片	49g
3号土坑	2片	8g											
4号土坑	1片	4g											
5号土坑	1片	1g			1片	4g		1片	13g				
6号土坑	1片	1g											
8号土坑	2片	4g											
9号土坑	2片	4g								1片	3g	2片	35g
10号土坑										1片	11g		
17号土坑					2片	35g						1片	11g
40号土坑	5片	16g			10片	103g		3片	14g			3片	150g
39号ビット										1片	3g		
120号ビット	1片	4g											
137号ビット								1片	28g				
203号ビット												1片	32g
2面A-4グリッド												2片	24g
2面C-5グリッド												1片	3g
2面C-6グリッド			1片	2g									
2面			1片	3g								5片	74g
確認面	3片	6g			1片	1g						4片	102g
1面												1片	23g
調査区東試掘	1片	3g	12片	22g	7片	37g		3片	45g	1片	2g	1片	28g
表土	9片	29g	124片	52g	38片	181g		12片	46g	10片	58g	39片	676g

大中小は想定器形の大中小に基づく。小は杯・椀・皿など、中は高環・小型壺など、大は甕・羽釜・壺など。  
左 破片点数、右 破片重量

## 第4章 まとめ

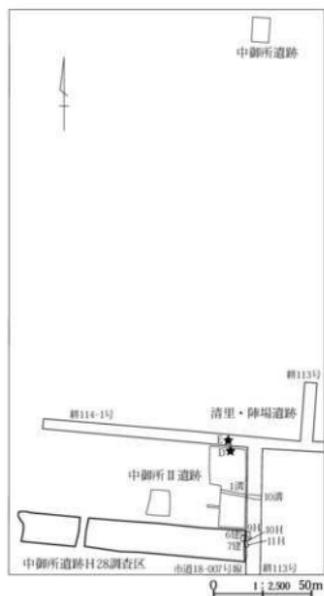
群馬県北群馬郡吉岡町大字陣場に所在する本遺跡は、昭和54年以来今回を合わせ都合4地点で発掘調査が行われている。このうち平成6年度の発掘調査(吉岡町教育委員会2001『中御所遺跡』)は遺跡北辺での調査であったが、平成6年度を除く3回の調査は遺跡東南部の近接した範囲を対象としている。また昭和54年度の発掘調査(当事業団1982『清里・陣場遺跡』)は調査対象地内の道路および水路予定地を発掘調査対象としており、当時の耕113号線は平成16年度発掘調査(吉岡町教育委員会2005『中御所Ⅱ遺跡』)と平成28年度発掘調査(本書)の調査範囲の東限を画する市道18-007号線に合致しており、隣り合う調査範囲を跨ぎ連なる遺構の存在が期待された。

昭和54年度の発掘調査は、調査対象地内の任意の地点を基点とする相対座標により調査結果が記録されている。また平成6年度と平成16年度の発掘調査は、調査に

際しての測量基点が報告されていない。そのため調査地点相互の位置関係については、それぞれの発掘調査報告書に掲載された遺跡位置図を吉岡町特定用途制限地域都市計画図に当てはめることでその所在を求めた。また『中御所Ⅱ遺跡』には中御所Ⅱ遺跡と清里・陣場遺跡の位置関係を明示する図面が掲載されており、両者の相対的な位置関係はこれに基づいている。こうして得られた各年度ごとの調査位置をまとめたものが第4-1図である。なお得られた図は相対座標に基づく個々の図面を組合せて配置したものであることから、殊に平成28年度調査区との位置関係については数m程度の誤差が想定される。

『中御所Ⅱ遺跡』に報告されている中御所Ⅱ遺跡1号溝と清里・陣場遺跡10号溝との関連は当然ながら確認されるものの、中御所Ⅱ遺跡と平成28年度調査区の両者に跨る遺構は確認されなかった。また、平成28年度調査区と清里・陣場遺跡としては平成28年度調査区7号竪穴建物と清里・陣場遺跡10号住居との間に同一遺構の可能性が認められるのであるが、7号竪穴建物の床面直上埋設土はAs-C、炭化物、焼土粒子を含む黒褐色土であるのに対し、10号住居からは炭化物、焼土粒子は確認されておらず、またそれぞれの床面の標高も7号竪穴建物191.08mに対し10号住居191.92mと0.8m程度の差異が存在する。

中御所Ⅱ遺跡1号溝の底面標高は190.60m、同一遺構とされる清里・陣場遺跡10号溝の底面標高は191.56m、標高差0.96mを測る。また市道18-007号線(耕113号線)沿いの竪穴建物の床面標高を各報告書から測りたすと、中御所Ⅱ遺跡191.16~191.49m(A)、清里・陣場遺跡191.82~192.13m(B)であり、平成28年度調査区では190.85~191.08m(C)である。全体に清里・陣場遺跡の標高値は他よりも高めの数値となっている。Aの値が得られた範囲はBやCの値が得られた範囲よりもやや標高の高まる山側の地点であり、Aの値がCの値より高めとなることに矛盾はない。しかしながら中御所Ⅱ遺跡と清里・陣場遺跡の近接した地点(第4-1図D、E)の遺構確認面の標高を比較すると中御所Ⅱ遺跡191.85m、清里・陣場遺跡192.80m、標高差0.95mとなっており、清里・陣場遺跡の標高値が高めの傾向にあることが確認される。



第4-1図 相対位置図

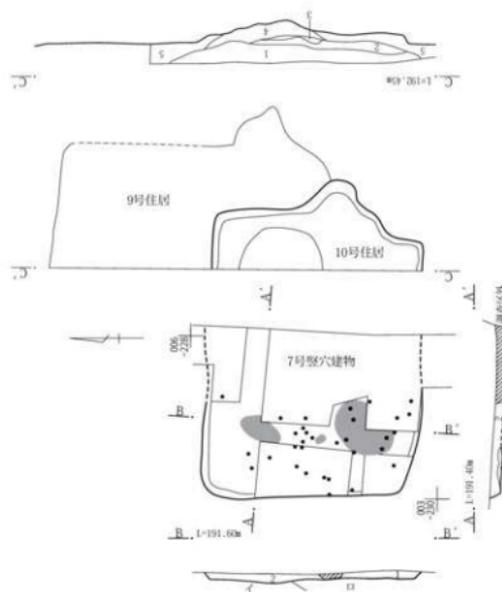
7号竪穴建物に隣接する6号竪穴建物の埋没土は、遺構の南北で床面直上埋没土が相違する。7号竪穴建物の埋没土に遺構の東西で相違があったとすれば、7号竪穴建物と10号住居の埋没土の違いに矛盾はなくなる。清里・陣場遺跡の標高値が0.9m程度高めに提示されており、前述の7号竪穴建物と10号住居の床面がほぼ差ない標高であると仮定し、7号竪穴建物と10号住居を同一の遺構とみなした場合の両者の位置関係を第4-2図に示す。この図を基に想定される建物規模を推定すると、3.83×2.59m、主軸方位N-93-Eと試算される。この縦横比は

およそ1.5である。中御所Ⅱ遺跡1号住居の縦横比は1.4であるが、平成28年度調査区の竪穴建物の縦横比が1.1から1.3程度であるのに対しやや縦長となる。前述したように、第4-1図は相対位置に基づいた図面配置であり、1m前後の誤差は含まれる。耕113号線予定地に対する清里・陣場遺跡の調査範囲の設定幅は、市道18-007号線の幅員よりもやや広めに設定されていたと推測されるため、清里・陣場遺跡と平成28年度調査区の間隔は、第4-1図で想定した間隔よりも狭かったと推察される。

第4-1図 市道18-007号線沿いの竪穴建物

清里・陣場遺跡	標高(m)	縦横比	中御所Ⅱ遺跡	標高(m)	縦横比	H28調査区	標高(m)	縦横比
8号住居	192.13	—	1号住居	191.16	1.4	1号竪穴建物	190.85	—
9号住居	192.04	—	4号住居	191.49	0.8	2号竪穴建物	191.01	1.3
10号住居	191.92	—	5号住居	191.38	—	3号竪穴建物	190.98	1.2
11号住居	192.13	—				4号竪穴建物	190.93	—
15号住居	191.82	—				5号竪穴建物	191.06	1.1
						6号竪穴建物	191.05	—
						7号竪穴建物	191.08	—
平均	192.01	—	平均	191.34	1.1	平均	190.99	1.2

註 10号住居のレベルは報告書記載のままである。



#### 10号住居

- 1 黒褐色土 小軽石を含む固い層。
- 2 黒褐色土 灰を少量含む。
- 3 灰と焼土の混入土層。
- 4 黒褐色土 灰とロームブロックを含む。
- 5 黒色土 As-Cを含む、固い。

#### 7号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/1)φ2-10mmのAs-C、炭化物、焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1に近似。
- 3 2に近似、わずかに1より黒味が強い。
- イ 濃い黄褐色土(10YR5/4)
- ロ 黒褐色土(10YR3/2)軽石なし。

第4-2図 7号竪穴建物と10号住居

## 報告書抄録

書名ふりがな	なかごしよいせき
書名	中御所遺跡
副書名	(一) 南新井前橋線バイパス(2期工区) 社会資本総合整備(活力・重点) 事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	686
編著者名	佐藤元彦
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	令和3年3月23日
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	なかごしよいせき
遺跡名	中御所遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんきたぐんまぐんよしおかまちじんば
遺跡所在地	群馬県北群馬郡吉岡町陣場109B, 171-2B, 171-1B番地
市町村コード	10345
遺跡番号	0138
北緯(世界測地系)	362547.14
東経(世界測地系)	1390018.42
調査期間	20170101-20170331
調査面積	1,978
調査原因	興道整備
種別	集落
主な時代	平安/中近世
遺跡概要	集落—平安—竪穴建物8+竪穴状遺構8+溝10+土坑1+ピット3/中近世—掘立柱建物4+竪穴状遺構2+溝4+井戸3+土坑6+ピット4/その他—縄文—ピット1/不明—ピット列4+溝8+井戸1+土坑31+ピット142
特記事項	矩形の溝や築研堀が検出されており、中世の環濠集落や居館の可能性が指摘されている。
要約	榛名山東南麓に位置する平安時代から中近世に至る集落遺跡。周辺には城館が多く存在する、中世桃井氏の拠点地域に営まれた遺跡。

# 写真図版





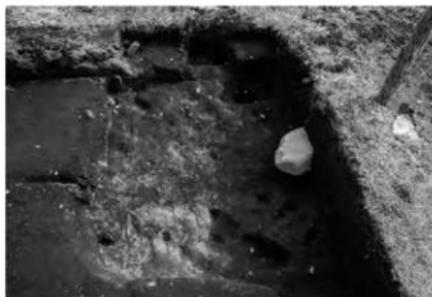
1 中御所遺跡平成28年度調査区(上空より)



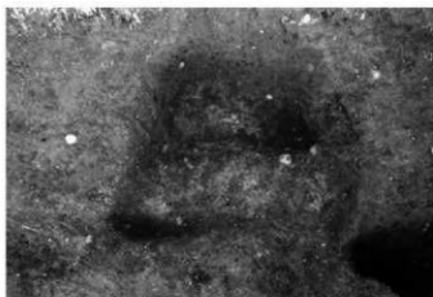
2 調査区1面東半(上空より)



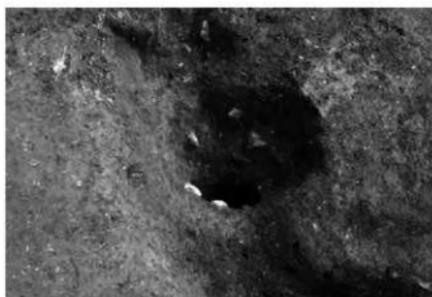
1 1号竪穴建物(西から)



2 1号竪穴建物掘り方(西から)



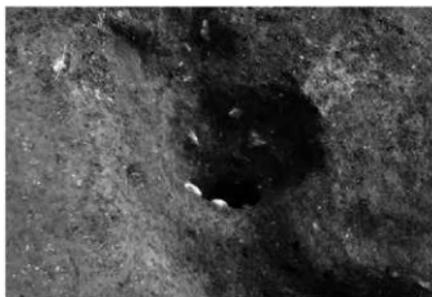
3 1号竪穴建物カマド(西から)



4 1号竪穴建物貯蔵穴(西から)



5 1号竪穴建物貯蔵穴土層断面(西から)



6 1号竪穴建物P1(西から)



7 2号竪穴建物(西から)



8 2号竪穴建物カマド(南から)



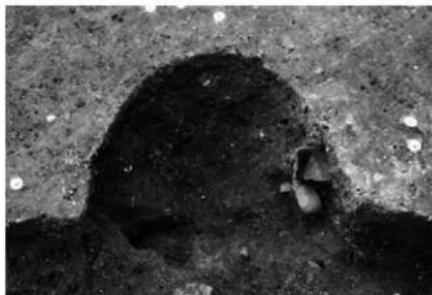
1 3号竪穴建物(北から)



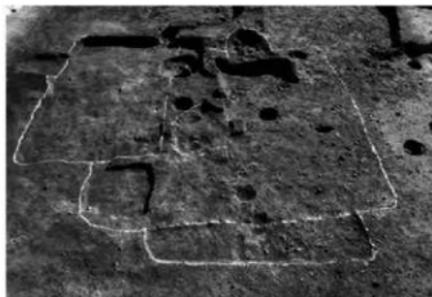
2 3号竪穴建物遺物出土状況(北から)



3 3号竪穴建物カマド土層断面(北から)



4 3号竪穴建物カマド振り方(北から)



5 5号竪穴建物(西から)



6 5号竪穴建物カマド(西から)



7 6号竪穴建物(東から)



8 6号竪穴建物遺物出土状況(東から)



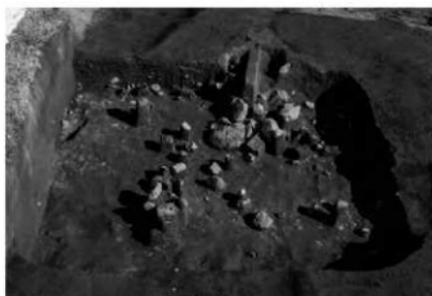
1 7号竪穴建物(東から)



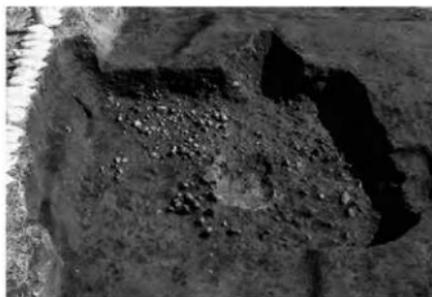
2 7号竪穴建物遺物出土状況(東から)



3 8号竪穴建物(西から)



4 8号竪穴建物遺物出土状況(西から)



5 8号竪穴建物掘り方(西から)



6 8号竪穴建物カマド(西から)



7 8号竪穴建物カマド石組み下部(西から)



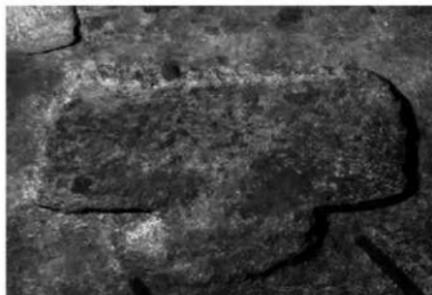
8 8号竪穴建物カマド構築状況(南西から)



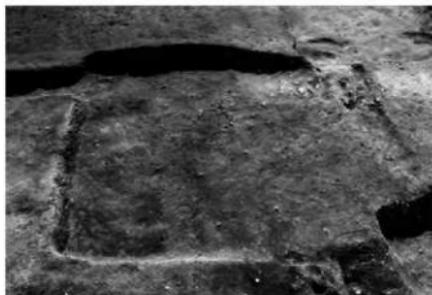
1 8号竪穴建物カマド構築状況(北西から)



2 8号竪穴建物カマドの礎(南西から)



3 1号竪穴状遺構(南から)



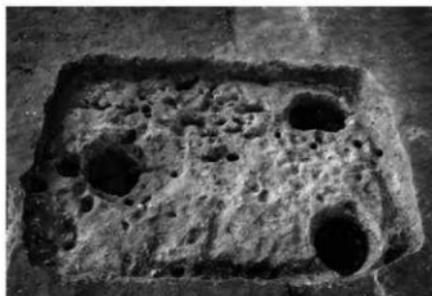
4 2号竪穴状遺構(北から)



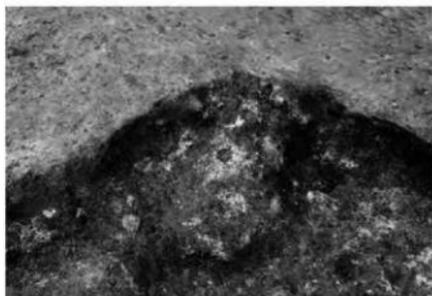
5 3号竪穴状遺構(東から)



6 3号竪穴状遺構遺物出土状況(東から)



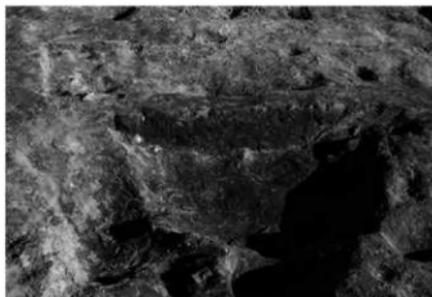
7 3号竪穴状遺構掘り方(東から)



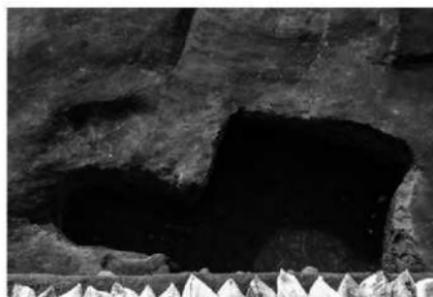
8 3号竪穴状遺構焼土(西から)



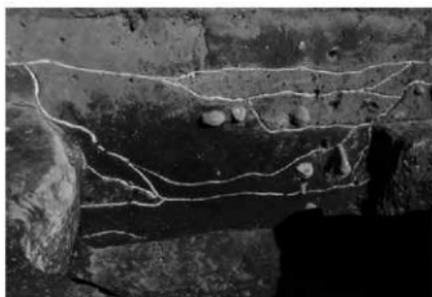
1 3号竪穴状遺構P3土層断面(南から)



2 3号竪穴状遺構床下土坑土層断面(南から)



3 4号竪穴状遺構(北から)



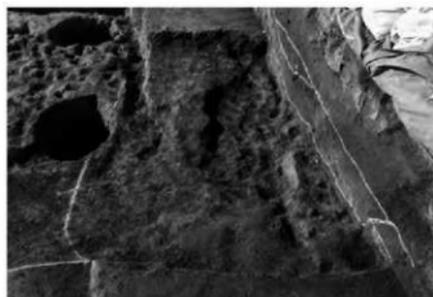
4 4号竪穴状遺構土層断面(南から)



5 5号竪穴状遺構(南から)



6 5号竪穴状遺構掘り方(北から)



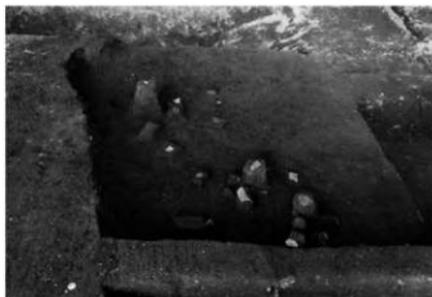
7 6号竪穴状遺構(東から)



8 6号竪穴状遺構土層断面(南から)



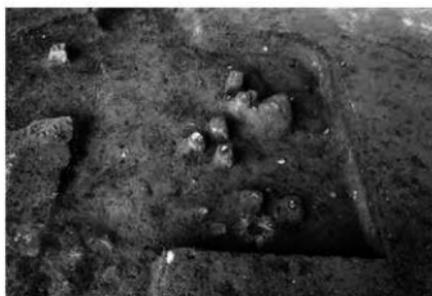
1 7号竪穴状遺構(東から)



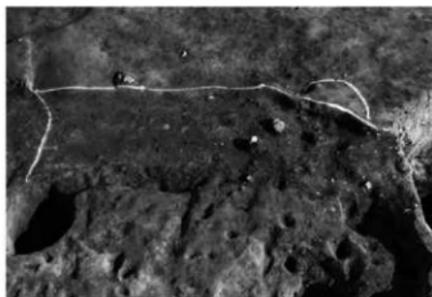
2 7号竪穴状遺構遺物取上状況(南から)



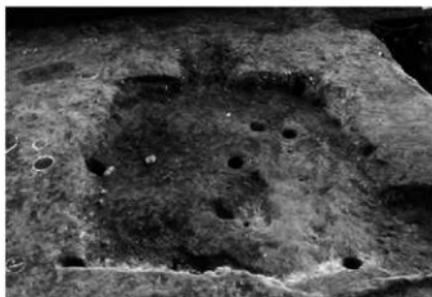
3 8号竪穴状遺構(北から)



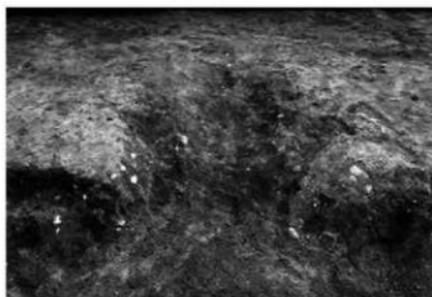
4 8号竪穴状遺構遺物取上状況(南から)



5 9号竪穴状遺構(西から)



6 10号竪穴状遺構(北から)



7 10号竪穴状遺構出入口部(北から)



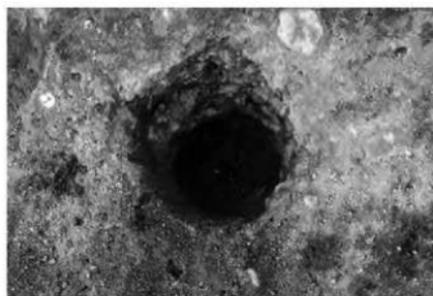
8 10号竪穴状遺構P1(北から)



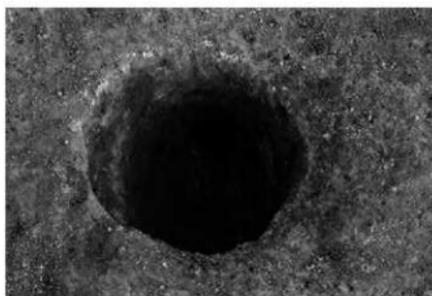
1 10号竪穴状遺構 P 2 (北から)



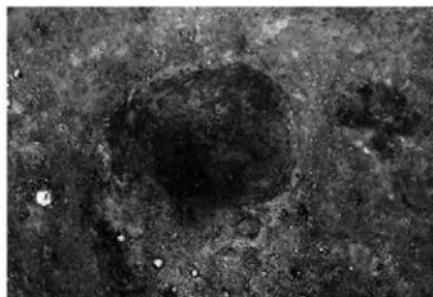
2 10号竪穴状遺構 P 3 (北から)



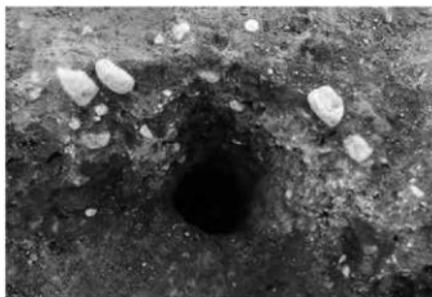
3 10号竪穴状遺構 P 4 (北から)



4 10号竪穴状遺構 P 5 (北から)



5 10号竪穴状遺構 P 6 (北から)



6 10号竪穴状遺構 P 7 (北から)



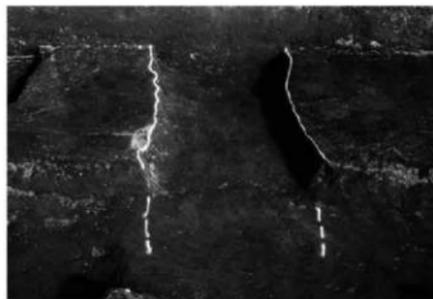
7 10号竪穴状遺構 P 8 (北から)



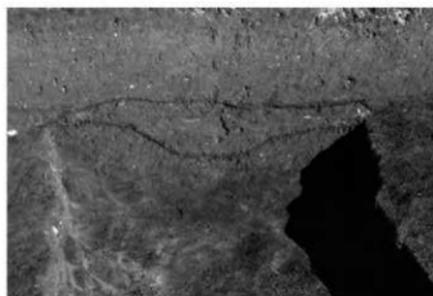
1 調査区1面中央(上空より)



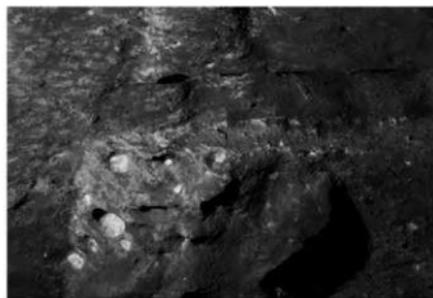
2 調査区1面西端(上空より)



1 1号溝(南から)



2 1号溝土層断面(南から)



4 2号溝土層断面(南から)



5 4号溝(北西から)



3 2号溝(北から)



6 3号溝(南から)



1 4号溝北側土層断面(東から)



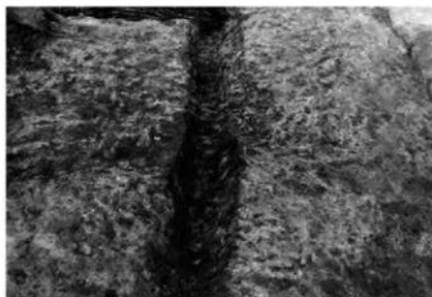
2 4号溝南側土層断面(北から)



3 4号溝南側(北から)



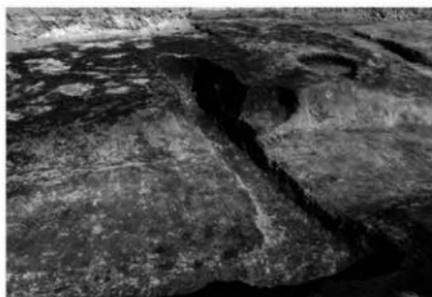
4 4号溝北端(北から)



5 5号溝(南から)



6 6号溝(北から)



7 7号溝(東から)



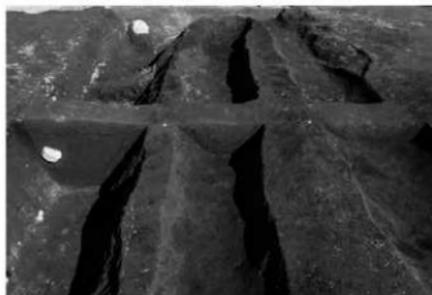
8 7号溝土層断面(南から)



1 7～9号溝南側(東から)



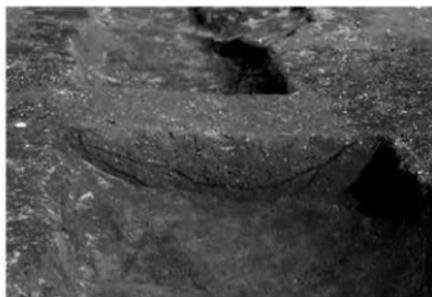
2 7～9号溝南側(西から)



3 7～9号溝土層断面(南から)



4 7～9号溝北側(北から)



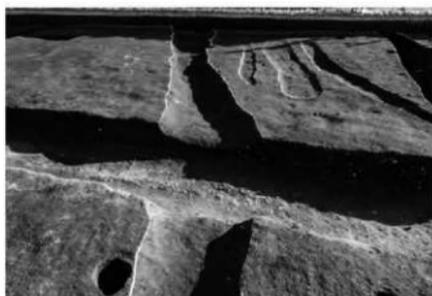
5 8号溝土層断面(南から)



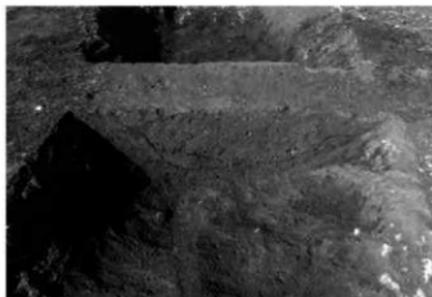
6 8・9号溝土層断面(南から)



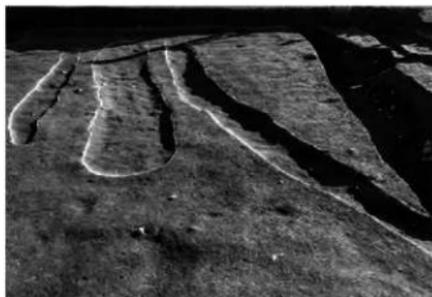
7 9号溝土層断面(北から)



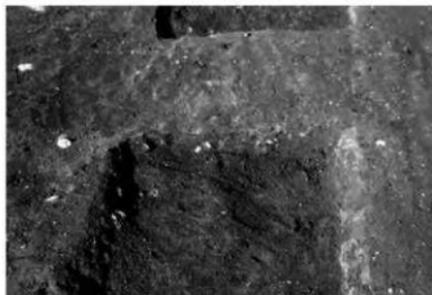
8 10～13号溝(北から)



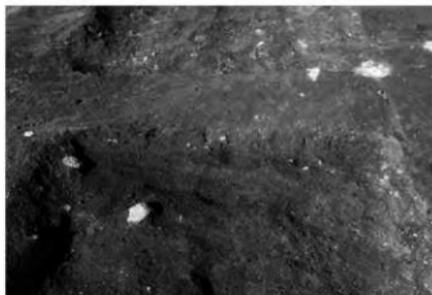
1 10号溝土層断面(南から)



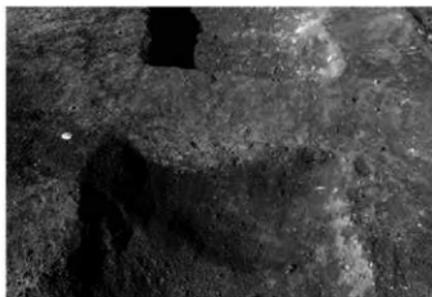
2 11~13号溝(北から)



3 11号溝土層断面(南から)



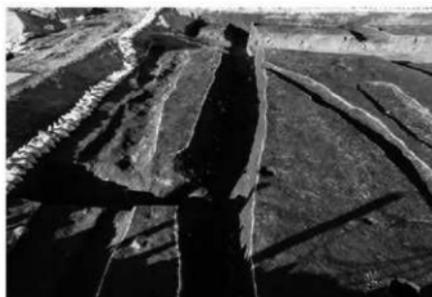
4 12号溝土層断面(南から)



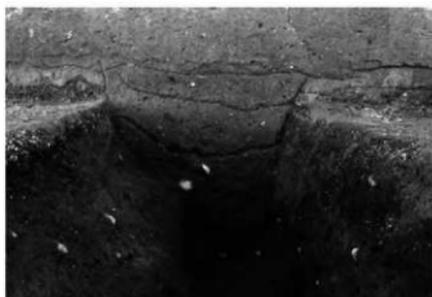
5 13号溝土層断面(南から)



6 10~16号溝(北から)



7 14号溝(北から)



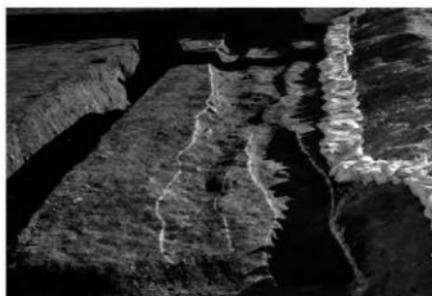
8 14号溝南端土層断面(北から)



1 14・21号溝土層断面(北から)



2 14号溝土層断面(南から)



3 15・16号溝(北から)



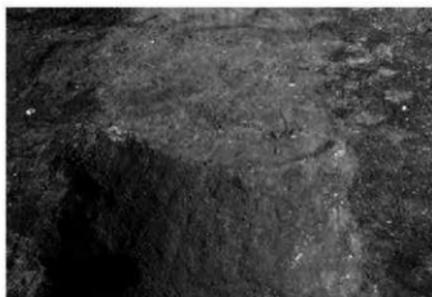
4 15・16号溝土層断面(北から)



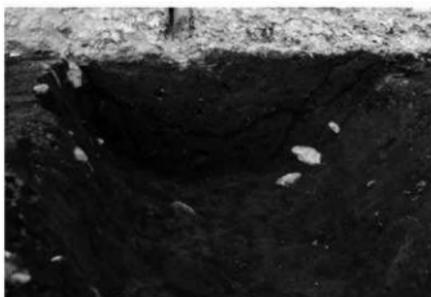
5 17・18号溝(西から)



6 17・18号溝(南から)



7 17号溝南側土層断面(東から)



8 17号溝北端土層断面(南から)



1 17・18号溝土層断面(南から)



2 19・22号溝(北から)



3 19号溝土層断面(南から)



4 22号溝土層断面(北から)



5 20号溝(北から)



6 20号溝土層断面(北から)



7 17・21号溝(北東から)



8 21号溝(西から)



1 21号溝土層断面(南から)



2 1号井戸(南から)



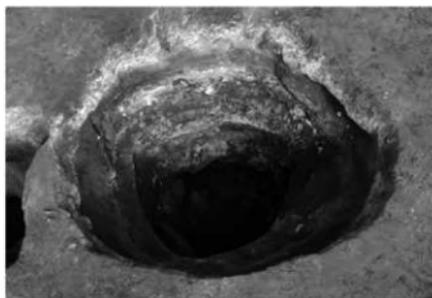
3 1号井戸(西から)



4 1号井戸下部(西から)



5 1号井戸土層断面(南から)



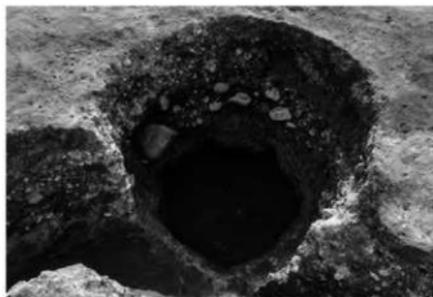
6 2号井戸(南から)



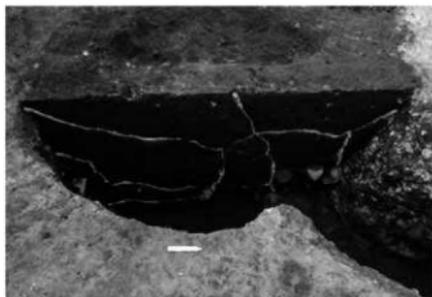
7 2号井戸(東から)



8 2号井戸土層断面(北から)



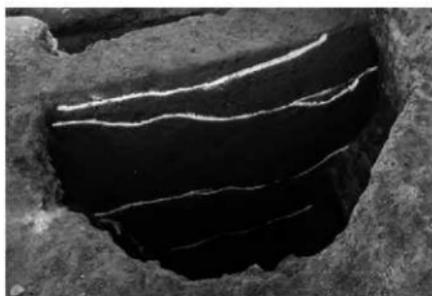
1 3号井戸(西から)



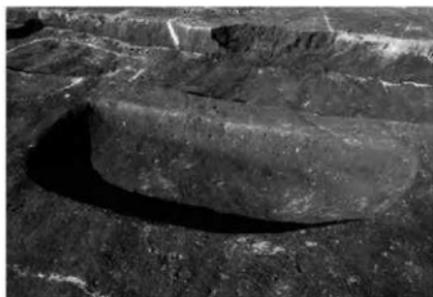
2 3号井戸土層断面(東から)



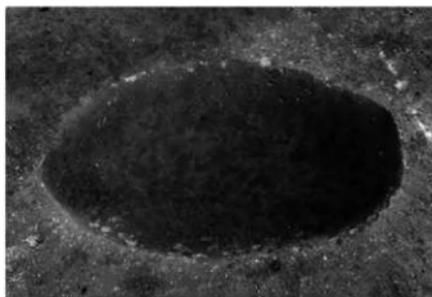
3 4号井戸(北から)



4 4号井戸土層断面(南から)



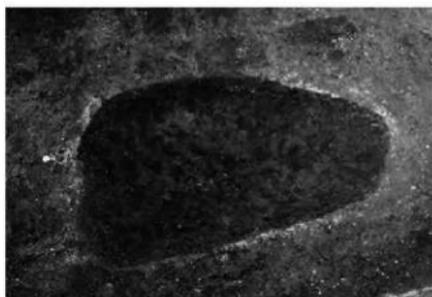
5 1号土坑(南から)



6 2号土坑(北から)



7 2号土坑土層断面(南から)



8 3号土坑(南から)



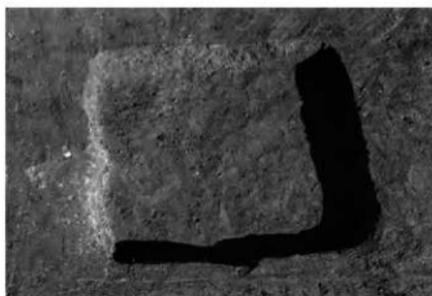
1 3号土坑土層断面(南から)



2 4号土坑(南から)



3 4号土坑土層断面(南から)



4 5号土坑(南から)



5 5号土坑土層断面(南から)



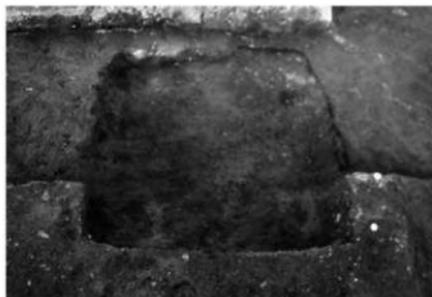
6 6号土坑(西から)



7 6号土坑土層断面(南から)



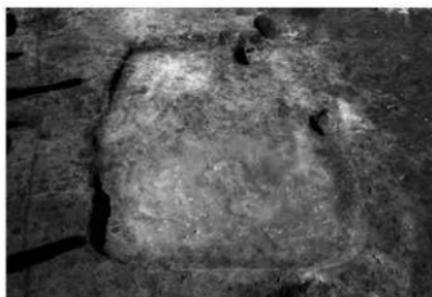
8 7号土坑土層断面(南から)



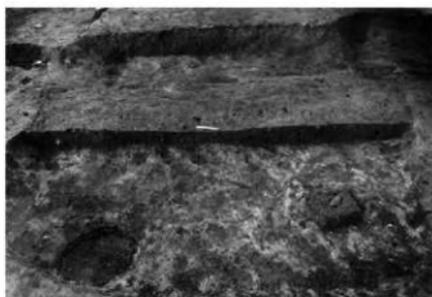
1 8号土坑(南から)



2 8号土坑土層断面(北から)



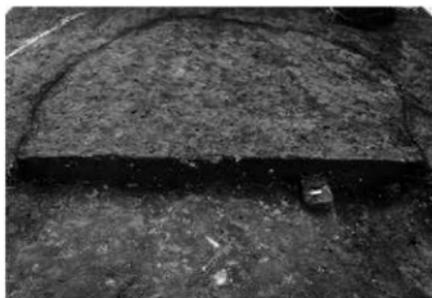
3 9号土坑(東から)



4 9号土坑土層断面(西から)



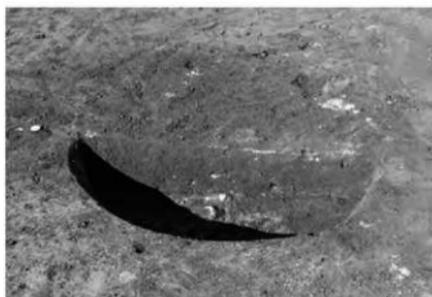
5 10号土坑(南から)



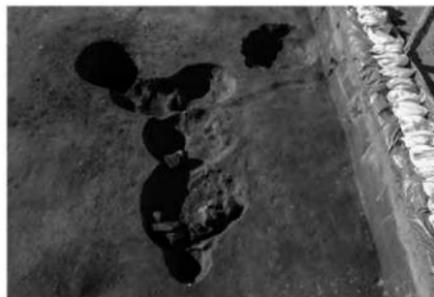
6 10号土坑土層断面(南から)



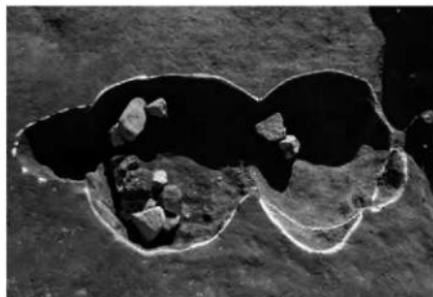
7 11号土坑(南から)



8 11号土坑土層断面(南から)



1 12~18号土坑(東から)



2 12・13・18号土坑(北から)



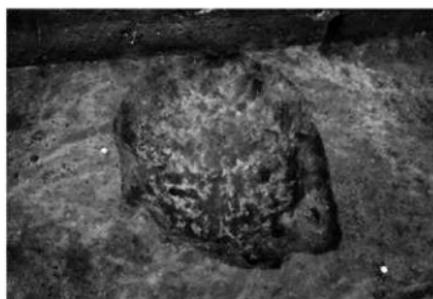
3 12・13・18号土坑土層断面(南から)



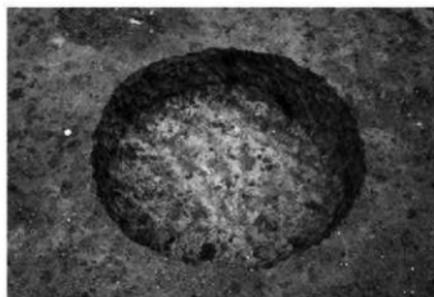
4 15~17号土坑(西から)



5 16・17号土坑土層断面(西から)



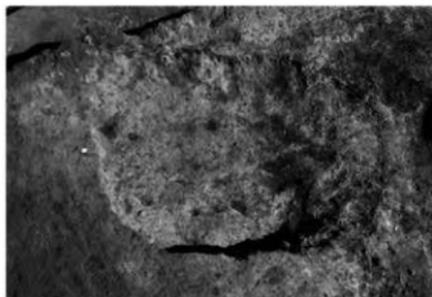
6 14号土坑(南から)



7 19号土坑(南から)



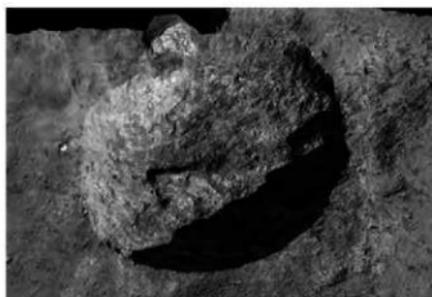
8 19号土坑土層断面(南から)



1 21号土坑(南から)



2 21号土坑土層断面(南から)



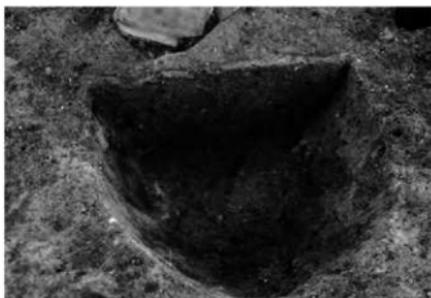
3 22号土坑(南から)



4 22号土坑土層断面(南から)



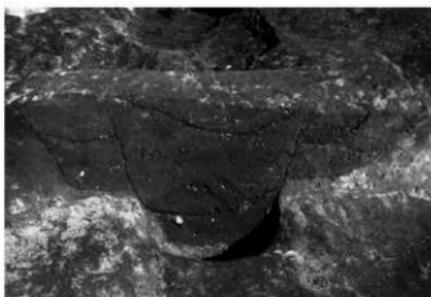
5 25号土坑(北から)



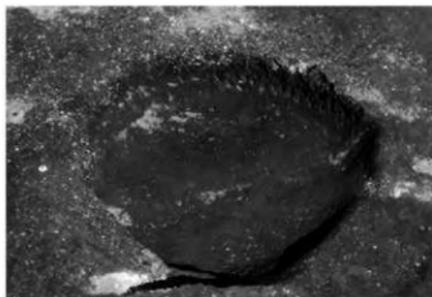
6 25号土坑土層断面(北から)



7 28号土坑(北から)



8 28号土坑土層断面(南から)



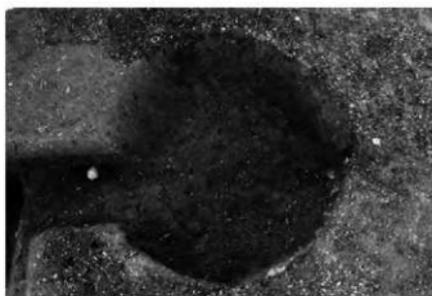
1 29号土坑(南から)



2 29号土坑土層断面(南から)



3 30号土坑(南から)



4 31号土坑(東から)



5 31号土坑土層断面(東から)



6 32号土坑(東から)



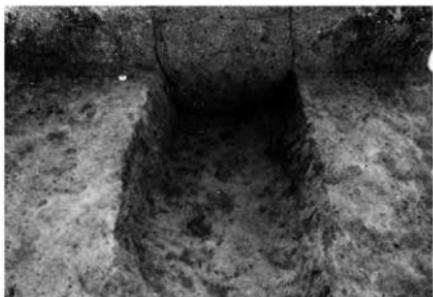
7 32号土坑土層断面(東から)



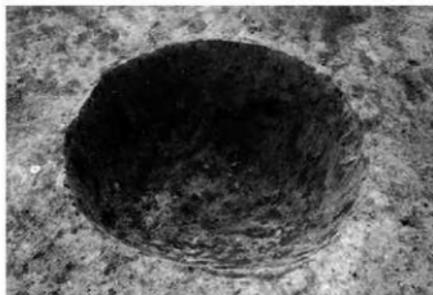
8 34号土坑土層断面(南から)



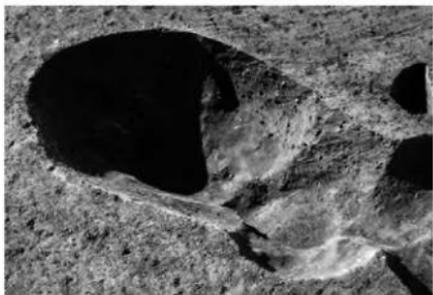
1 36号土坑(東から)



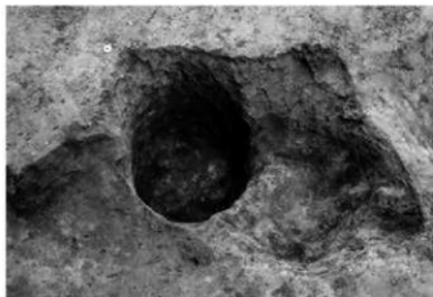
2 37号土坑(南から)



3 38号土坑(南から)



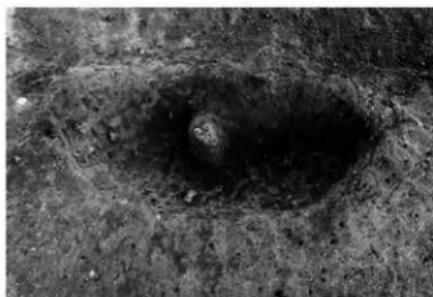
4 39号土坑(東から)



5 40号土坑(南から)



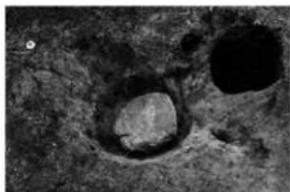
6 40号土坑遺物出土状況(南から)



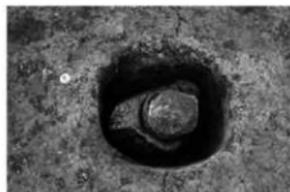
7 41号土坑(南から)



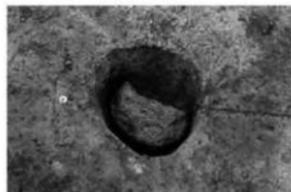
1 1号ビット(北から)



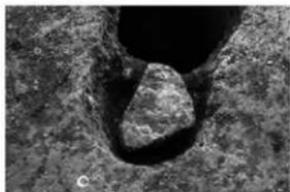
2 40号ビット(南から)



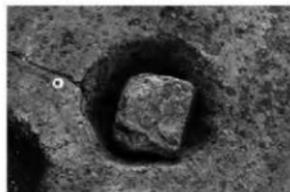
3 52号ビット(南から)



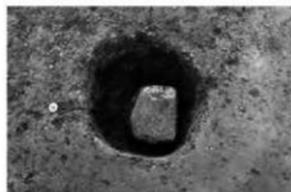
4 56号ビット(南から)



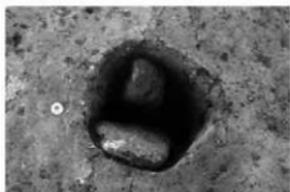
5 58号ビット(南から)



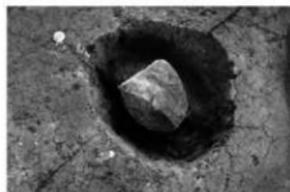
6 61号ビット(南から)



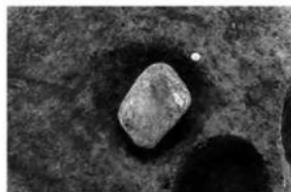
7 67号ビット(南から)



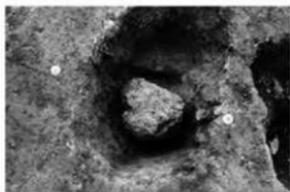
8 71号ビット(南から)



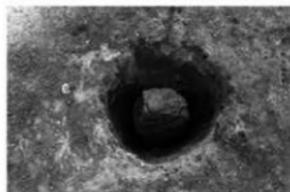
9 75号ビット(南から)



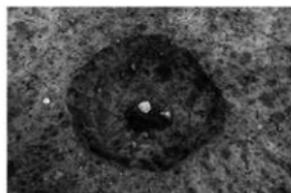
10 87号ビット(南から)



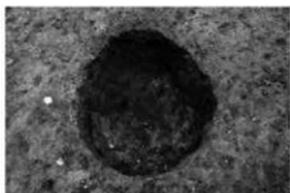
11 105号ビット(南から)



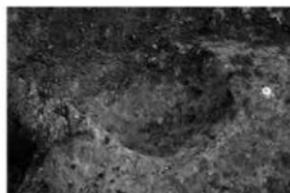
12 127号ビット(南から)



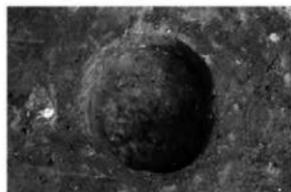
13 203号ビット(南から)



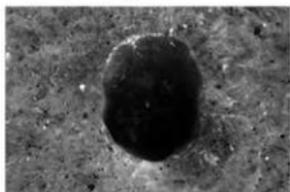
14 204号ビット(南から)



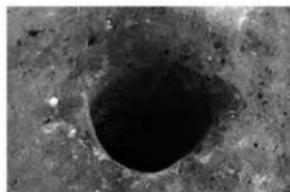
15 205号ビット(南から)



16 206号ビット(南から)



17 207号ビット(南から)



18 208号ビット(南から)

1号竪穴建物



3号竪穴建物



5号竪穴建物



6号竪穴建物



8号竪穴建物



出土遺物 1

# PL.26

8号竖穴建物



2号獨立柱建物



2号竖穴状遺構



3号竖穴状遺構



5号竖穴状遺構



7号竖穴状遺構



出土遺物 2

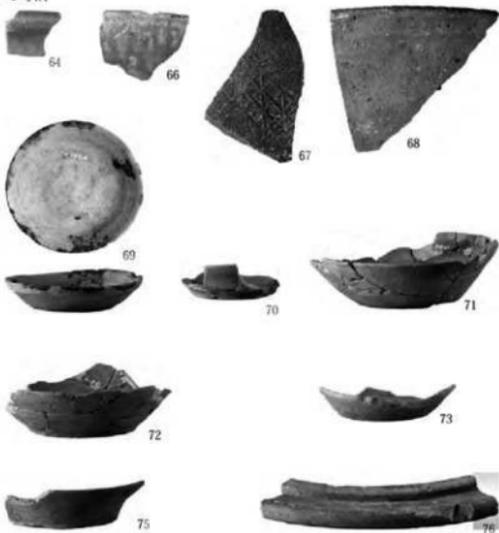
9号雙穴状遺構



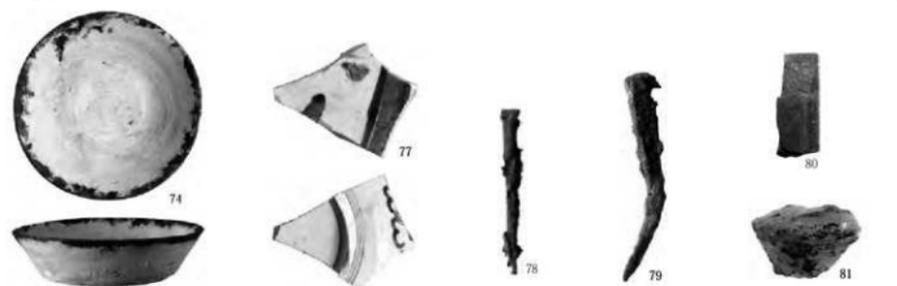
10号雙穴状遺構



4号溝



4号溝



1号井戸



PL.28

2号井戸



4号井戸



25号土坑



33号土坑



40号土坑



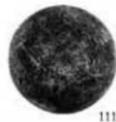
119号ピット



1面遺構外



2面遺構外



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第686集

## 中御所遺跡

(一)南新井前橋線バイパス(2期1工区)社会資本総合整備  
〔活力・重点〕事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和3(2021)年3月18日 印刷

令和3(2021)年3月23日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社間文社印刷所

